

富岡町 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復興庁
福島県
富岡町

富岡町 住民意向調査

報告書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 現在の住居形態	23
3-1-6 現在のペットの飼育状況	26
3-2 復興公営住宅の入居意向	27
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	27
3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成	31
3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス	35
3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態	37
3-2-5 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体	39
3-3 将来の意向	40
3-3-1 富岡町への帰還意向	40
3-3-2 富岡町との“つながり”を保ちたいか	45
3-3-3 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報	47

3-3-4	富岡町への帰還時期	52
3-3-5	富岡町へ戻る場合の家族	54
3-3-6	富岡町へ帰還する場合の住居形態	56
3-3-7	富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	59
3-3-8	富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	60
3-3-9	現時点で戻らないと決めている理由	62
3-3-10	帰還しない場合に居住したい自治体	65
3-3-11	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	67
3-4	意見・要望	68
IV	参考資料	87
4-1	使用調査票	89

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、富岡町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	富岡町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 7,775 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成26年8月8日（金）～平成26年8月22日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、富岡町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 3,979 世帯（有効回収率 51.2%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

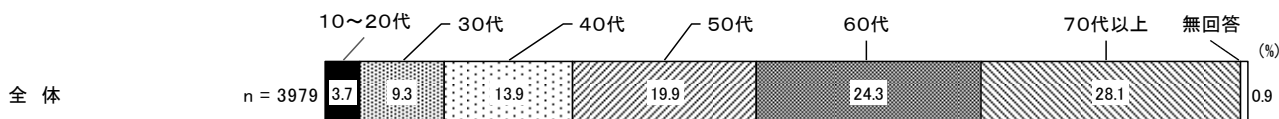
II 回答者の属性

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

(1) 年齢

<図表2-1-1>



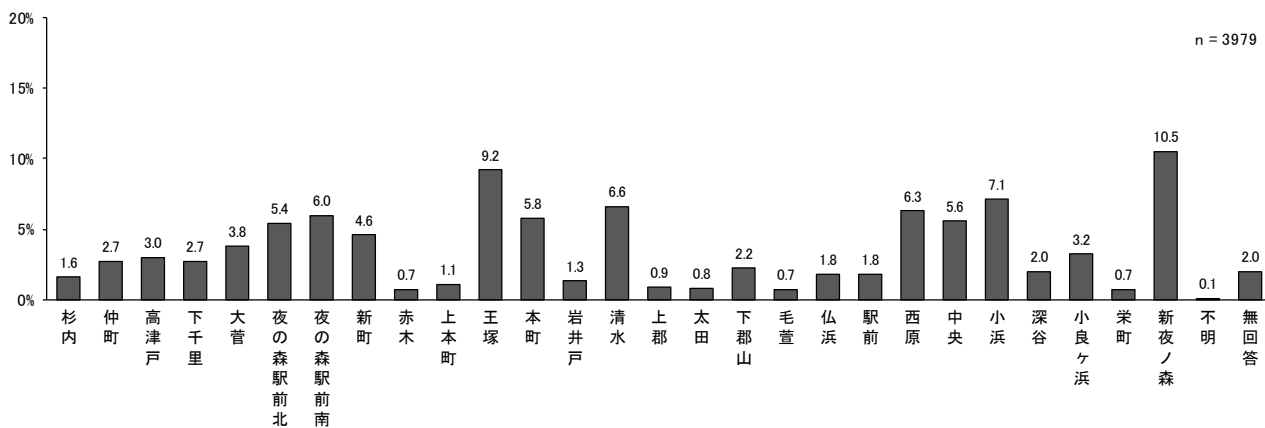
(2) 震災発生当時の住まいの避難指示区域

<図表2-1-2>



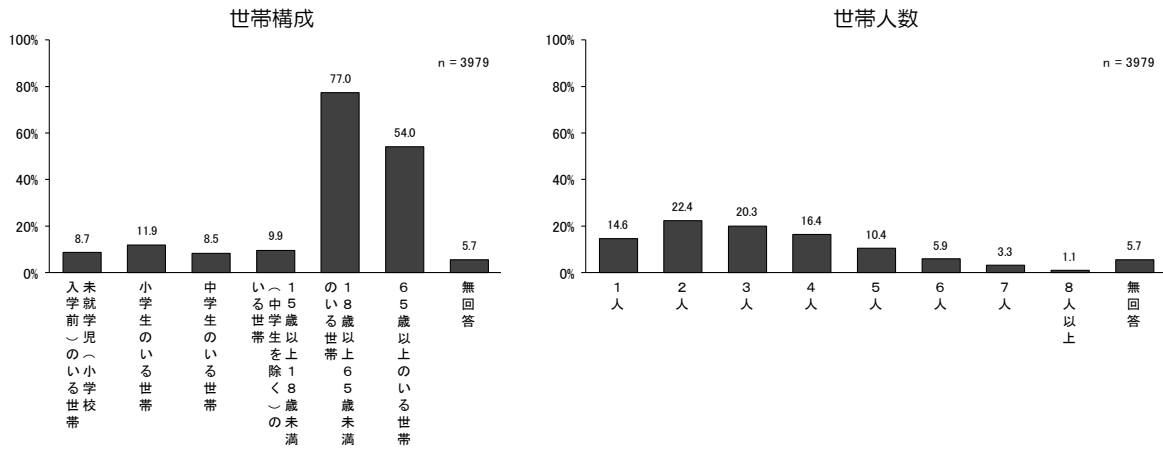
(3) 震災発生当時の行政区

<図表2-1-3>



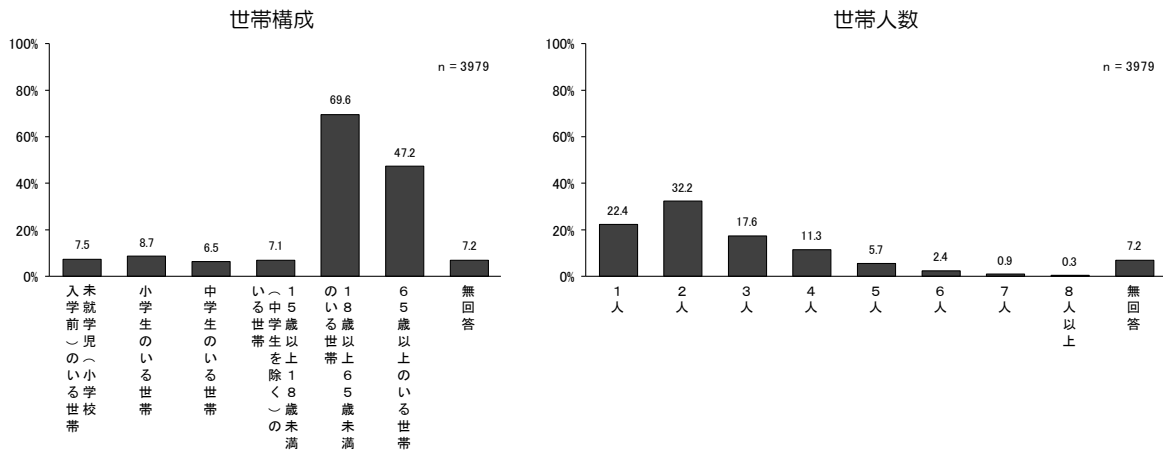
(4) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



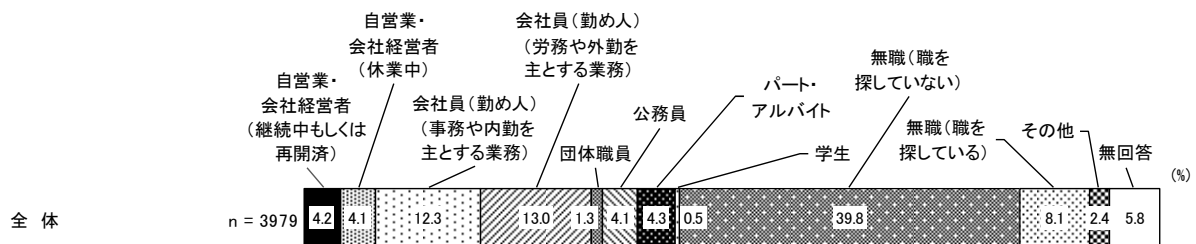
(5) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



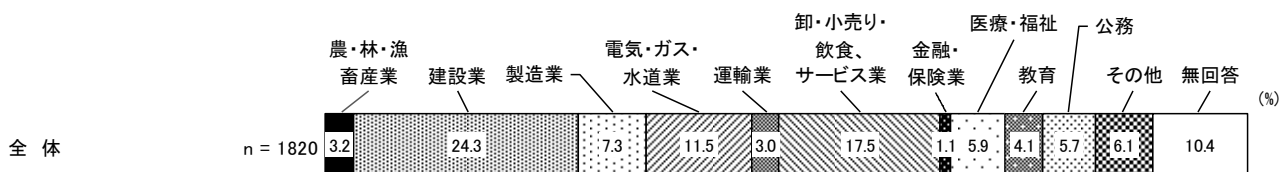
(6) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-6>



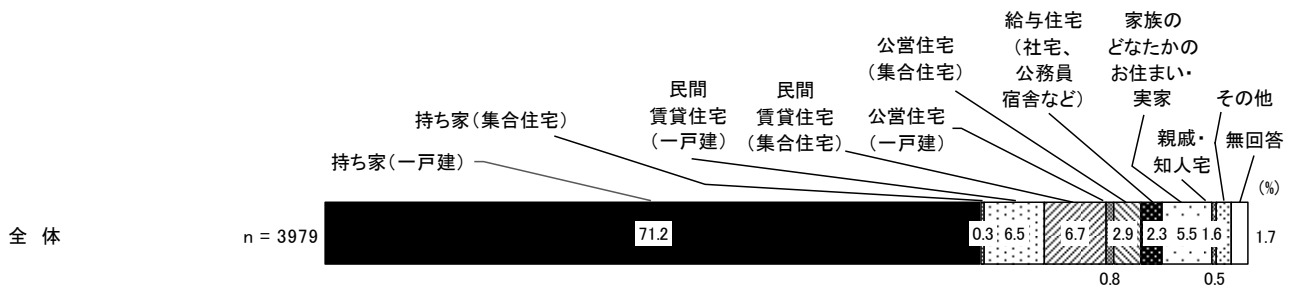
(7) 現在の職業（業種）

<図表2-1-7>



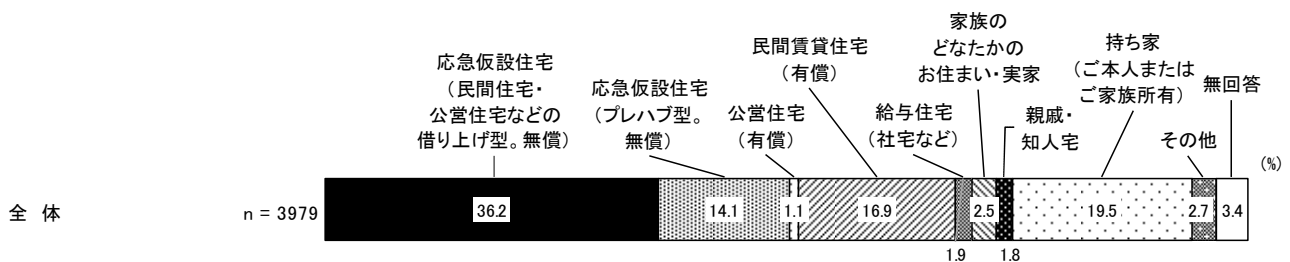
(8) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-8>



(9) 現在の住居形態

<図表2-1-9>



III 調査結果

3-1 現在の状況

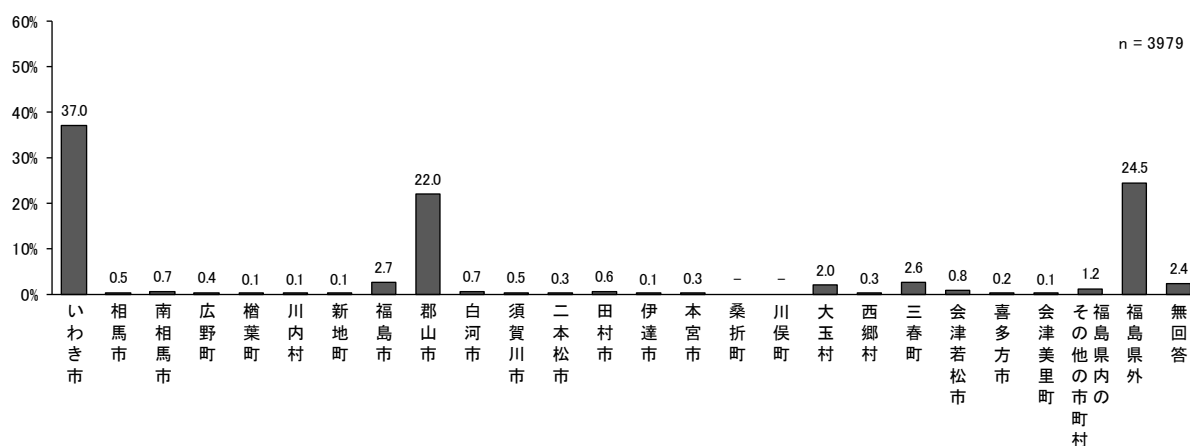
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

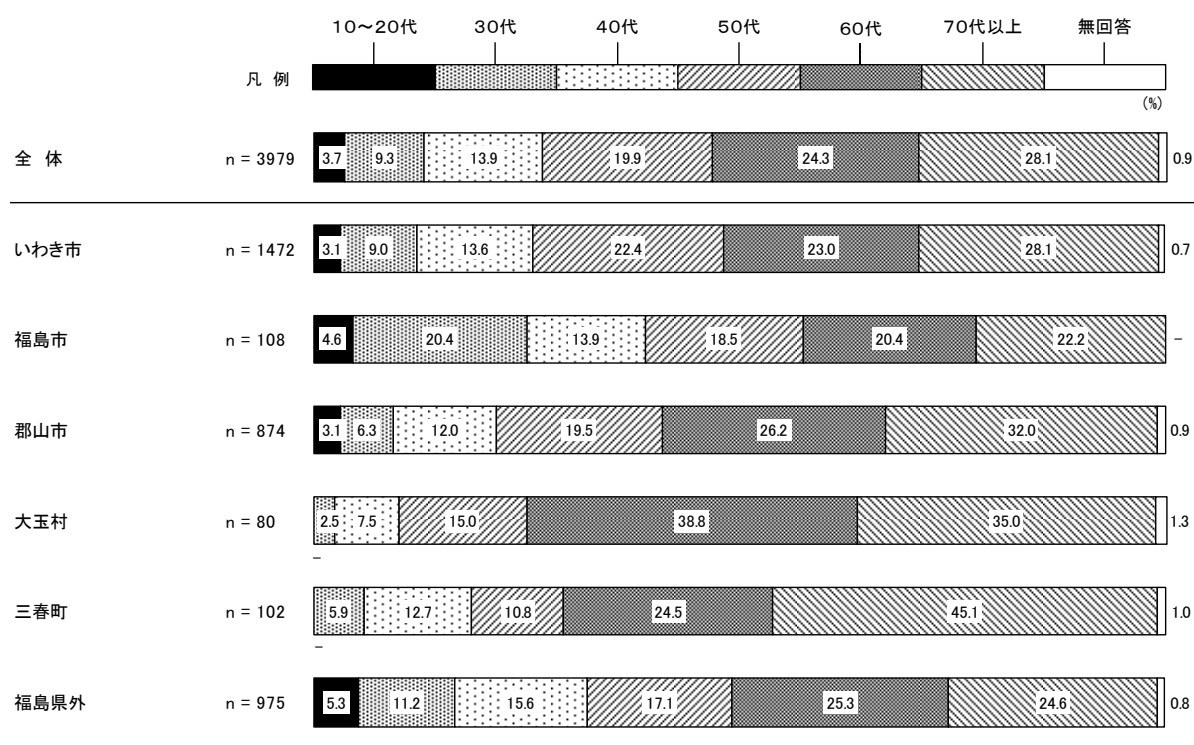
現在の避難先自治体については、「いわき市」が37.0%と最も高く、次いで「福島県外」が24.5%、「郡山市」が22.0%となっている。

主な避難先の自治体について、回答者の年齢別にみると、「大玉村」は60代以上(73.8%)で7割台半ば、「三春町」は60代以上(69.6%)で約7割を占め、高齢層で割合が高い。一方、「福島市」は30代以下(25.0%)で2割台半ばと、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の行政区別にみると、仲町、赤木、上本町、清水、太田、下郡山、毛萱、駅前、西原、栄町では「いわき市」が4割以上となっている。また、杉内、赤木、上本町では「郡山市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の行政区別）>

		(%)					
	n	いわき市	福島市	郡山市	大玉村	三春町	福島県外
全体	3979	37.0	2.7	22.0	2.0	2.6	24.5
杉内	63	25.4	-	44.4	1.6	3.2	9.5
仲町	107	44.9	3.7	20.6	1.9	0.9	20.6
高津戸	120	37.5	2.5	22.5	3.3	0.8	22.5
下千里	109	34.9	0.9	25.7	3.7	3.7	22.0
大菅	150	33.3	4.0	18.0	4.7	2.7	28.0
夜の森駅前北	216	35.2	2.8	25.9	0.5	4.2	23.1
夜の森駅前南	237	30.8	3.0	24.5	1.3	2.1	26.6
新町	185	38.4	1.1	25.9	2.2	3.8	22.2
赤木	26	42.3	-	38.5	-	7.7	3.8
上本町	43	41.9	-	30.2	-	4.7	14.0
玉塚	367	34.1	2.7	24.8	2.2	2.5	25.3
本町	229	38.9	2.6	23.1	0.4	2.2	26.6
岩井戸	52	34.6	5.8	26.9	1.9	3.8	21.2
清水	262	44.3	1.1	19.8	1.9	0.8	25.2
上郡	35	37.1	5.7	25.7	8.6	2.9	17.1
太田	33	54.5	-	15.2	-	6.1	12.1
下郡山	86	41.9	3.5	17.4	-	1.2	29.1
毛萱	29	62.1	3.4	3.4	3.4	6.9	6.9
仏浜	70	34.3	1.4	22.9	4.3	1.4	25.7
駅前	71	40.8	5.6	18.3	2.8	2.8	23.9
西原	251	43.4	3.2	19.9	3.6	3.2	20.7
中央	222	36.5	3.2	18.5	2.7	2.7	27.5
小浜	283	36.7	5.3	14.1	0.7	1.8	34.3
深谷	79	38.0	-	24.1	1.3	5.1	24.1
小良ヶ浜	126	38.1	2.4	19.8	2.4	1.6	26.2
栄町	27	59.3	3.7	7.4	3.7	-	22.2
新夜ノ森	418	33.7	2.9	24.6	1.9	2.9	25.8
不明	5	-	-	20.0	-	-	60.0

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

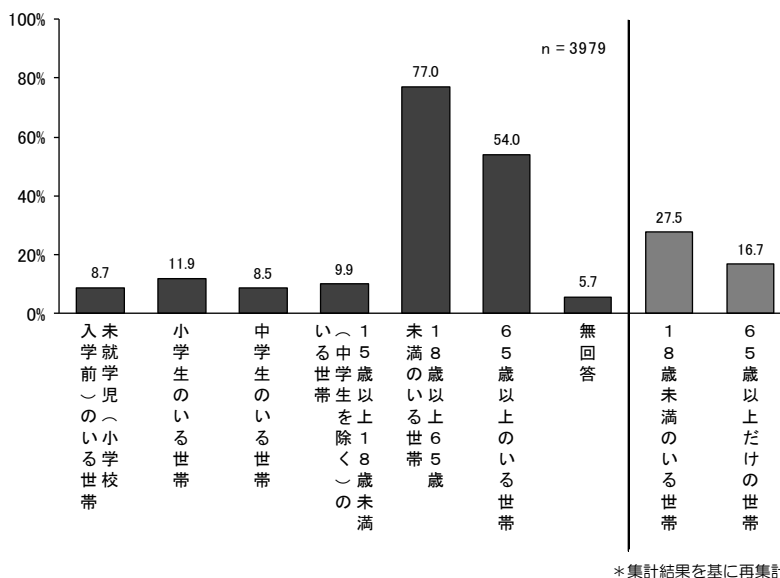
問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1)「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

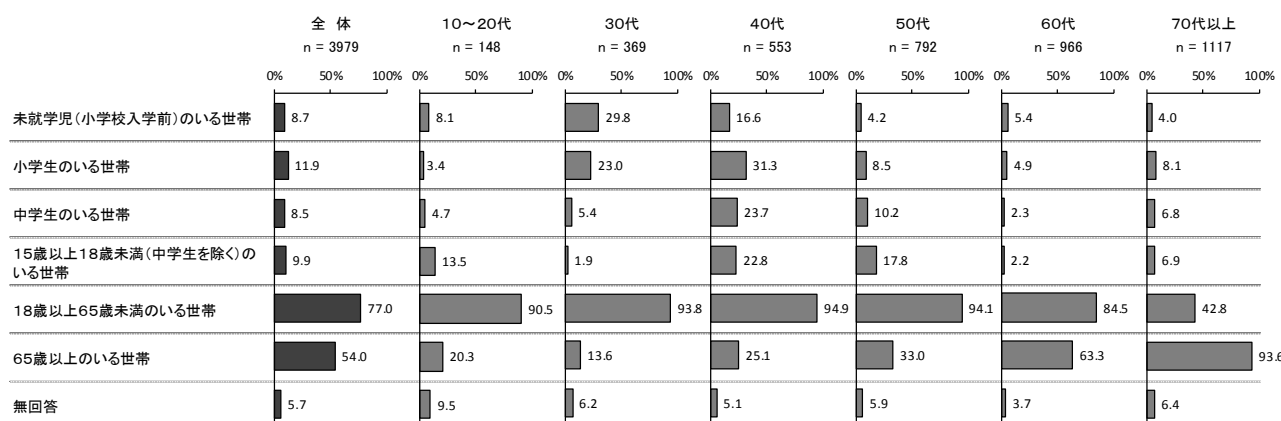
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が77.0%、「65歳以上のいる世帯」が54.0%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(8.7%)、「小学生のいる世帯」(11.9%)、「中学生のいる世帯」(8.5%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(9.9%)はいずれも概ね1割となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

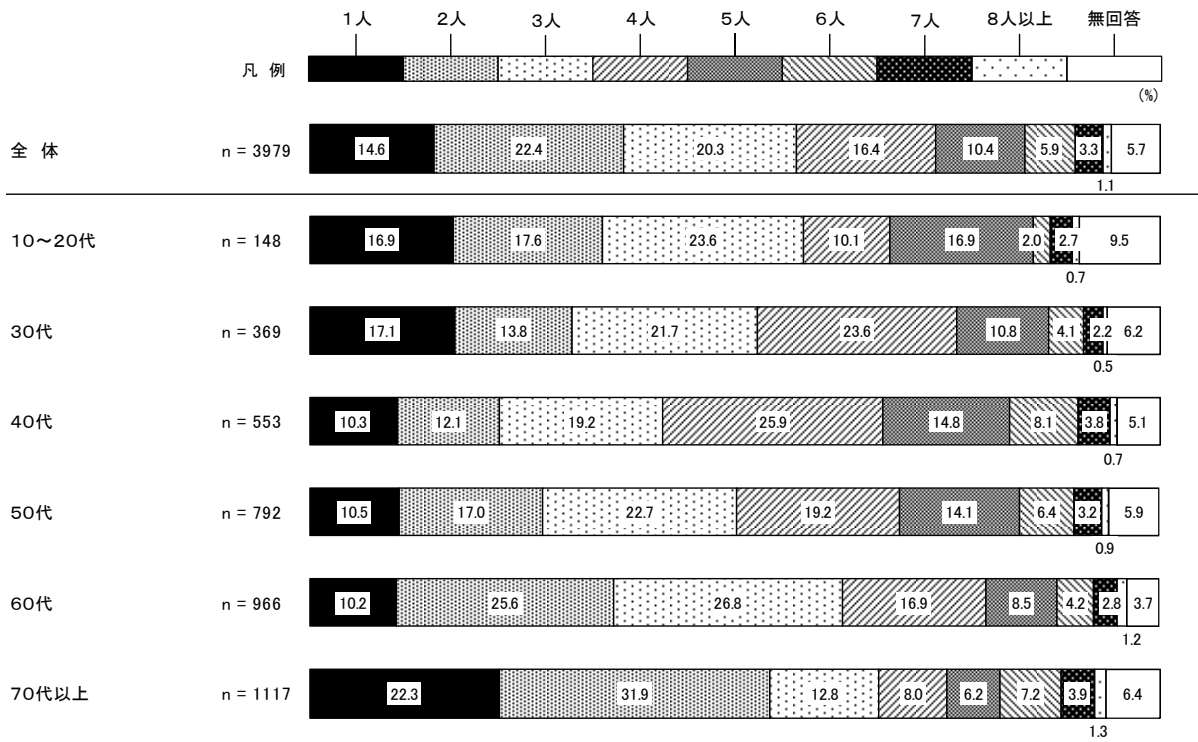


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が22.4%と最も高く、次いで「3人」が20.3%、「4人」が16.4%、「1人」が14.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は70代以上（31.9%）で、「3人」は60代（26.8%）で、「4人」は30代（23.6%）、40代（25.9%）で、「1人」は70代以上（22.3%）で他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



(2) 現在の世帯構成・人数

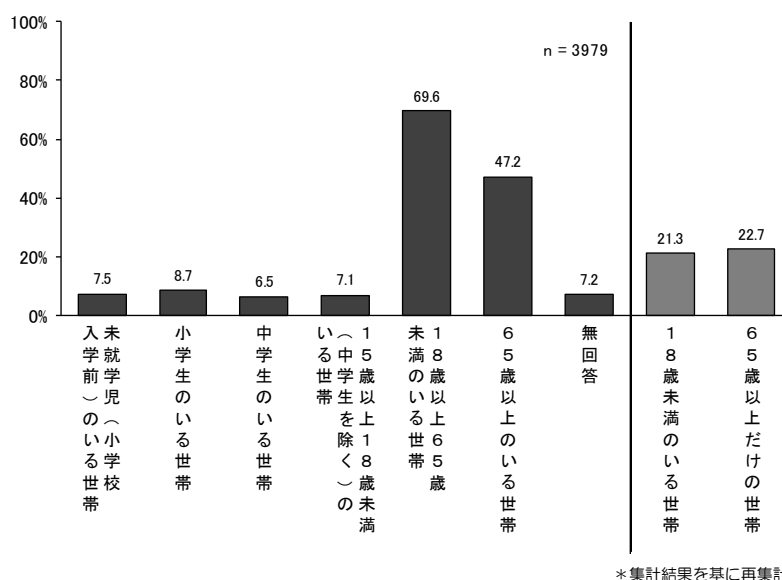
問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

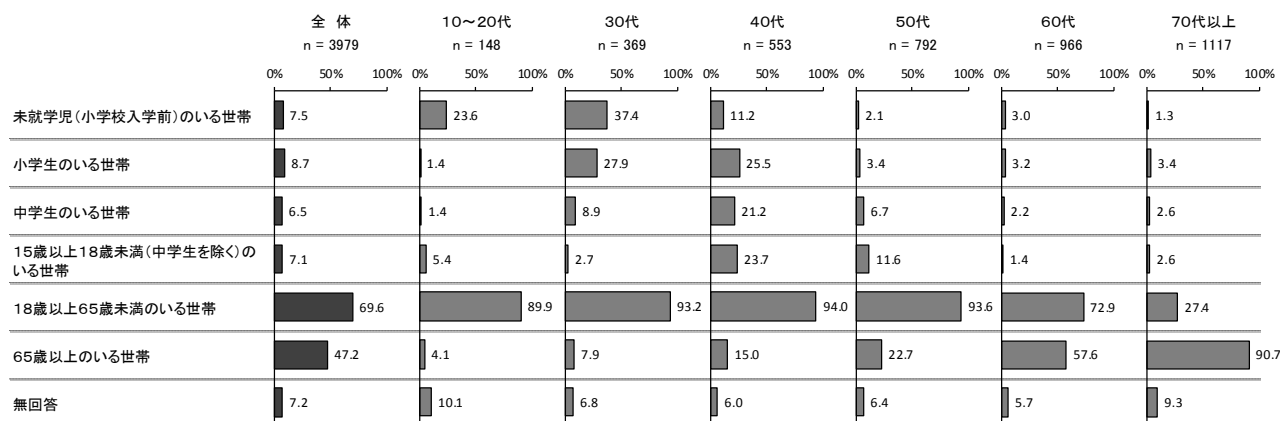
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が69.6%と最も高く、次いで「65歳以上のいる世帯」が47.2%となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

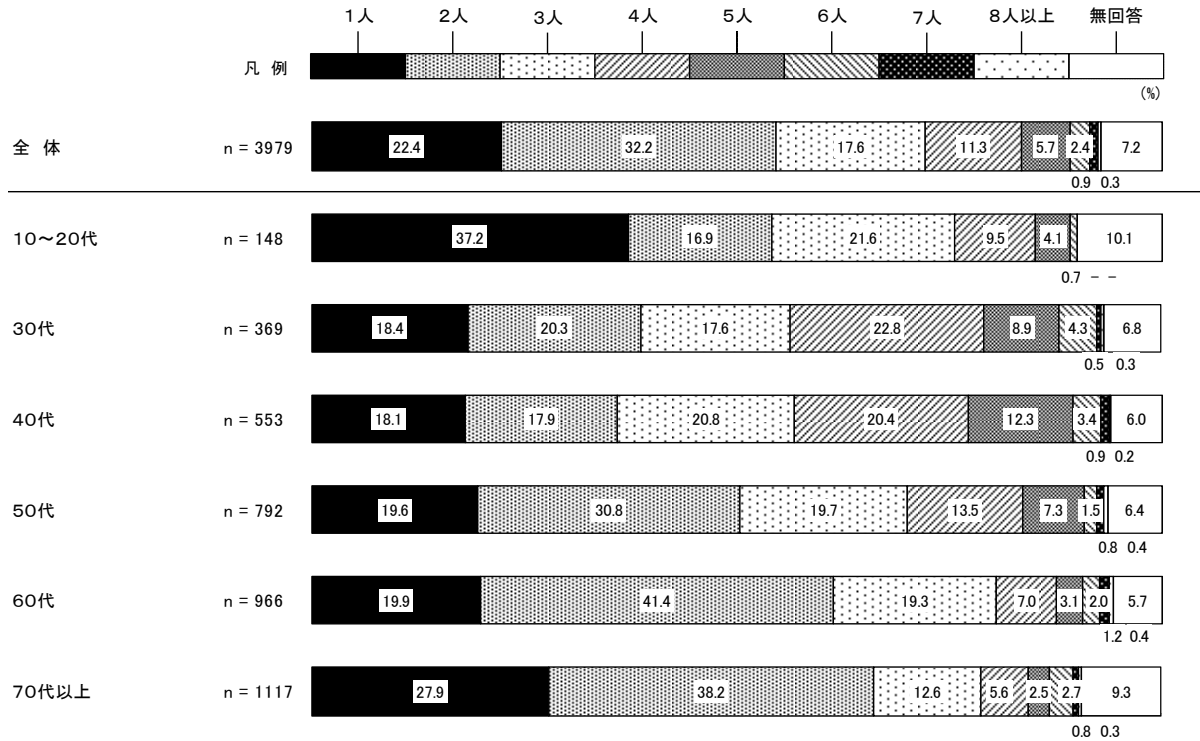


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が32.2%と最も高く、次いで「1人」が22.4%、「3人」が17.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代(41.4%)、70代以上(38.2%)で、「4人」は30代(22.8%)、40代(20.4%)で、「1人」は10~20代(37.2%)、70代以上(27.9%)で他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

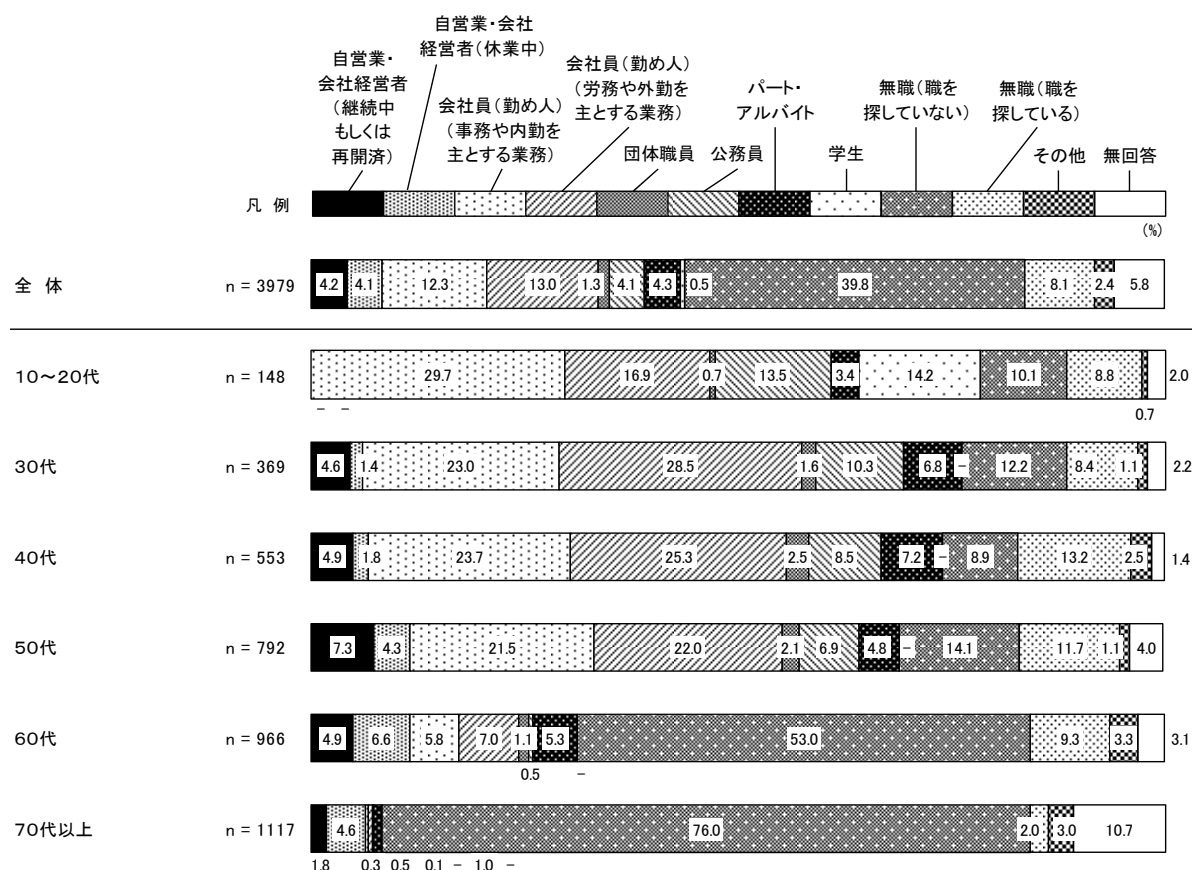
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が13.0%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が12.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～20代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が29.7%、30代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が28.5%、40代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が25.3%、50代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が22.0%、60代で「無職（職を探していない）」が53.0%、70代以上で「無職（職を探していない）」が76.0%とそれぞれの年齢で最も割合が高くなっている。

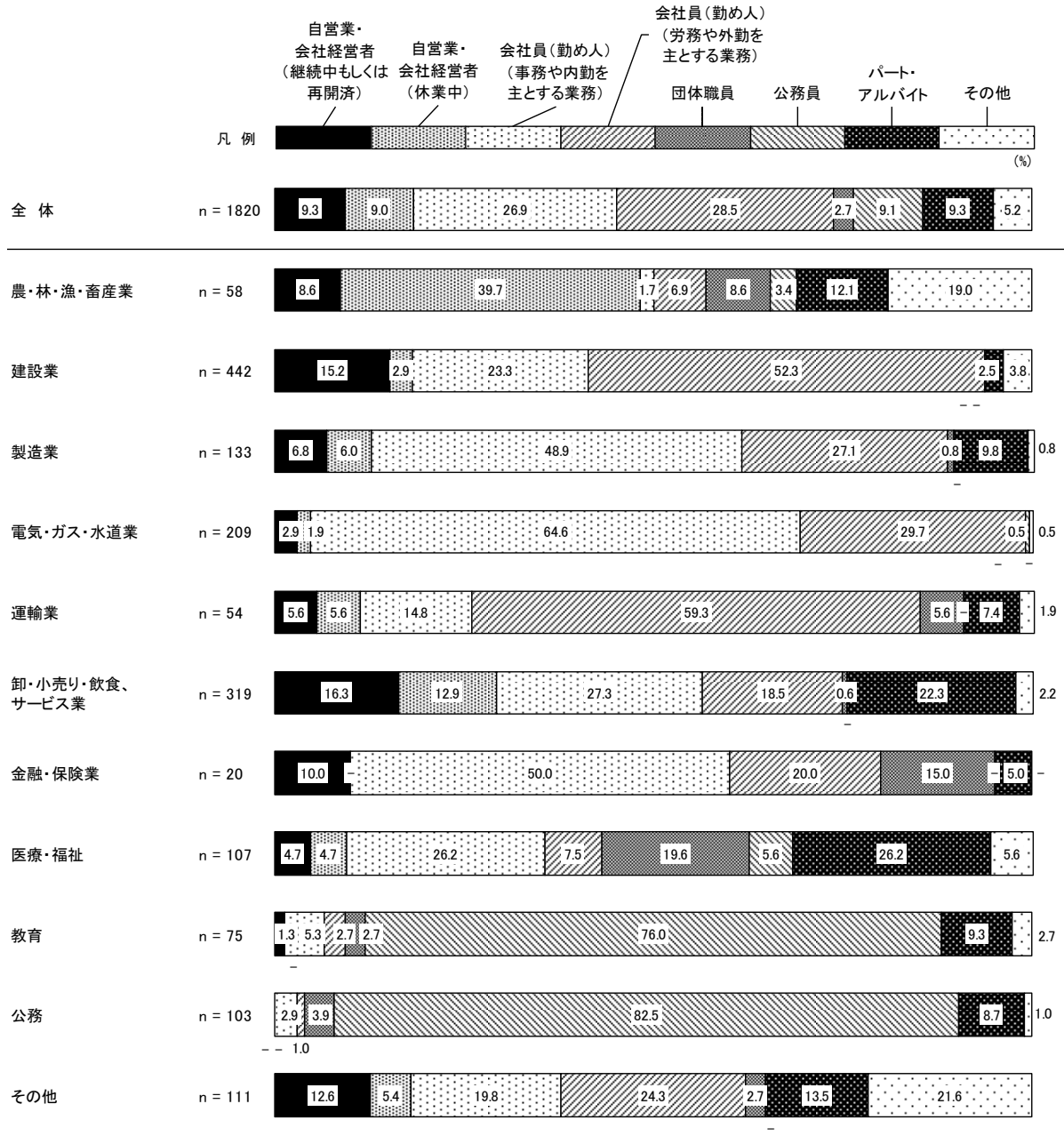
<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



III 調査結果

業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（52.3%）、電気・ガス・水道業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（64.6%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（48.9%）が他の業種と比べて高くなっている。

＜図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）＞



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

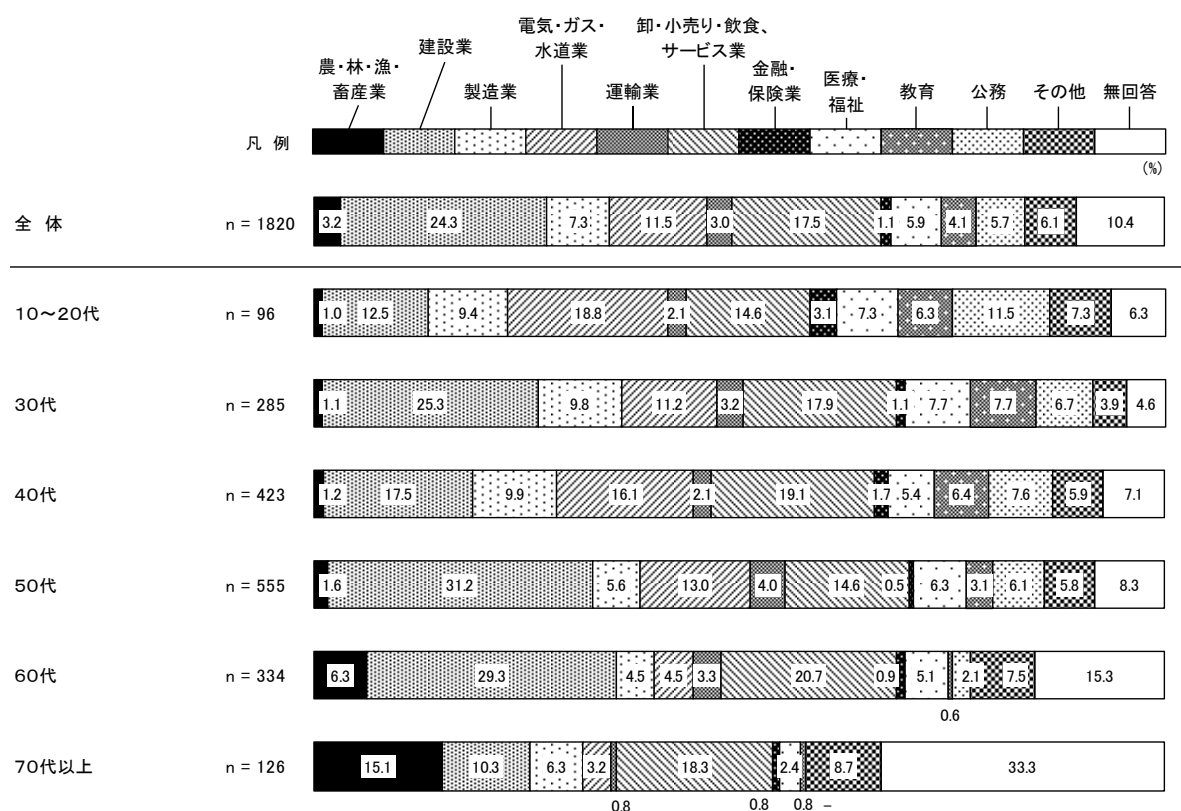
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

業種については、「建設業」が24.3%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が17.5%、「電気・ガス・水道業」が11.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は50代(31.2%)、60代(29.3%)で、「電気・ガス・水道業」は10~20代(18.8%)で高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



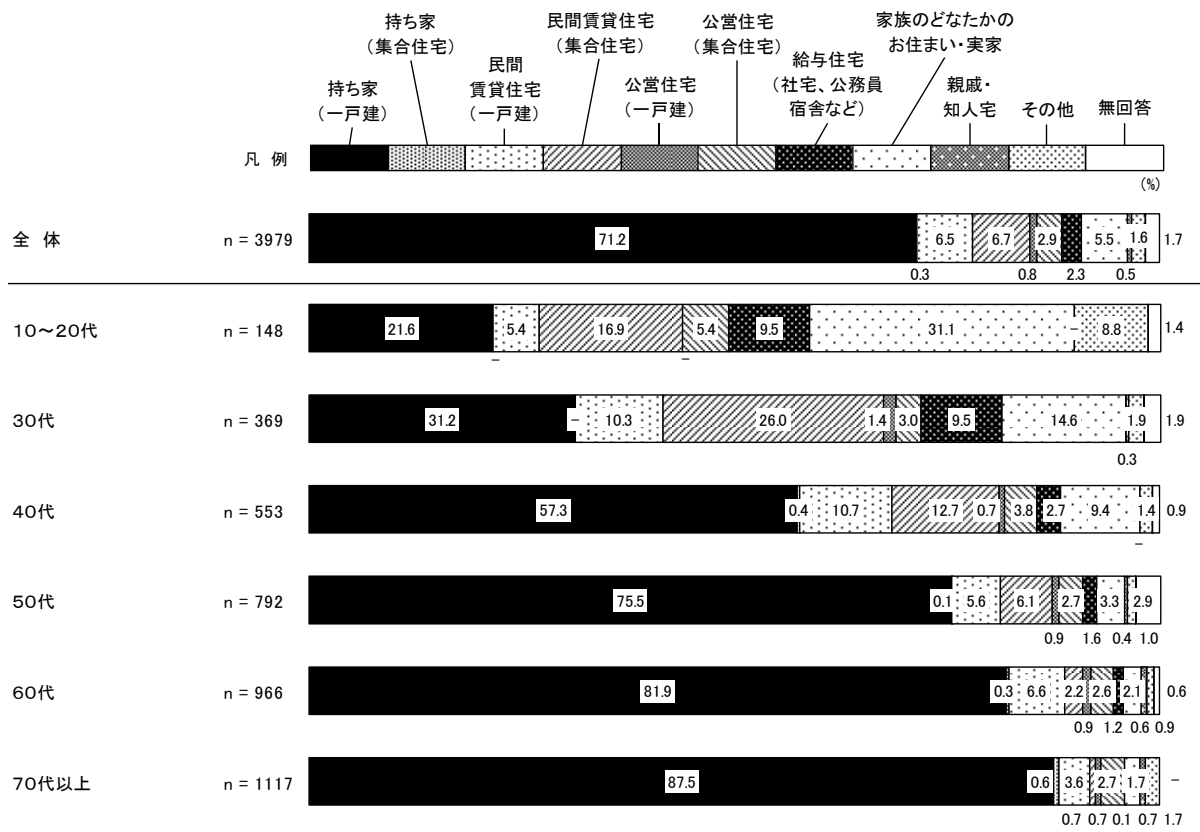
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が71.2%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が6.7%、「民間賃貸住宅（一戸建）」が6.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では87.5%と9割近くを占める。「民間賃貸住宅（集合住宅）」は10~20代（16.9%）、30代（26.0%）、40代（12.7%）で高い。また、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、10~20代で31.1%、30代で14.6%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



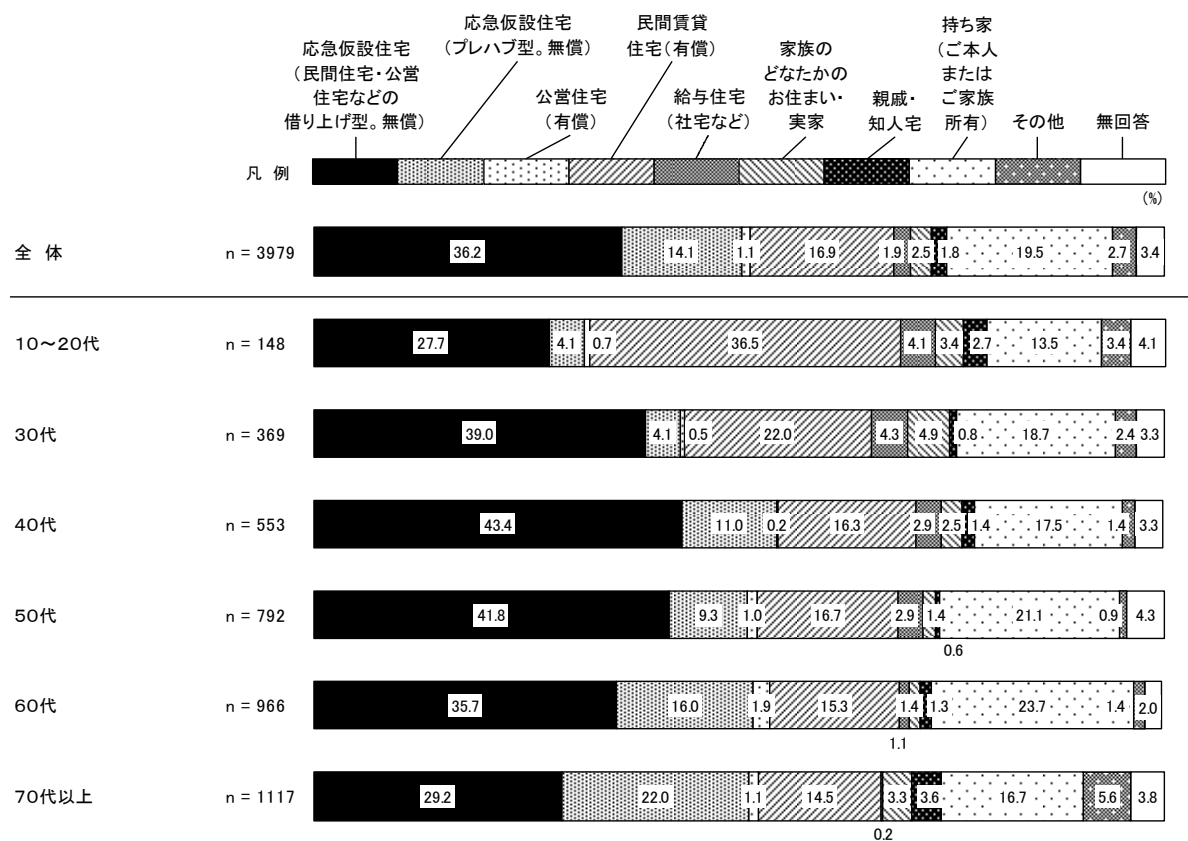
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が36.2%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が19.5%、「民間賃貸住宅（有償）」が16.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は40代(43.4%)、50代(41.8%)で4割以上と高い。「民間賃貸住宅（有償）」は若年層で高く、10~20代で36.5%、30代で22.0%となっている。「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は70代以上で高く、22.0%となっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>

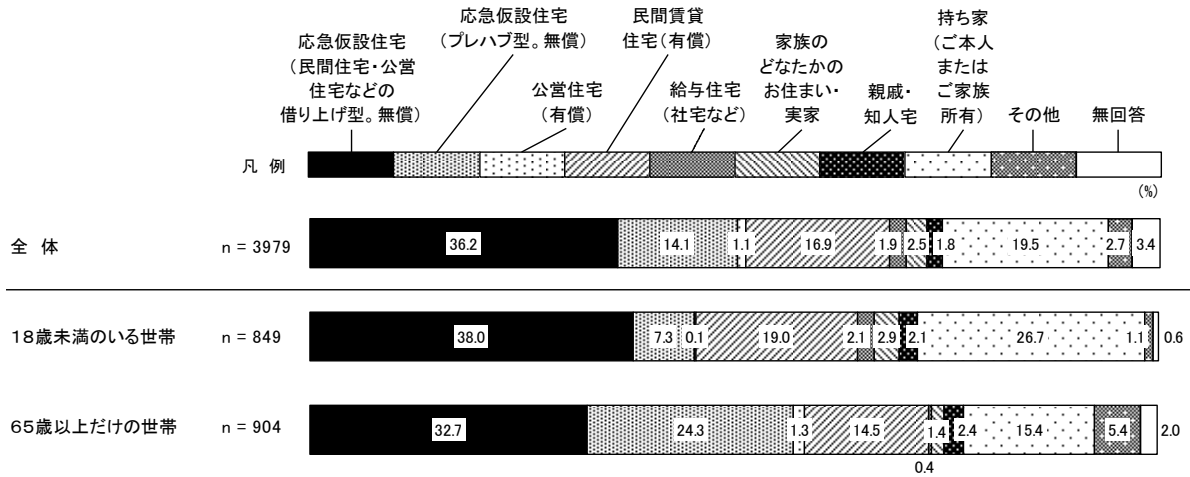


III 調査結果

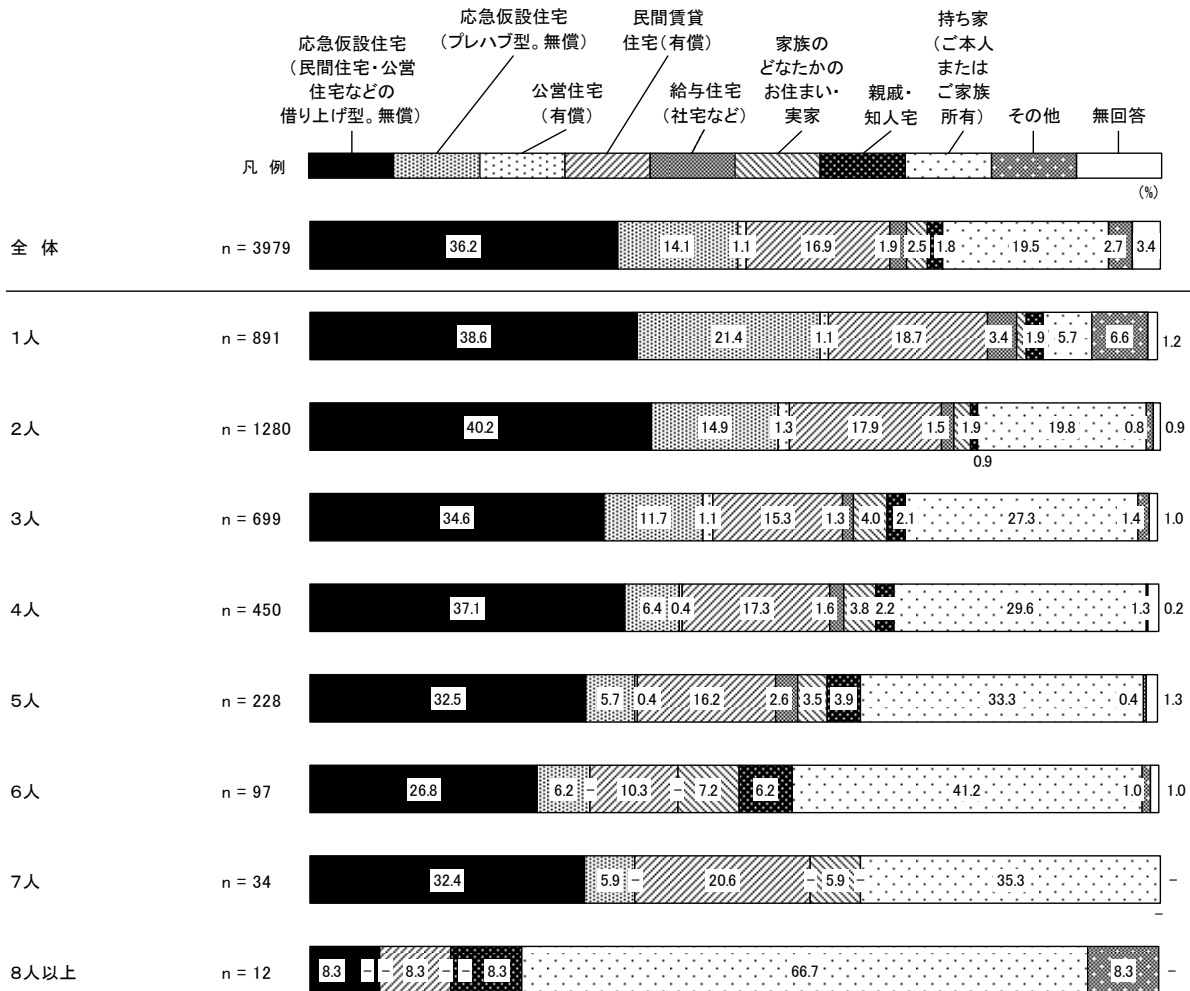
世帯構成別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は18歳未満のいる世帯で26.7%と高い。一方、65歳以上だけの世帯では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が高く24.3%となっている。

世帯人数別にみると、世帯人数が多くなるにつれて、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」の割合が高くなる傾向にある。一方、世帯人数が1人の場合では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が比較的高く21.4%となっている。

＜図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）＞

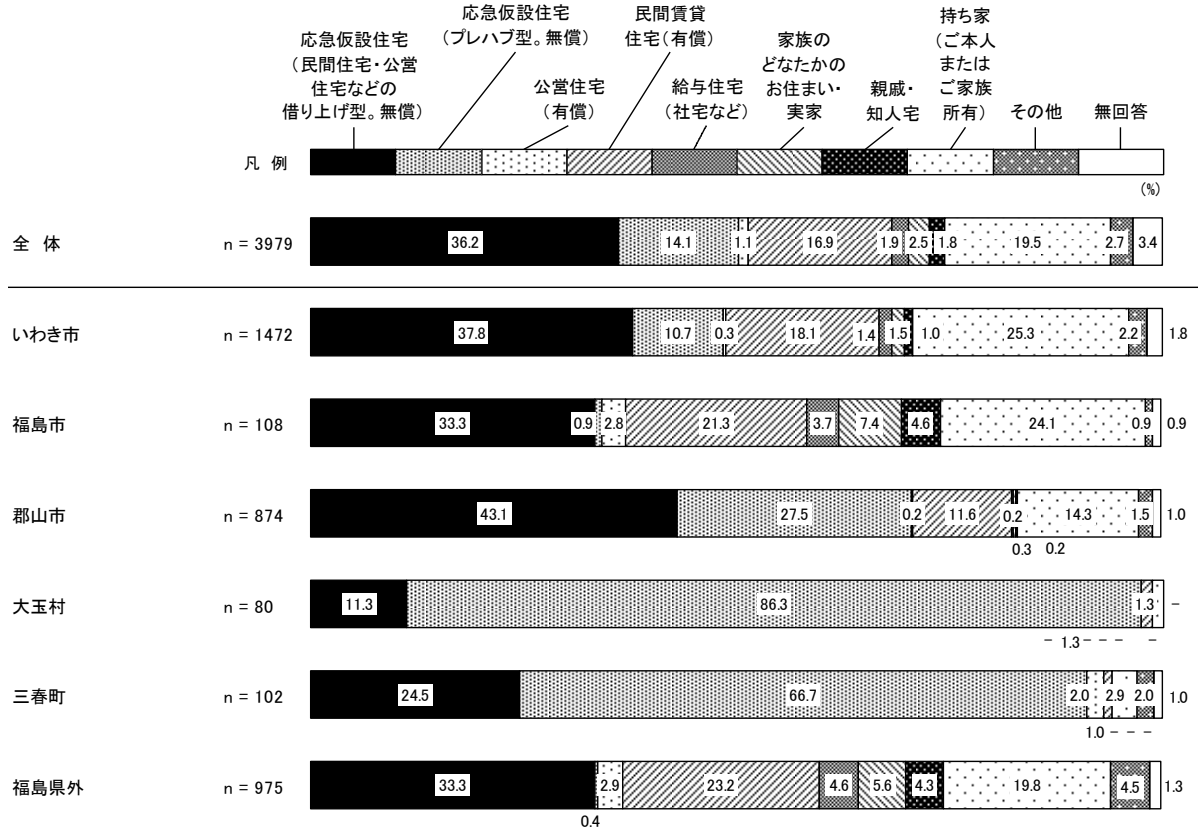


＜図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）＞



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は郡山市で43.1%と高い。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市で25.3%と高くなっている。「民間賃貸住宅（有償）」は福島県外で23.2%と高い。「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は大玉村で86.3%、三春町で66.7%、郡山市で27.5%と他の避難先自治体に比べて高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



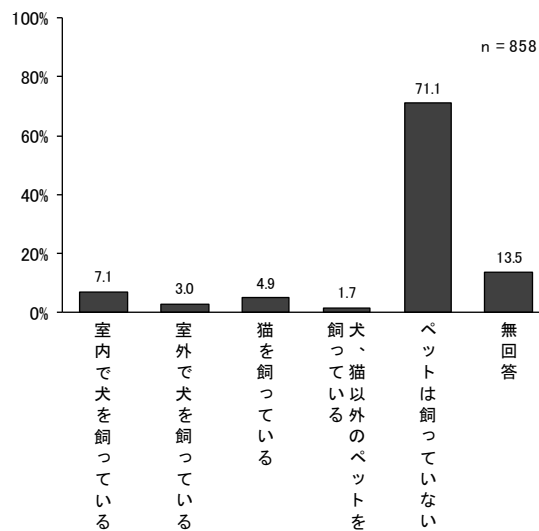
3-1-6 現在のペットの飼育状況

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

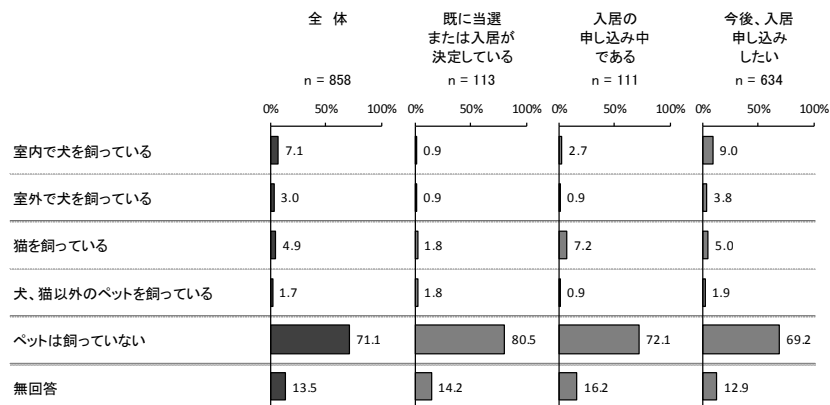
問8-3 現在、ペットを飼っていますか。（〇はいくつでも）

現在のペットの飼育状況については、「ペットは飼っていない」が71.1%と最も高く、次いで「犬を飼っている」（室内・室外）世帯が10.1%、「猫を飼っている」世帯が4.9%となっている。

<図表3-1-6-1 ペットの飼育状況>



<図表3-1-6-2 ペットの飼育状況（復興公営住宅への入居意向別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

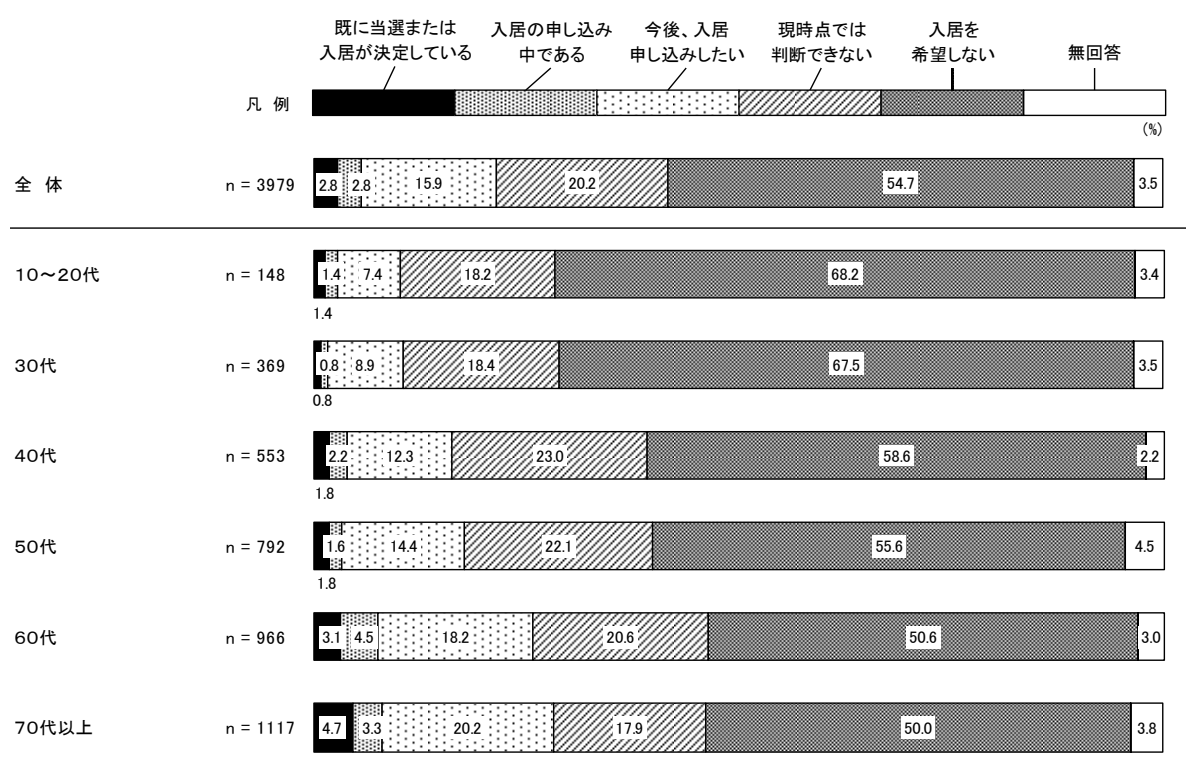
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問8 現在、福島県は（調査票）6頁に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（〇は1つ）

復興公営住宅への入居意向については、「入居を希望しない」が54.7%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が20.2%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居申し込みしたい」）が21.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「入居を希望しない」はいずれの年齢でも最も高いが、入居意向のある世帯は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。

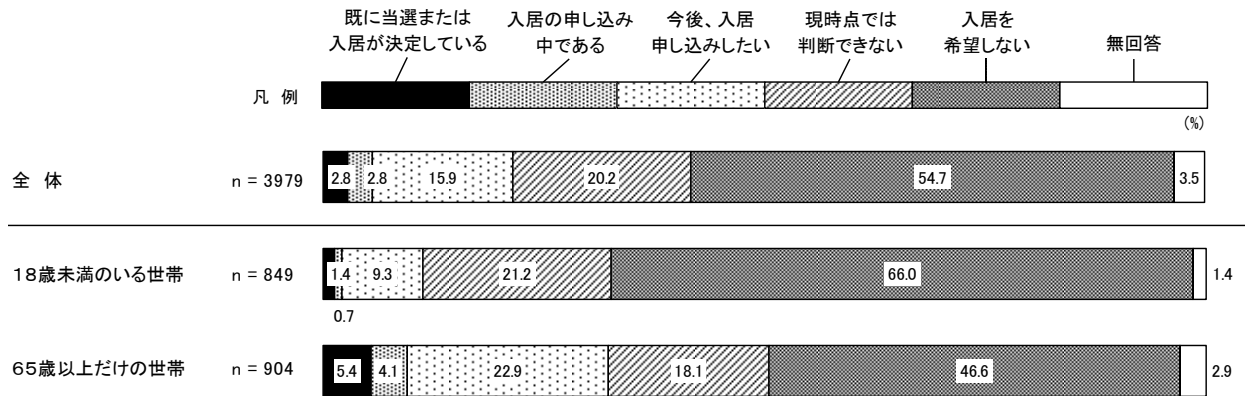
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



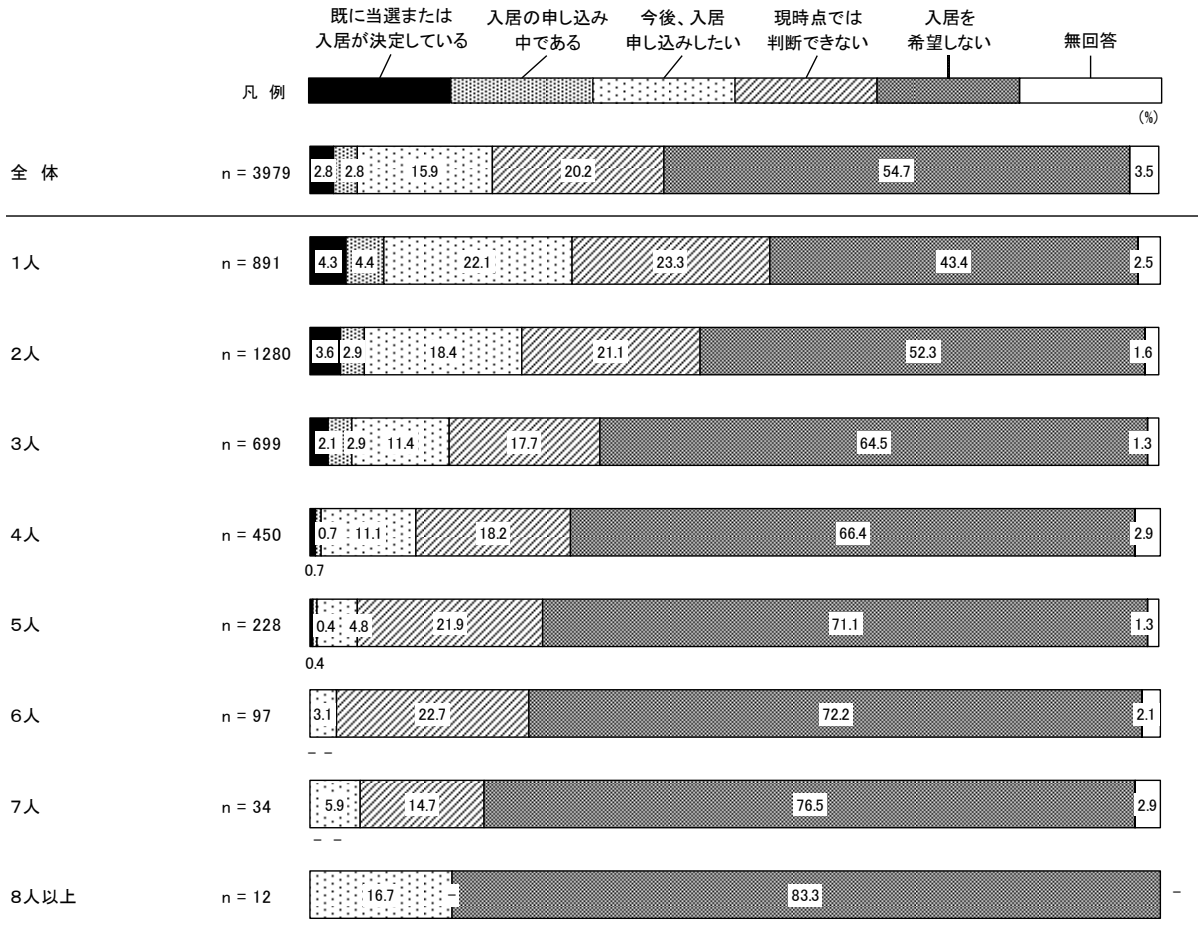
世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は18歳未満のいる世帯で66.0%と高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」・「入居の申し込み中である」・「今後、入居申し込みしたい」）の割合が3割以上となっている。

世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は世帯人数が多いほど高い傾向にある。入居意向のある世帯は、世帯人数が1人の世帯で30.8%と高い。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>

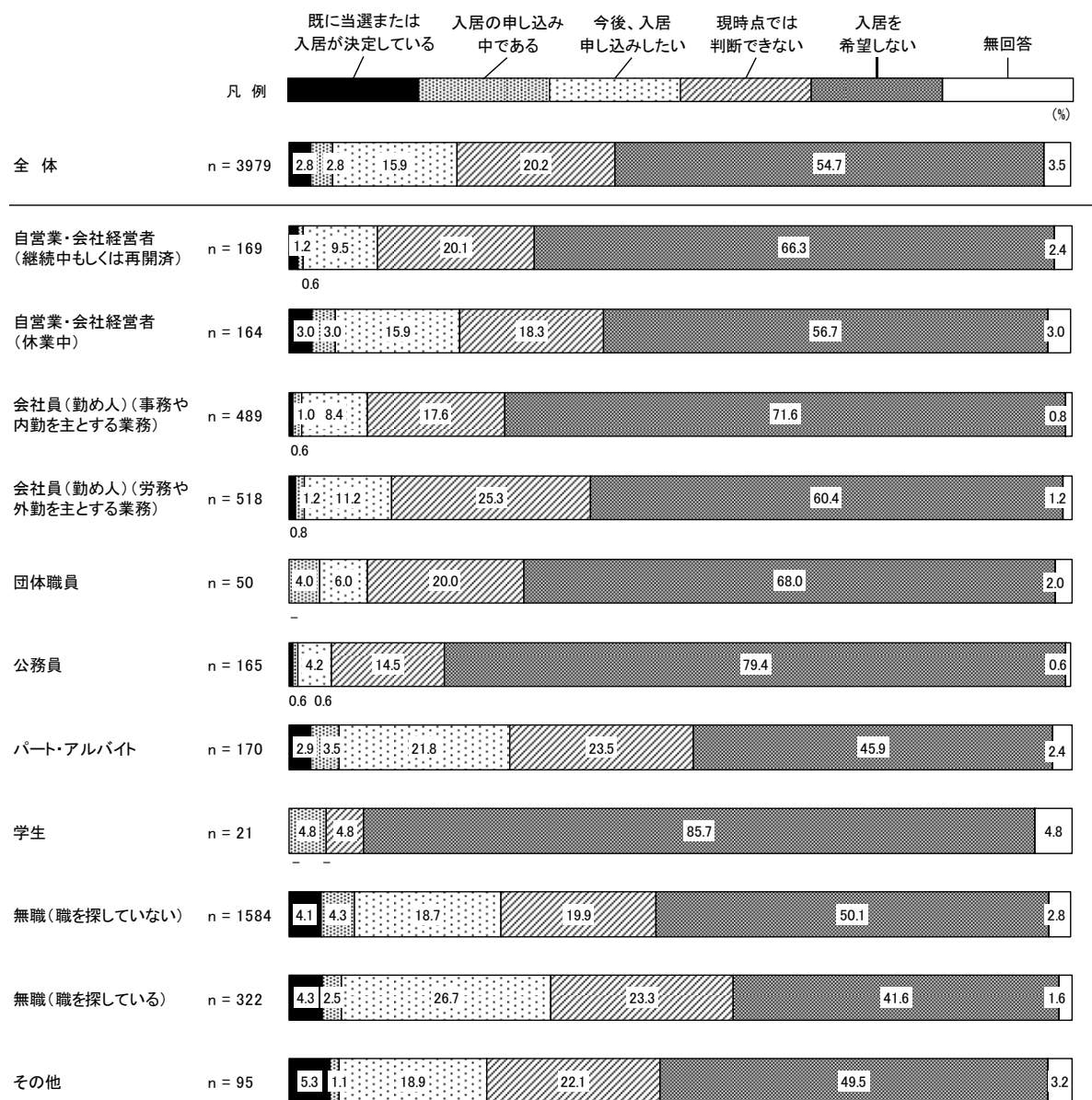


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



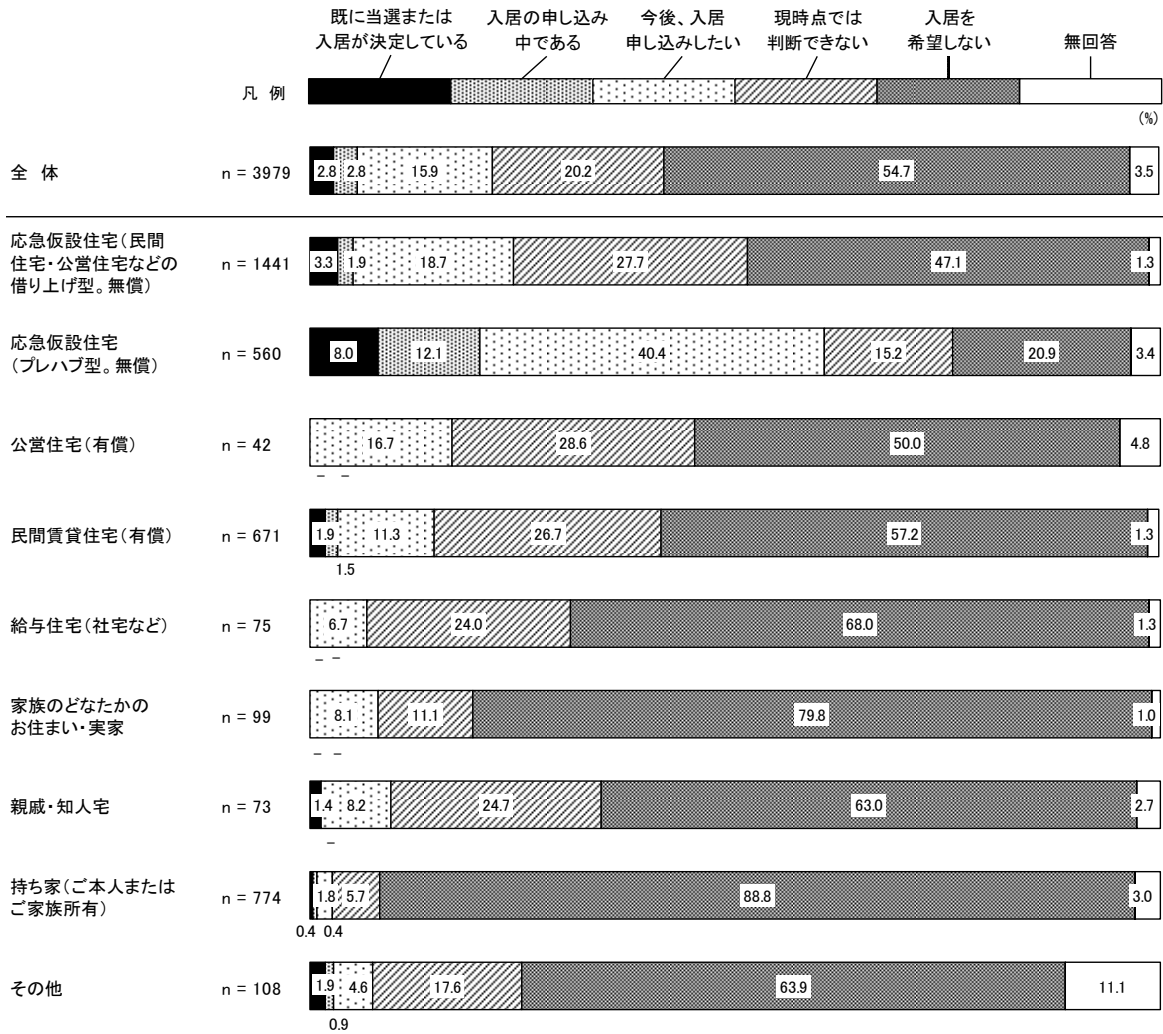
職業別にみると、入居意向のある世帯は無職（職を探している）（33.5%）、パート・アルバイト（28.2%）で他と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（職業別）>



現在の住居形態別にみると、「入居を希望しない」は、持ち家（ご本人またはご家族所有）（88.8%）、家族のどなたかのお住まい・実家（79.8%）で他の住居形態に比べ高くなっている。入居意向のある世帯は、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）にお住まいの世帯で 60.5%と高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む。）は、＜2世帯目＞の列にもお答えください。

※現在、分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

＜1世帯目＞

（1）自治体名を教えてください。（〇はひとつ）

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜2世帯目＞

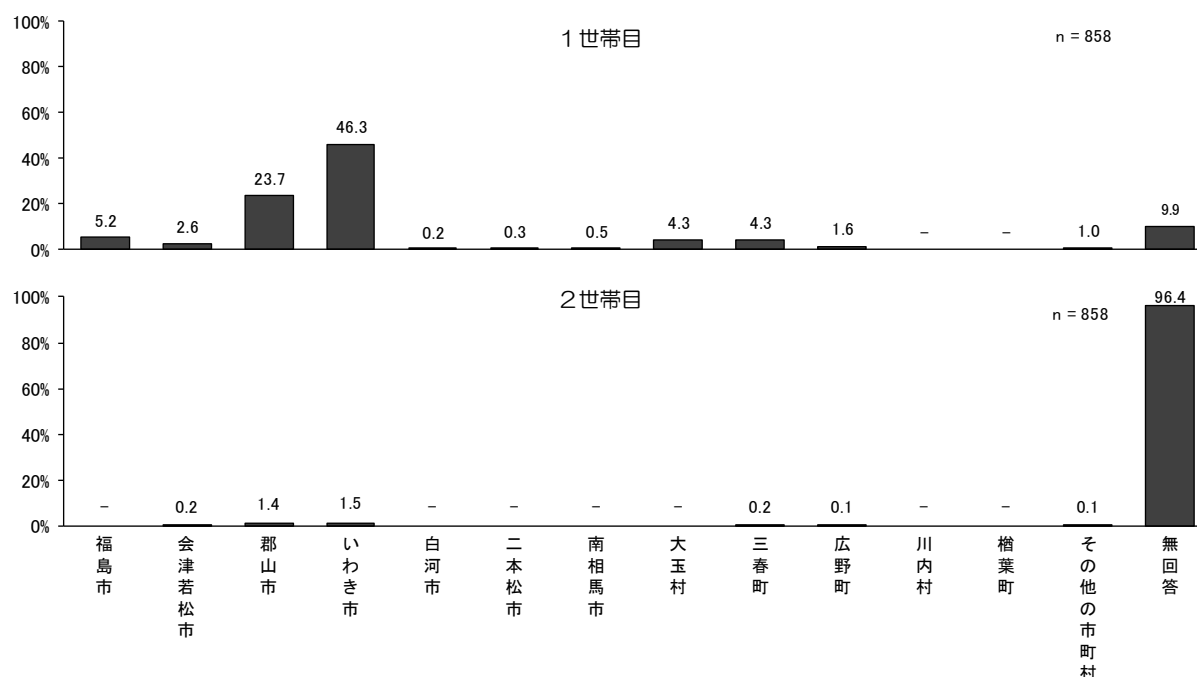
（1）自治体名を教えてください。（〇はひとつ）

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

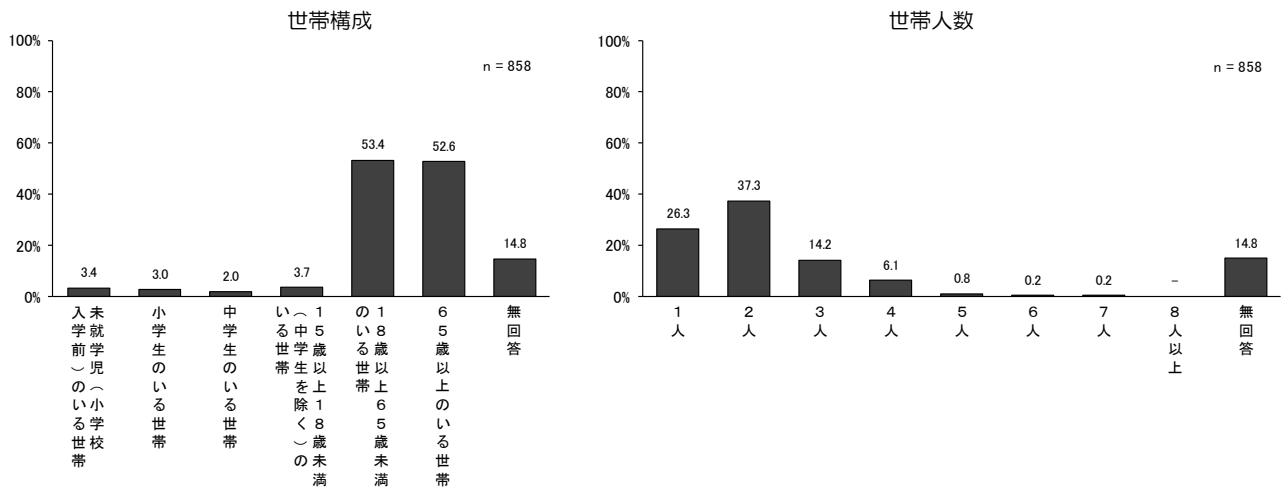
＜1世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「いわき市」が46.3%と最も高く、次いで「郡山市」が23.7%となっている。世帯人数（1世帯目）については、「2人」が37.3%最も高く、次いで「1人」が26.3%、「3人」が14.2%となっている。入居を希望する世帯構成（1世帯目）としては、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が最も高く53.4%、次いで「65歳以上のいる世帯」が52.6%となっている。

＜2世帯目＞については、入居を希望する世帯のうち3.5%が2世帯目の入居を希望している。世帯人数（2世帯目）については、「2人」が48.4%最も高く、次いで「1人」が35.5%、「3人」が6.5%となっている。入居を希望する世帯構成（2世帯目）としては、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が最も高く51.6%、次いで「65歳以上のいる世帯」が41.9%となっている。

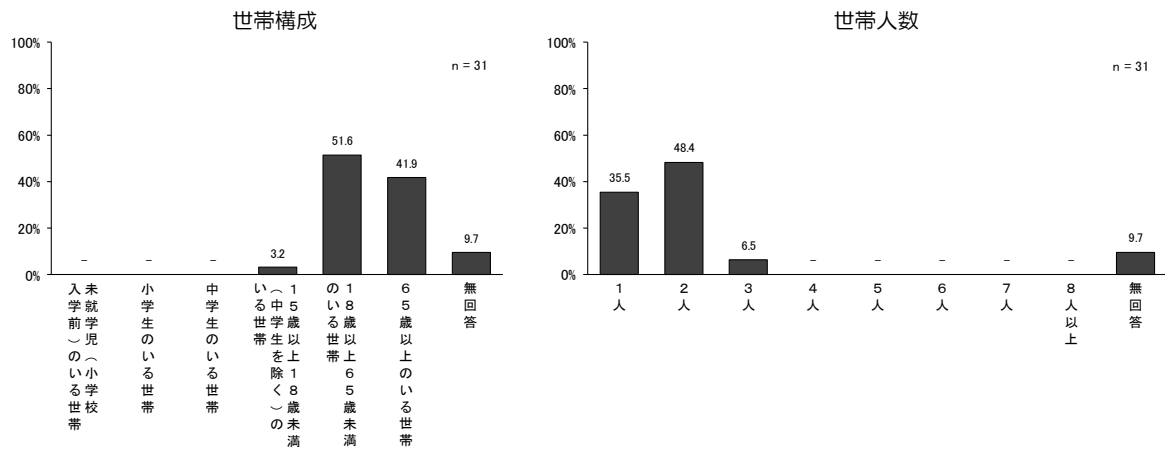
＜図表3-2-2-1 入居を希望する自治体＞



<図表3-2-2-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

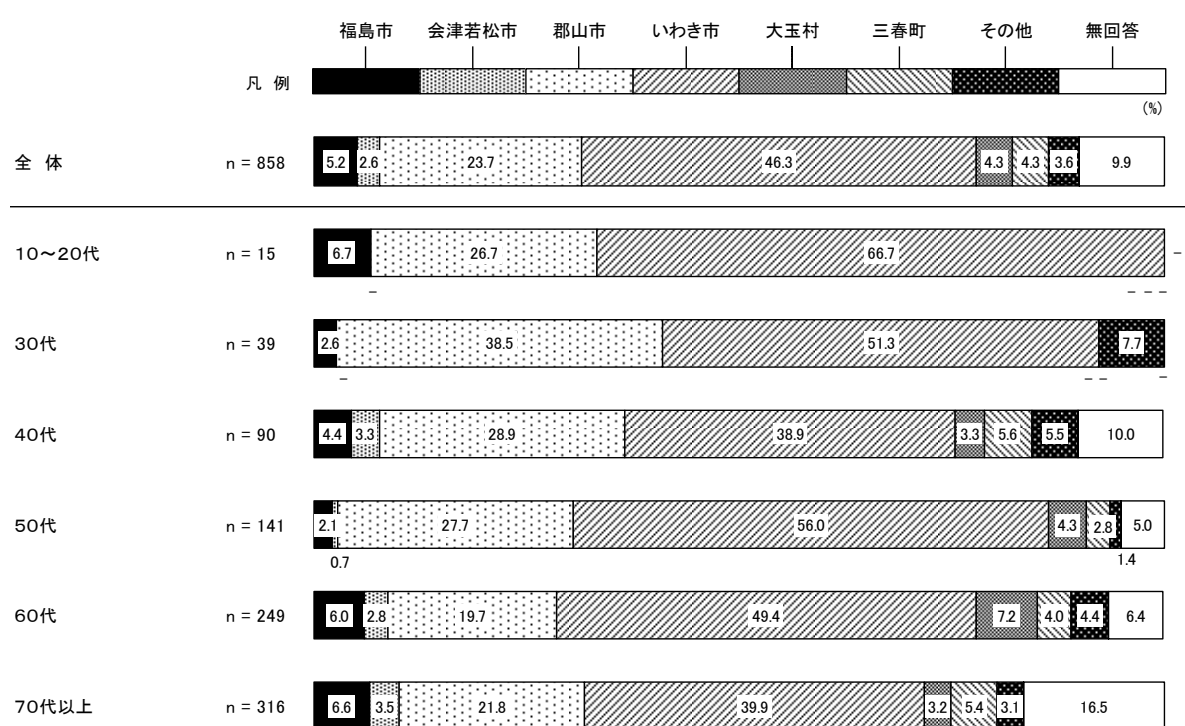


<図表3-2-2-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



復興公営住宅への入居を希望する主な自治体<1世帯目>について、回答者の年齢別にみると、「いわき市」がいずれの年齢でも最も高くなっている。また、「郡山市」は30代（38.5%）、40代（28.9%）で他の年齢に比べて高い。

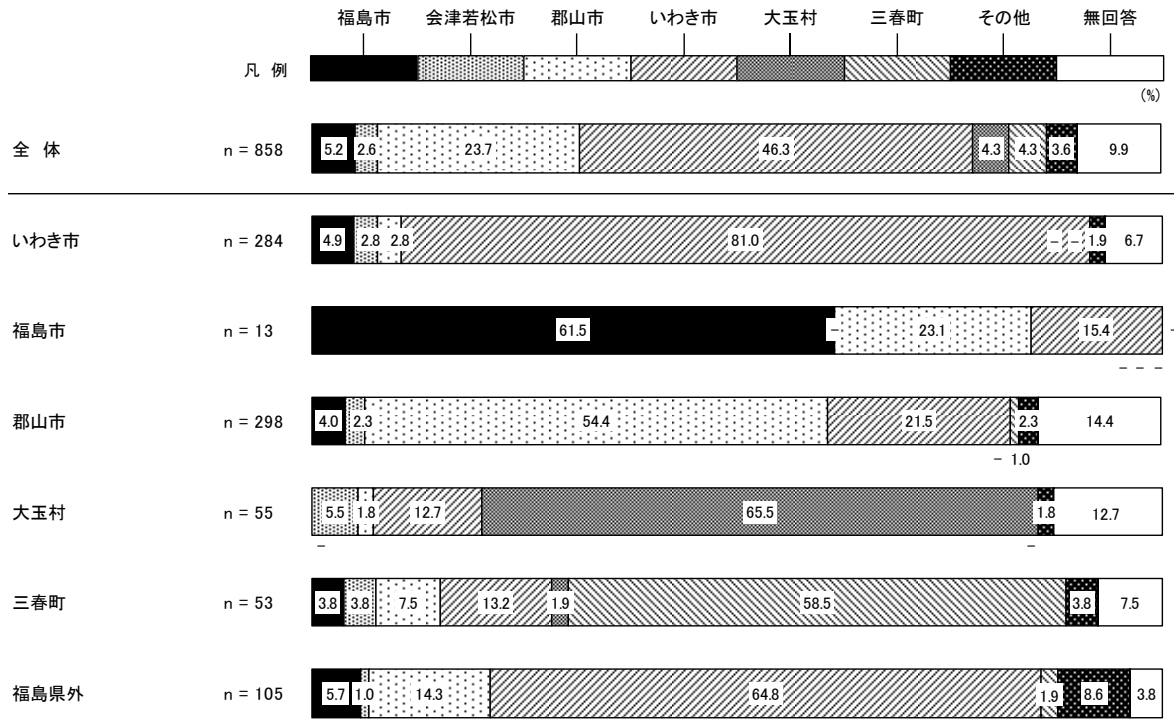
<図表3-2-2-4 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（年齢別）>



III 調査結果

復興公営住宅への入居を希望する主な自治体<1世帯目>について、主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体に入居を希望する割合が高いが、福島県外に避難している世帯では、「いわき市」が64.8%を占める。

＜図表3-2-2-5 入居を希望する主な自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）＞



3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス

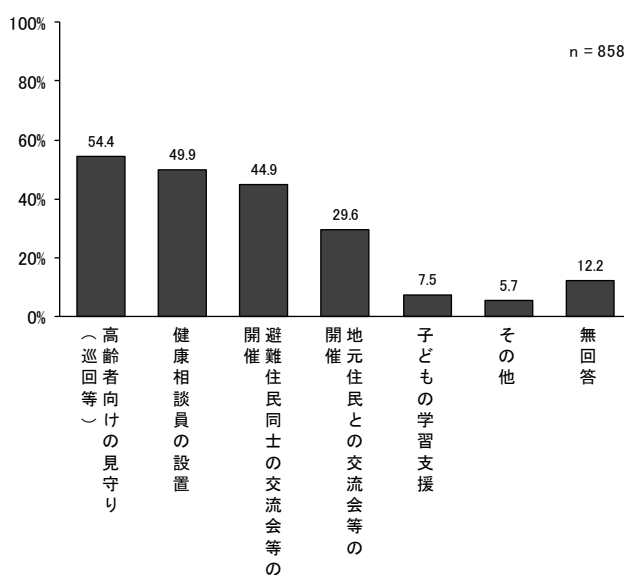
【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

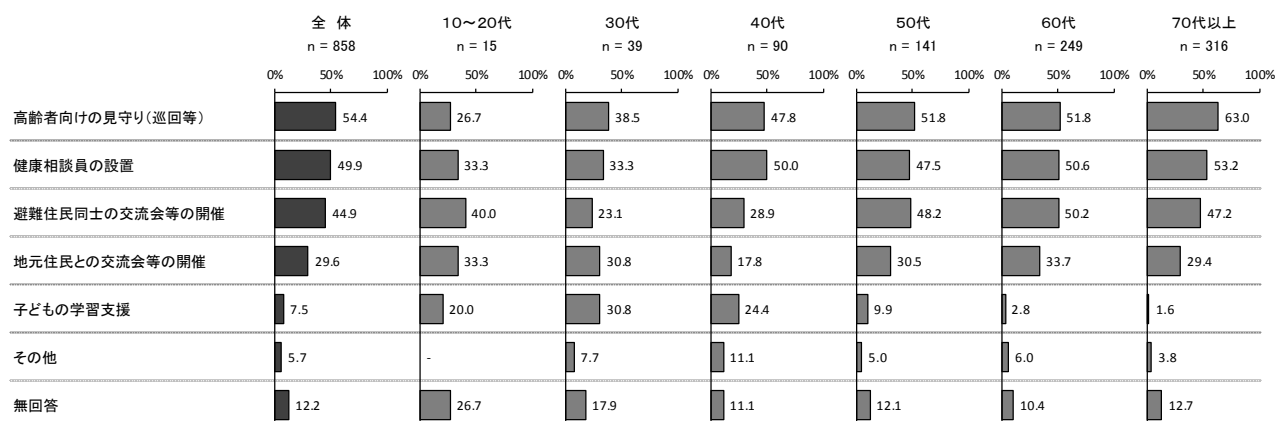
復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が54.4%と最も高く、次いで「健康相談員の設置」が49.9%、「避難住民同士の交流会等の開催」が44.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は70代以上（63.0%）、「避難住民同士の交流会等の開催」は50代（48.2%）、60代（50.2%）、70代以上（47.2%）で高い。一方、10～20代（20.0%）、30代（30.8%）、40代（24.4%）では、「子どもの学習支援」が2～3割と高くなっている。

<図表3-2-3-1 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス>



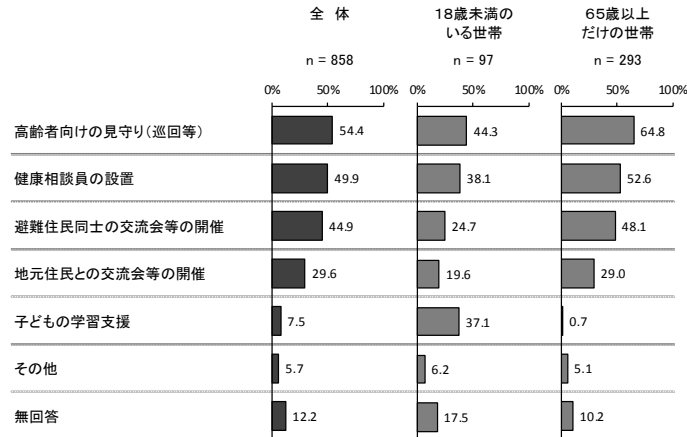
<図表3-2-3-2 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス（年齢別）>



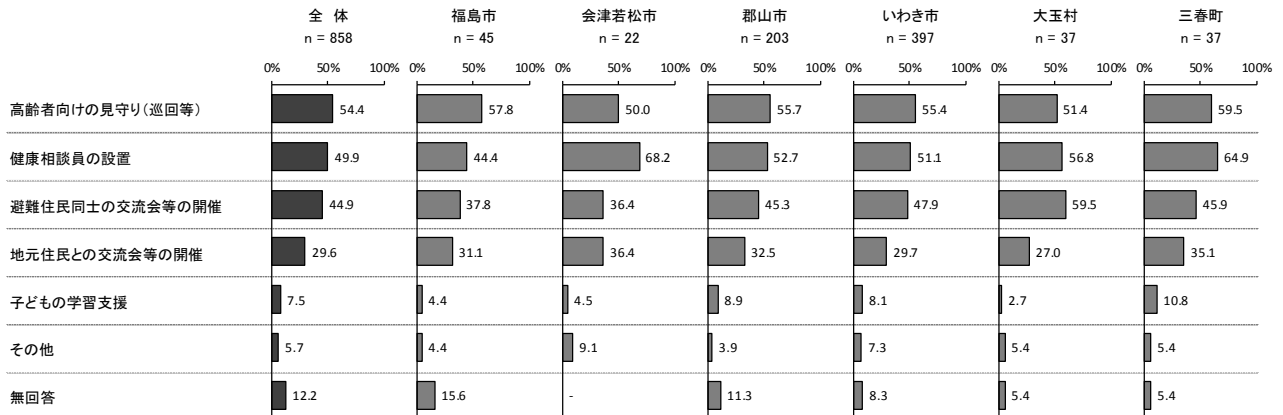
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り(巡回等)」は65歳以上だけの世帯(64.8%)で高い。一方、18歳未満のいる世帯では、「子どもの学習支援」が37.1%と4割近くとなっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、「健康相談員の設置」は三春町(64.9%)、大玉村(56.8%)で高い。また、大玉村では「避難住民同士の交流会等の開催」が約6割となっている。

<図表3-2-3-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス(世帯構成別)>



<図表3-2-3-4 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス(入居を希望する主な自治体別)>



3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態

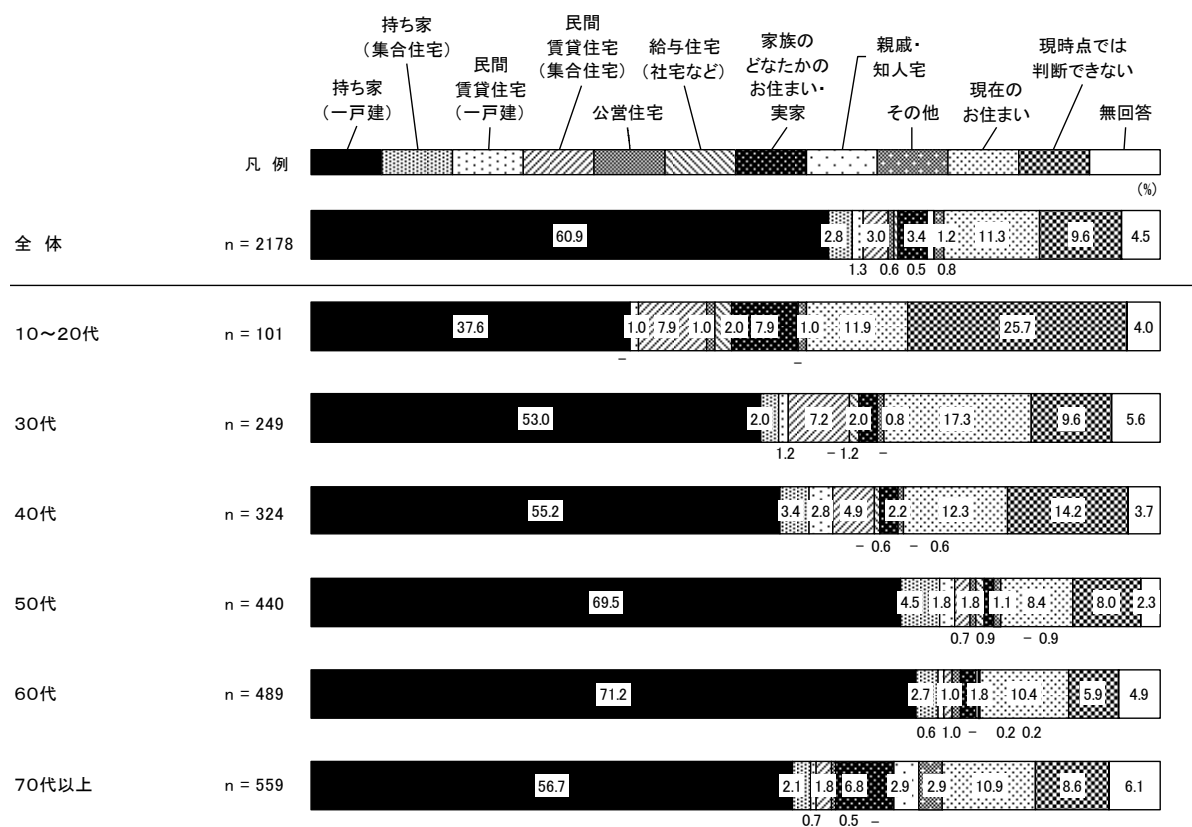
【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問8-5 今後の住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

復興公営住宅へ入居を希望しない場合の今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が60.9%と最も高く、6割を占めている。なお「現在のお住まい」（11.3%）の内訳（問7における回答）の主なものは、持ち家（ご本人またはご家族所有）が155件、民間賃貸住宅（有償）が29件、応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）が25件となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は50代（69.5%）、60代（71.2%）で7割前後と高くなっている。

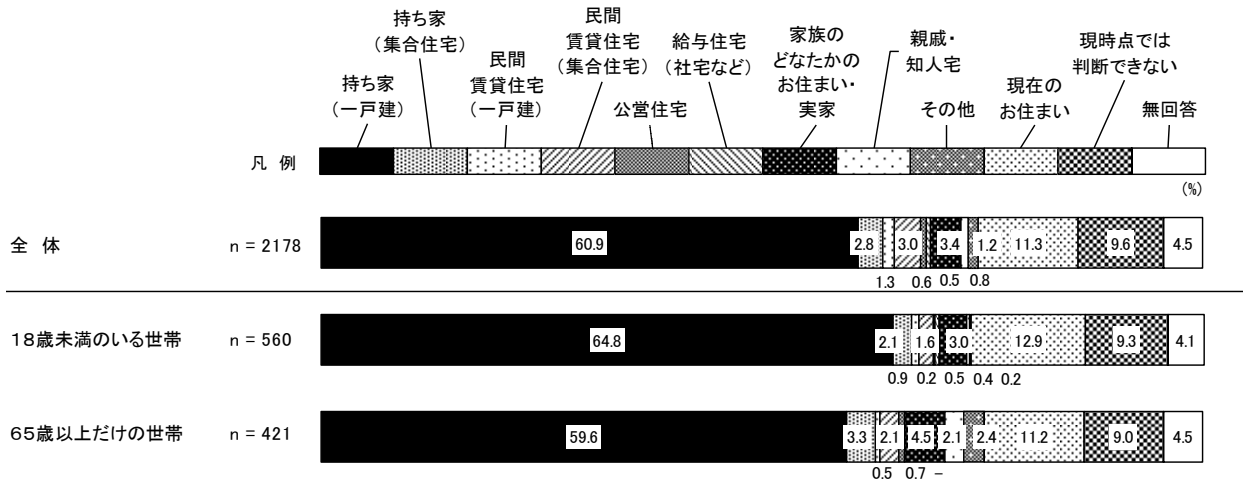
<図表3-2-4-1 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（年齢別）>



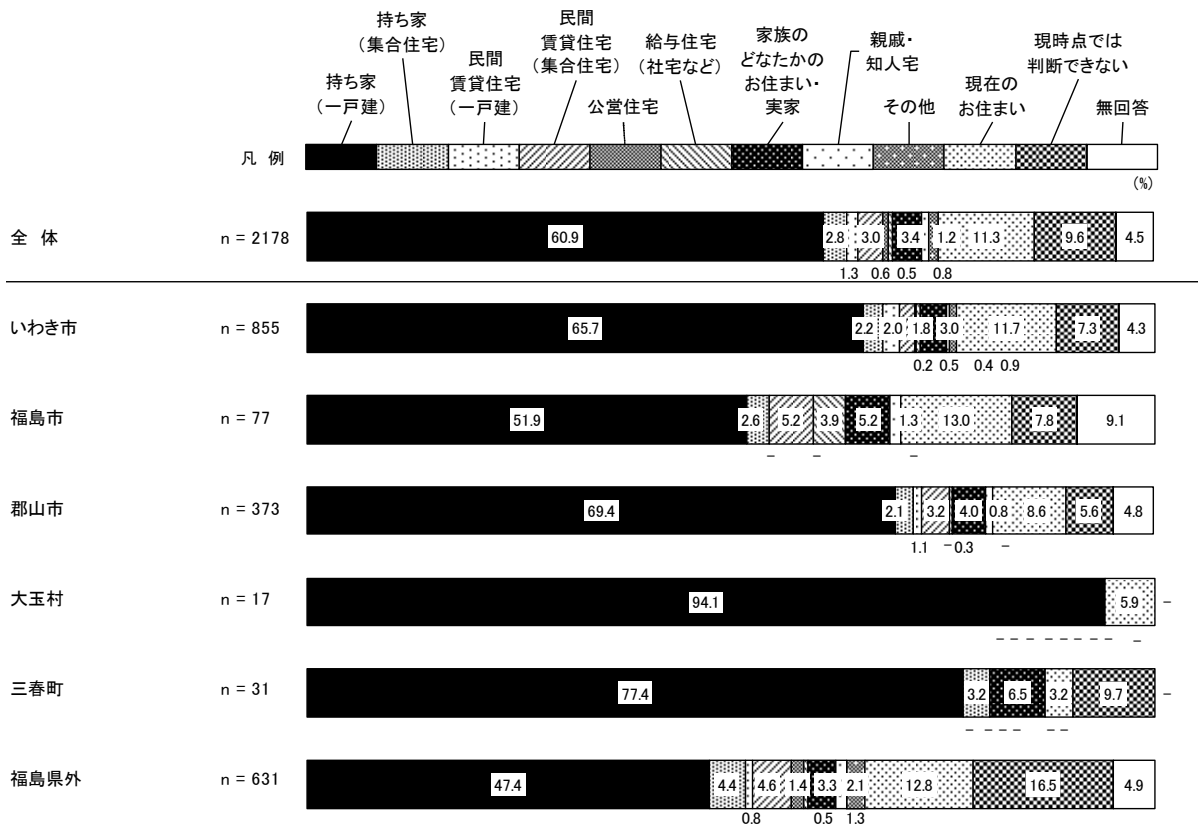
世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にある。

主な避難先自治体別にみると、「持ち家（一戸建）」は三春町（77.4%）、郡山市（69.4%）で高くなっている。

<図表3-2-4-2 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）>



<図表3-2-4-3 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）>



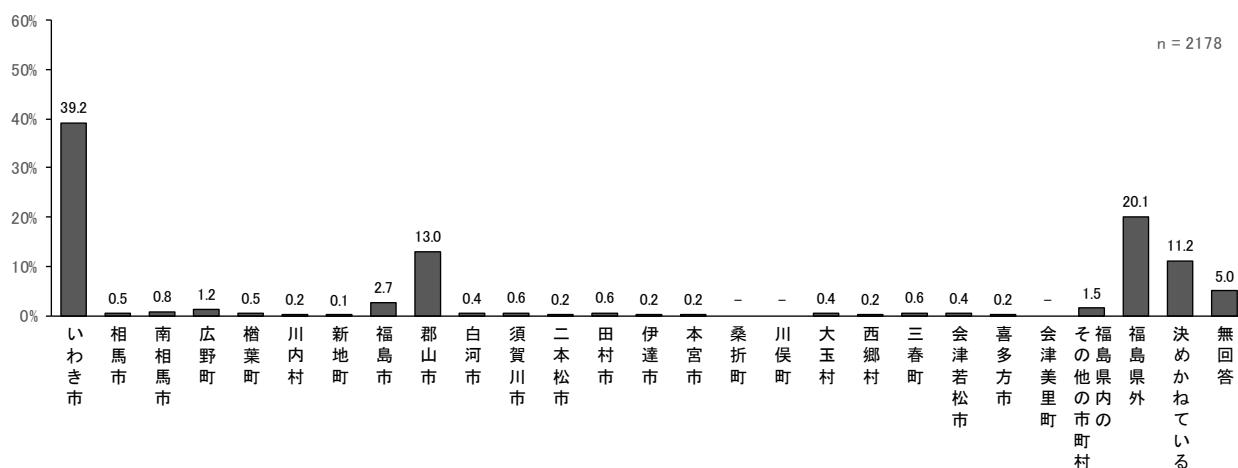
3-2-5 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

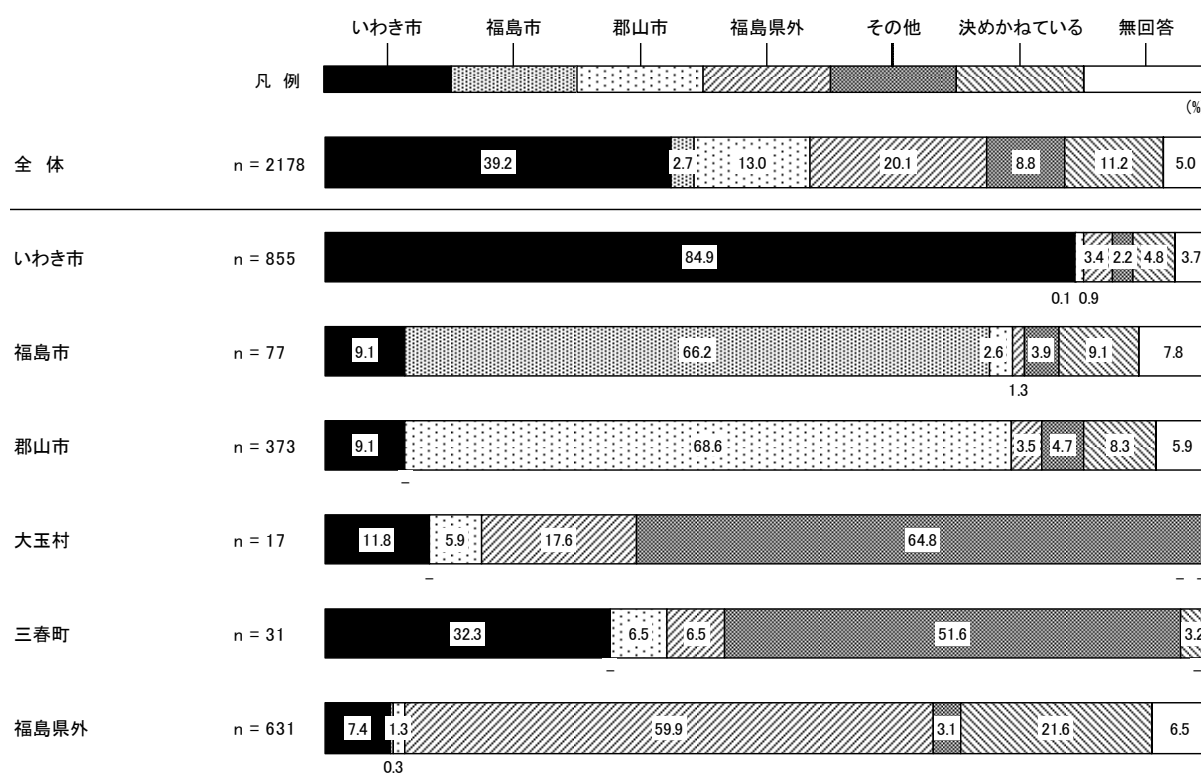
問8-4 入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

復興公営住宅に入居を希望しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が39.2%と最も高く、次いで「福島県外」が20.1%、「郡山市」が13.0%となっている。
 主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体での居住を希望する割合が高い。

<図表3-2-5-1 入居を希望しない場合に居住したい自治体>



<図表3-2-5-2 入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3 将来の意向

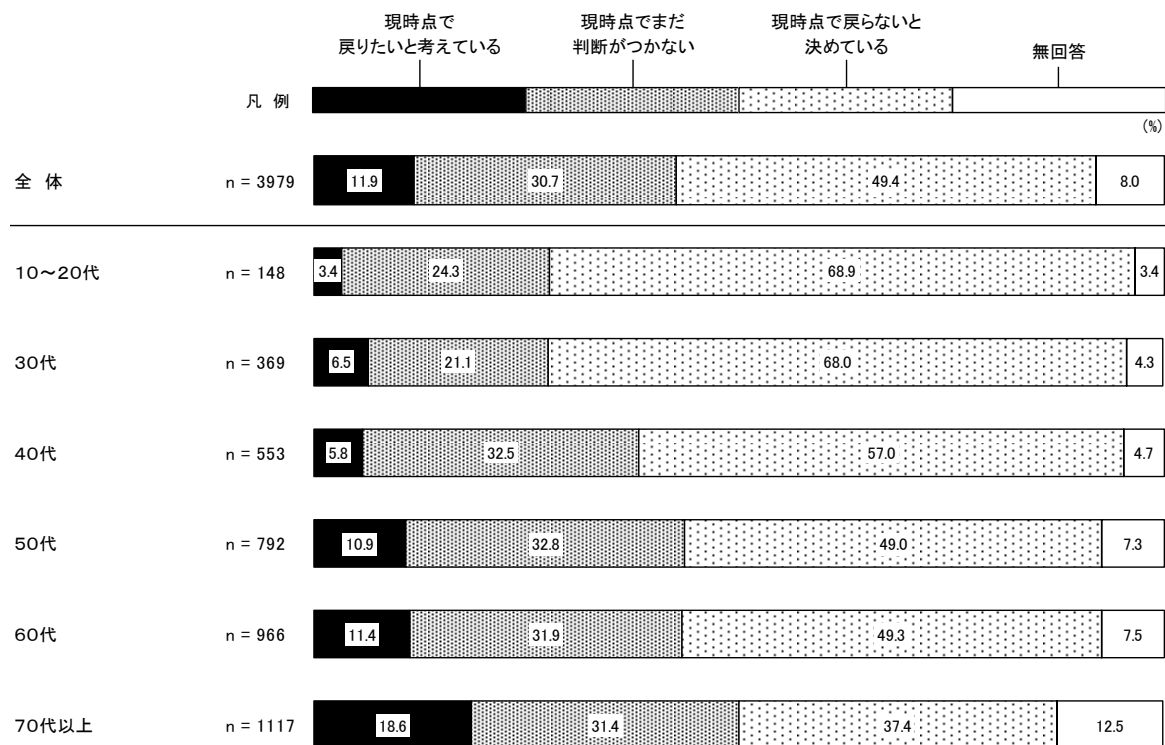
3-3-1 富岡町への帰還意向

問9 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（〇は1つ）

将来、富岡町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「現時点で戻りたいと考えている」が11.9%、「現時点でまだ判断がつかない」が30.7%、「現時点で戻らないと決めている」が49.4%となっている。

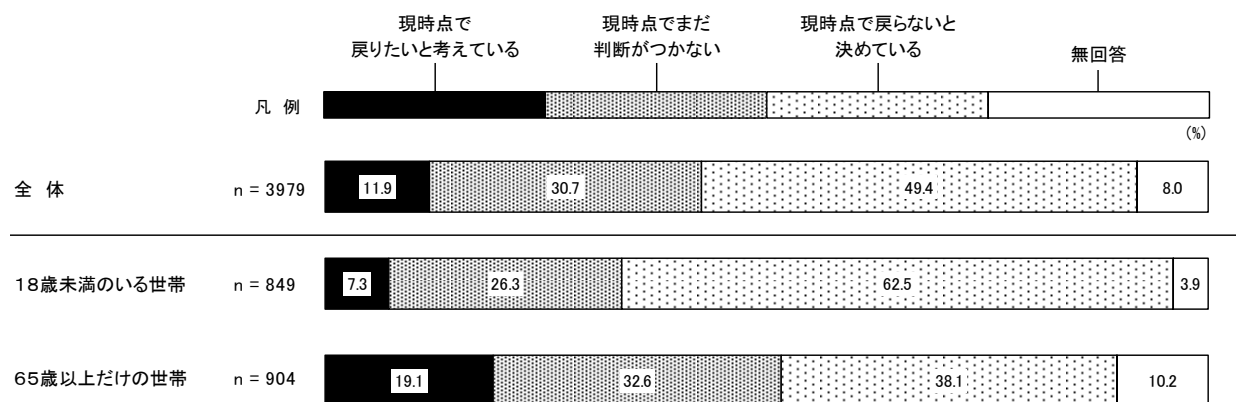
回答者の年齢別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は70代以上（18.6%）で2割近くと高くなっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は若年層で高く10～20代（68.9%）、30代（68.0%）では7割近くを占める。また、40代でも57.0%と過半数を占めている。

<図表3-3-1-1 富岡町への帰還意向（年齢別）>



世帯構成別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は65歳以上の世帯では19.1%となっており高くなっている。一方、「現時点で戻らないと決めている」は、18歳未満のいる世帯で62.5%と高くなっている。

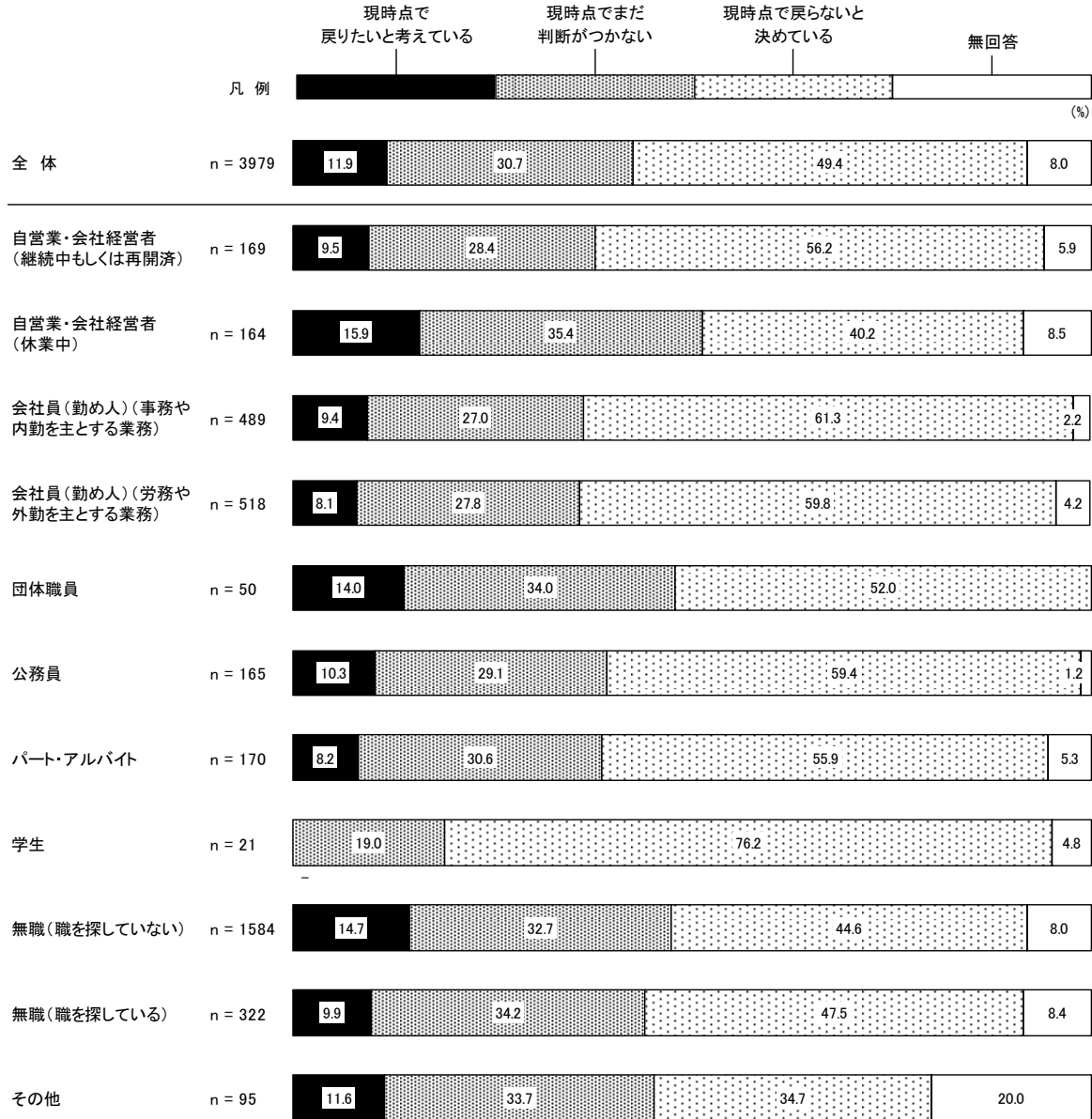
<図表3-3-1-2 富岡町への帰還意向（世帯構成別）>



III 調査結果

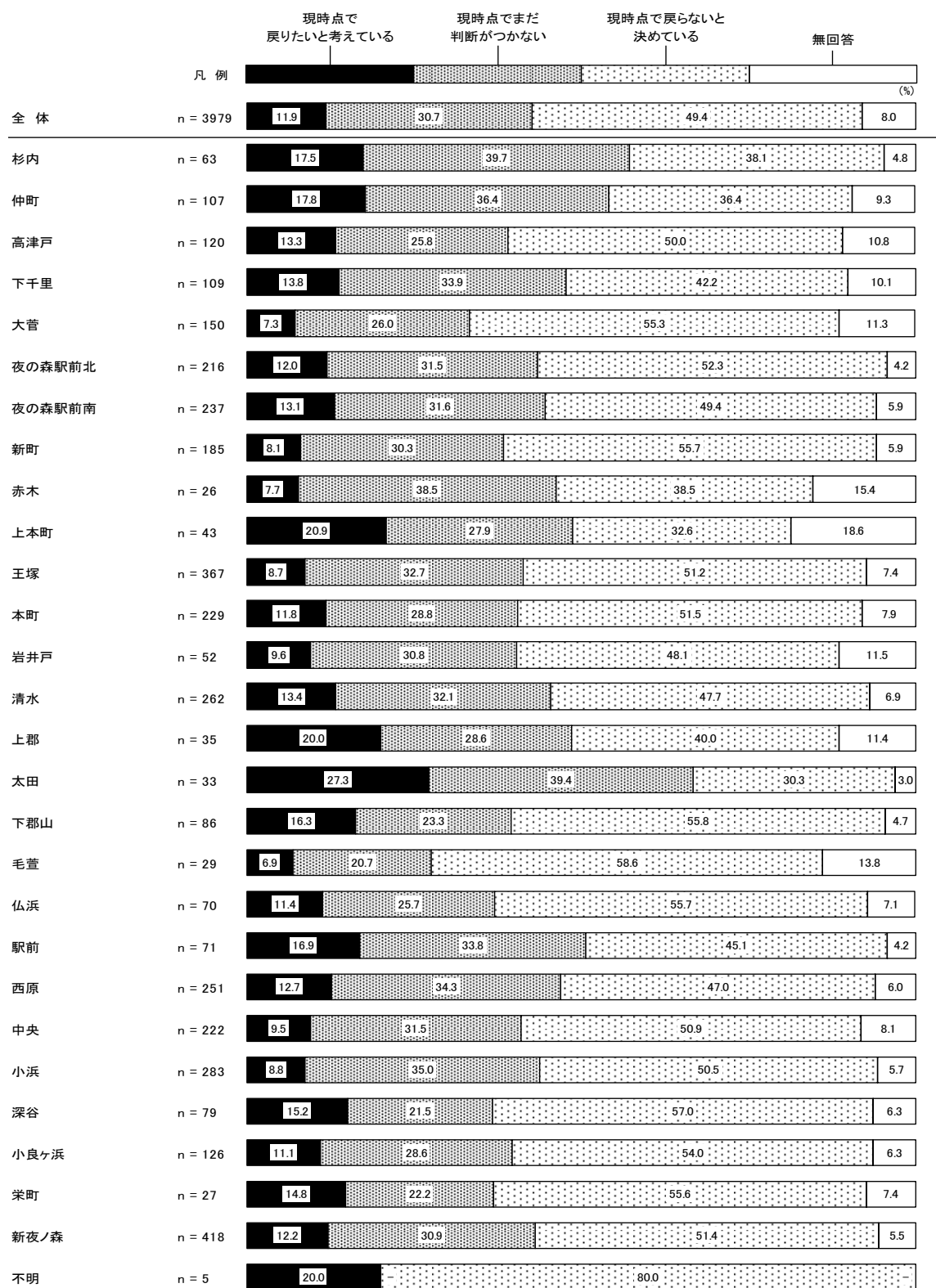
職業別にみると、「現時点で戻らないと決めている」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）（56.2%）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（61.3%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（59.8%）、公務員（59.4%）、パート・アルバイト（55.9%）で5割台半ばから6割と高くなっている。

<図表3-3-1-3 富岡町への帰還意向（職業別）>



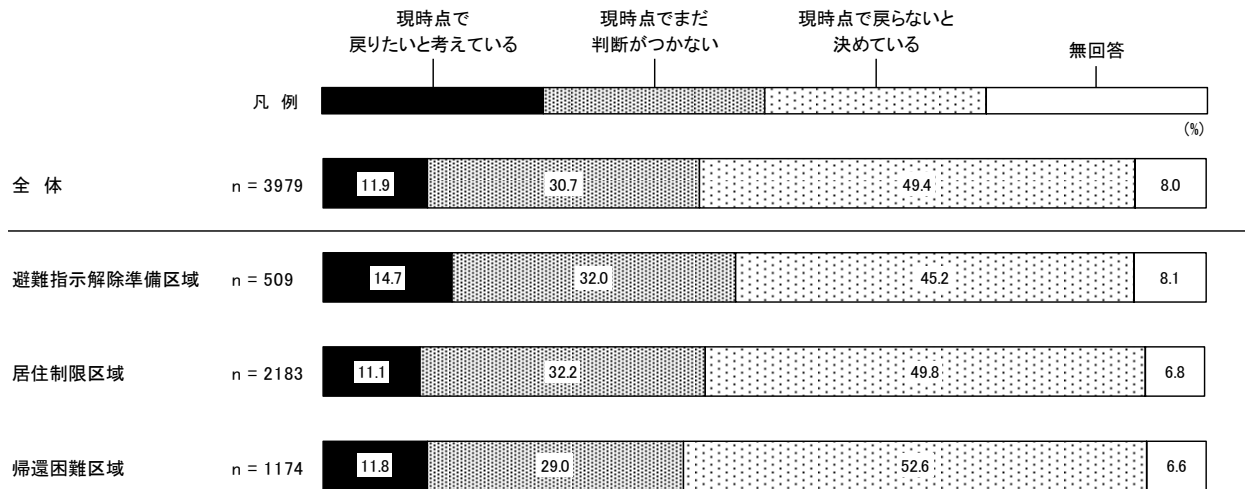
震災発生当時の行政区別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は太田(27.3%)、上本町(20.9%)、上郡(20.0%)、仲町(17.8%)、杉内(17.5%)、駅前(16.9%)で高くなっている。

＜図表3-3-1-4 富岡町への帰還意向（震災発生当時の行政区別）＞

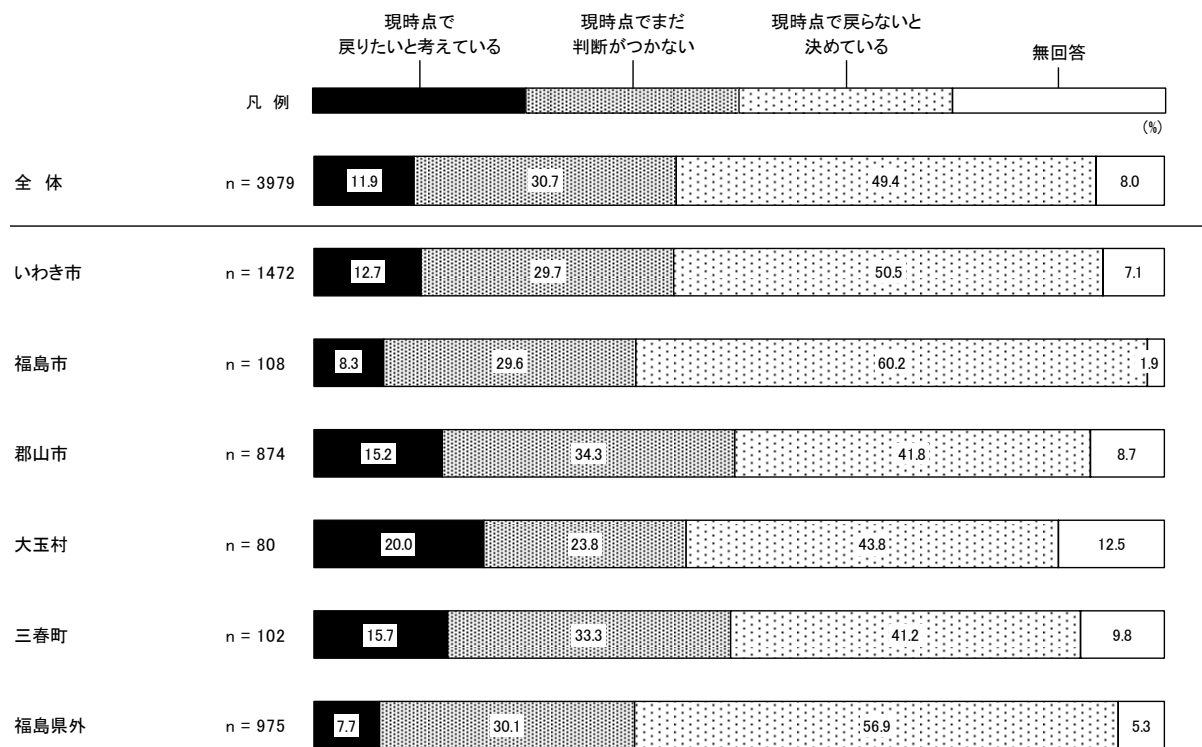


主な避難先自治体別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は大玉村（20.0%）で2割と高くなっている。

<図表3-3-1-5 富岡町への帰還意向（避難指示区域別）>



<図表3-3-1-6 富岡町への帰還意向（主な避難先自治体別）>



3-3-2 富岡町との“つながり”を保ちたいか

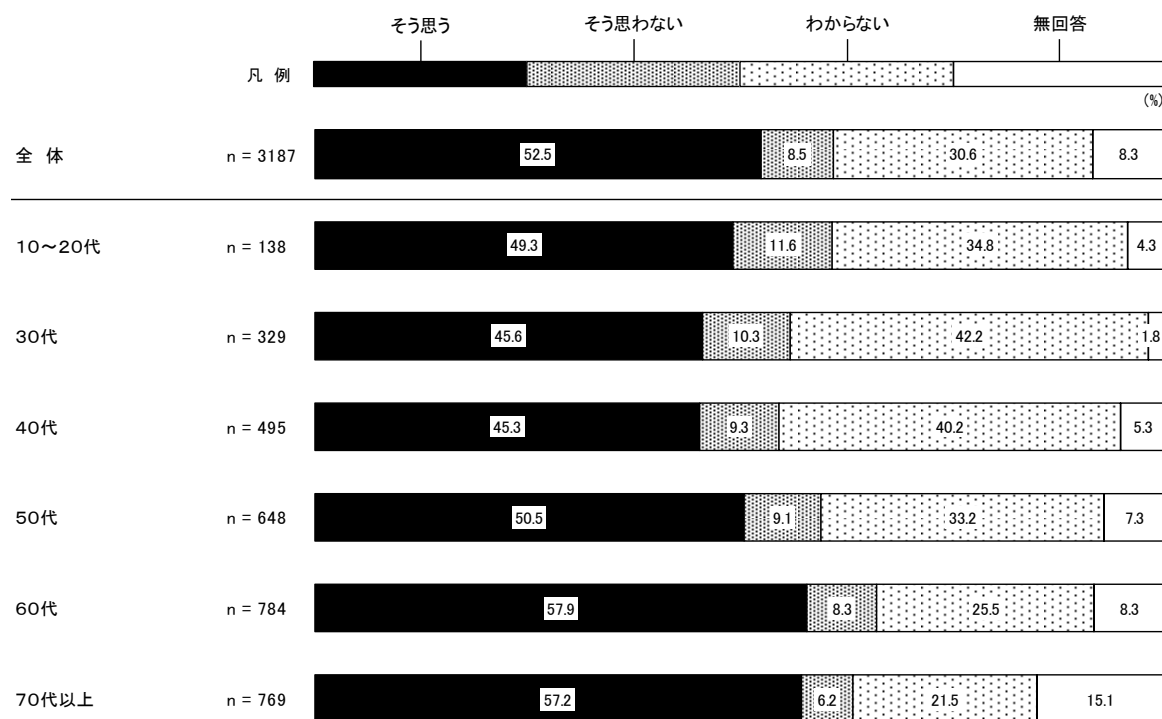
【富岡町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方、現時点で戻らないと決めている方（問9で「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問9-3 富岡町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

富岡町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が52.5%、次いで「わからない」が30.6%、「そう思わない」が8.5%となっている。

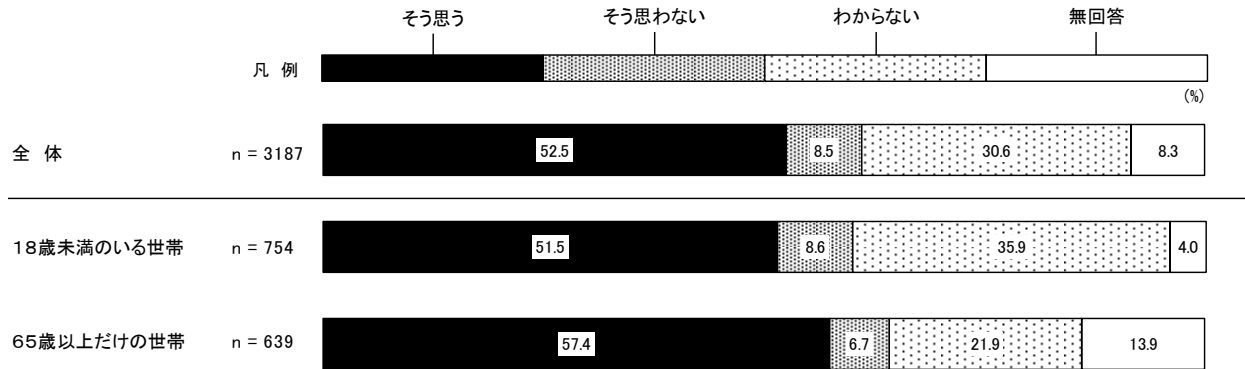
回答者の年齢別にみると、50代以上では「そう思う」が過半数を占める。

<図表3-3-2-1 富岡町との“つながり”を保ちたいか（年齢別）>

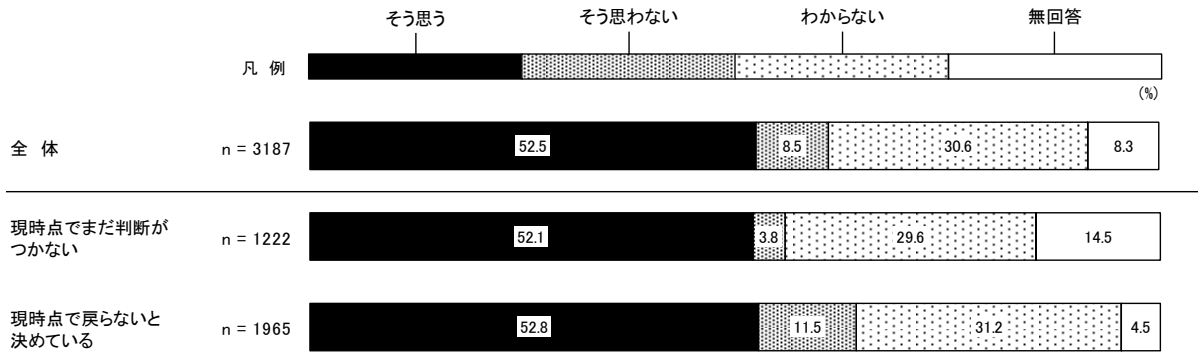


世帯構成別、帰還意向別ともに、「そう思う」がいずれの区分でも過半数を占める。

<図表3-3-2-2 富岡町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）>



<図表3-3-2-3 富岡町との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）>



3-3-3 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報

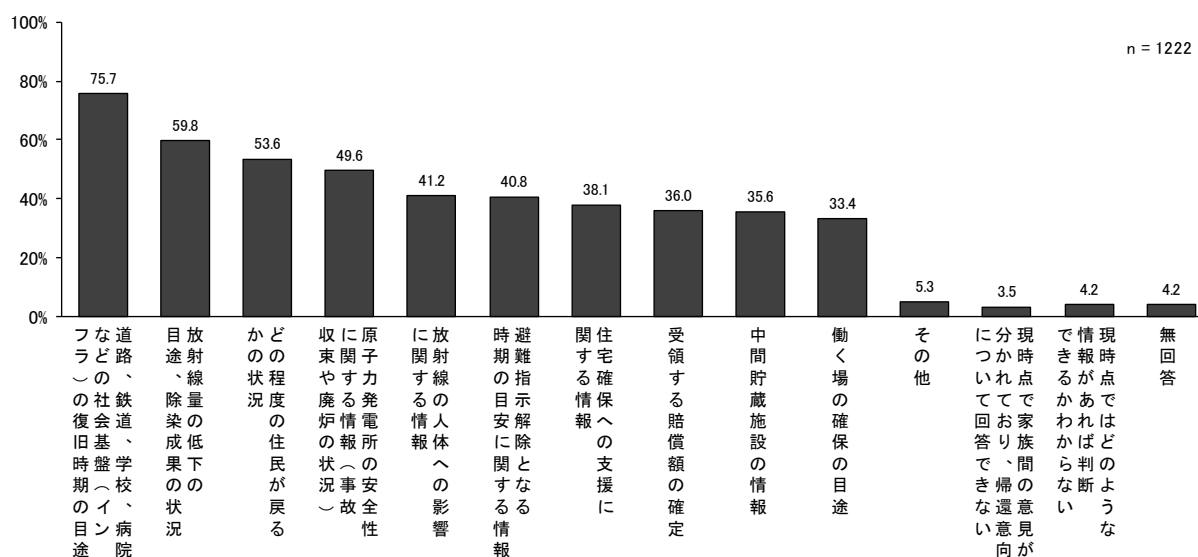
(1) 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【富岡町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問9で「2」と回答した方）にうかがいます。】

問9-2-1 富岡町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が75.7%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が59.8%、「どの程度の住民が戻るかの状況」が53.6%となっている。

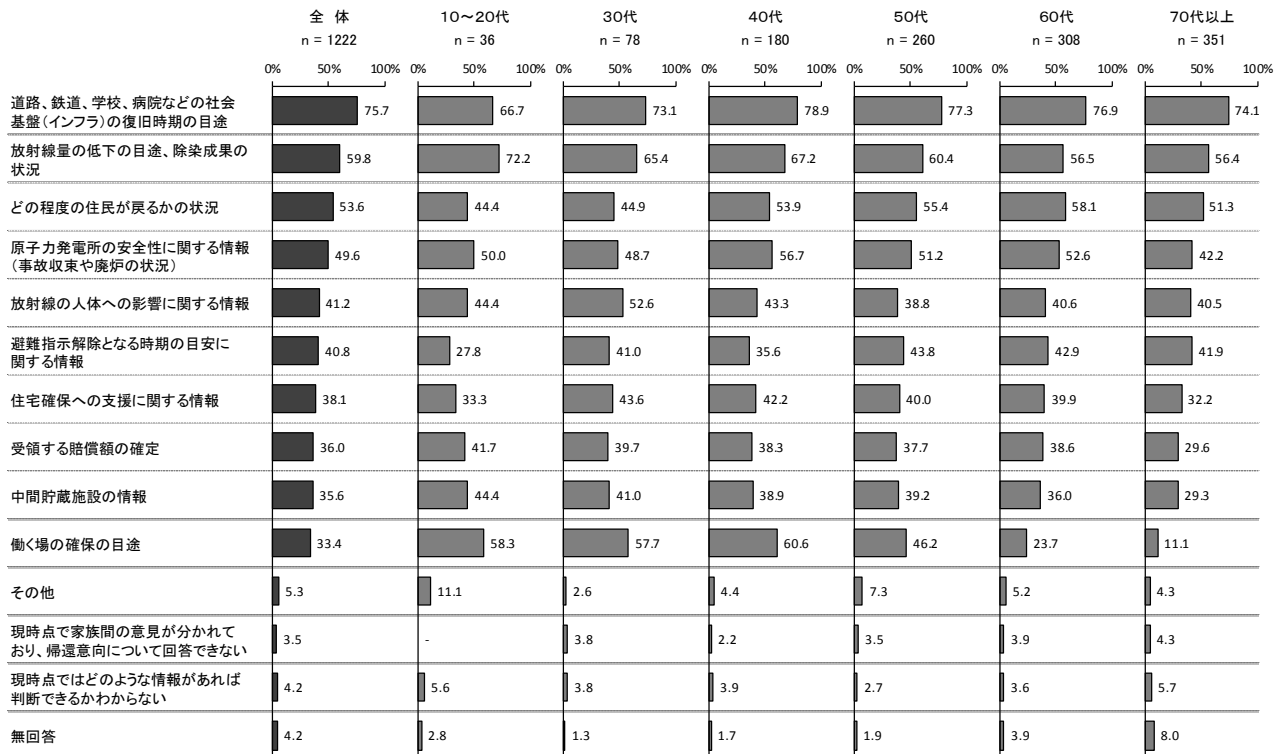
<図表3-3-3-1 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

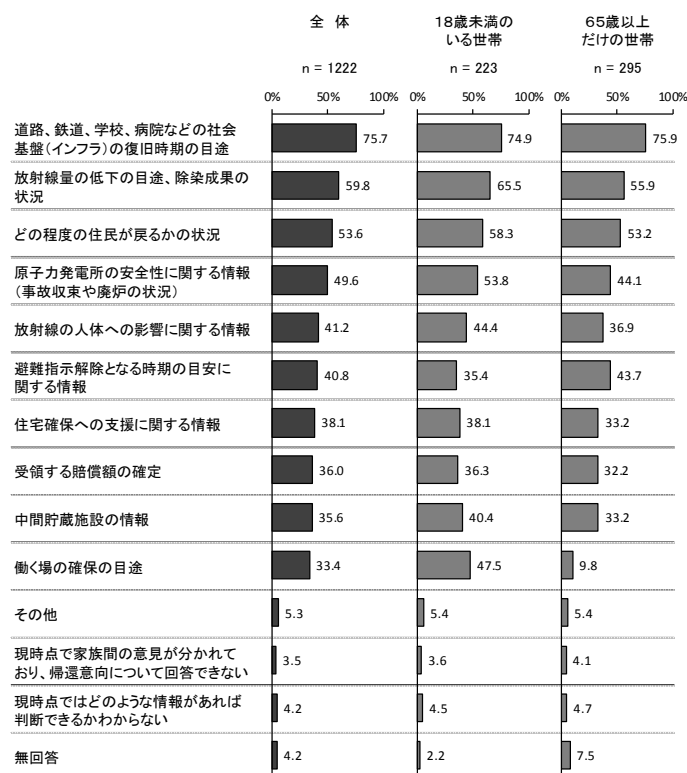
回答者の年齢別にみると、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」は10～20代（72.2%）、30代（65.4%）、40代（67.2%）で7割前後と高くなっている。「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」は40代（56.7%）が高い。「働く場の確保の目途」は10～20代（58.3%）、30代（57.7%）、40代（60.6%）、50代（46.2%）で高くなっている。

<図表3-3-3-2 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、「働く場の確保の目的」は18歳未満のいる世帯（47.5%）で高くなっている。

<図表3-3-3-3 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>

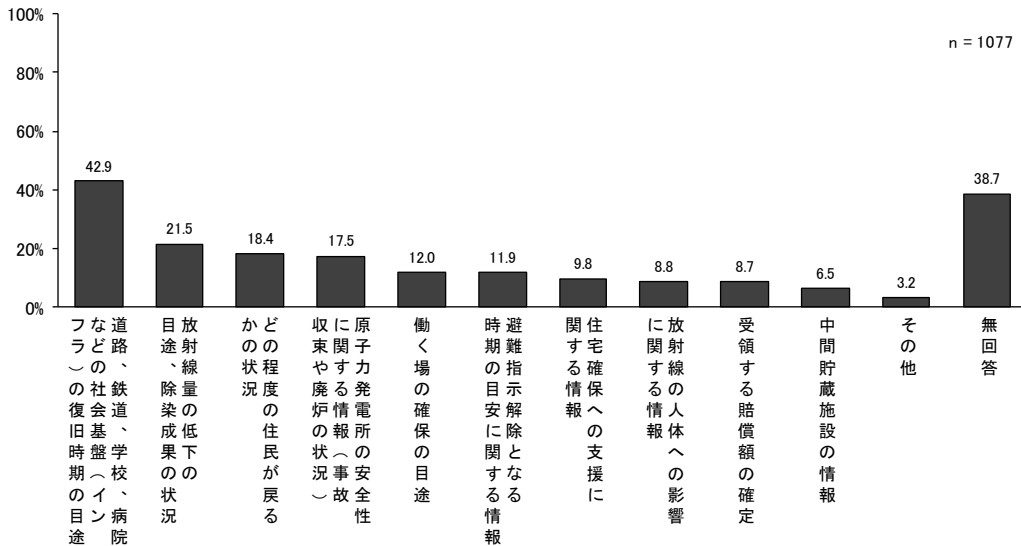


(2) 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【富岡町への帰還について、現時点ではまだ判断できない方（問9で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問9-2-2 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が42.9%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が21.5%、「どの程度の住民が戻るかの状況」が18.4%となっている。

<図表3-3-3-4 富岡町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途]

- 学校・病院が、きちんと復旧し、病院は全ての科があれば。（10～20代）
- 特に夜間救命を行う医療施設の設置。（10～20代）
- 原発事故以前と同等の社会基盤復旧の確定。（30代）
- 常磐線開通、常磐道開通、学校の通常運営（部活、クラス編成等）。（30代）
- JR復旧、以前の様に町内で事が足りれば良いと思う。（40代）
- 生活に必要なインフラは全て整わないと戻れない。（40代）
- 水道、下水道、電気復旧を基準に住宅復旧時期開始可否の判断が可。（50代）
- 福祉施設、緊急時入院施設の有無。（50代）
- JR富岡駅の再開。（60代）
- 水（飲み水等）の安全。店、病院は必須。（60代）
- 食糧の入手が簡単にできること。衣類、雑貨等が入手できること。医療機関が近くにあること。（70代以上）
- 自家用車を持たない独り暮らしなので交通の利便さ。（70代以上）

[放射線量の低下の目途、除染成果の状況]

- 年間追加被ばく1ミリシーベルト以内の確定。(30代)
- 子供にほぼ影響のない放射線量の低下。(30代)
- 除染の成果が多少でもあるのは認めるが、住民の意向に沿って、即時、再除染を実施すべきである。でなければ住民帰還が進まないであろう。(40代)
- 自宅及び付近の除染。(40代)
- $0.23 \mu\text{Sv/h}$ 以下。(50代)
- 子供が住めるのか。畑等で作物を作れるのか(除染効果)。(50代)
- 空間線量が事故発生前の値まで下がる事。(60代)
- 1F建屋からの放射線量の状況。(60代)
- 帰還の基本は除染(安全性)。自然界により近い数(0.04マイクロシーベルト前後)。(70代以上)
- 放射線量の低下目途、除染成果がどこまで進むのか?若者が帰還するには何年かかるのかははっきりしてほしいです。(70代以上)

[どの程度の住民が戻るかの状況]

- 人数が少ないと不安、高齢者のみになってしまわないか。(10~20代)
- まわりが戻らなければさびしい。(10~20代)
- 仕事柄、生活する人が増えてコミュニティとして(小さくても)成り立った時には戻りたい。(30代)
- 幅広い年代でコミュニティが形成できるか。(30代)
- 戻る住民の年齢、子供たちが住み学校が機能するか。(40代)
- 震災前の人口の半分以上の住民の帰還。(40代)
- 住民の70%が、3年以内に戻るか。(50代)
- 町としての機能が維持できるだけの住民が戻るのか。(50代)
- 友人達がどの位戻るのか?サークル活動が出来るか。(60代)
- 部落に何人も戻らなくては帰る気になれない。(60代)
- 震災前の3分の1の人口。(70代以上)
- 近所の方が、前のように住んでいるかどうか。(70代以上)

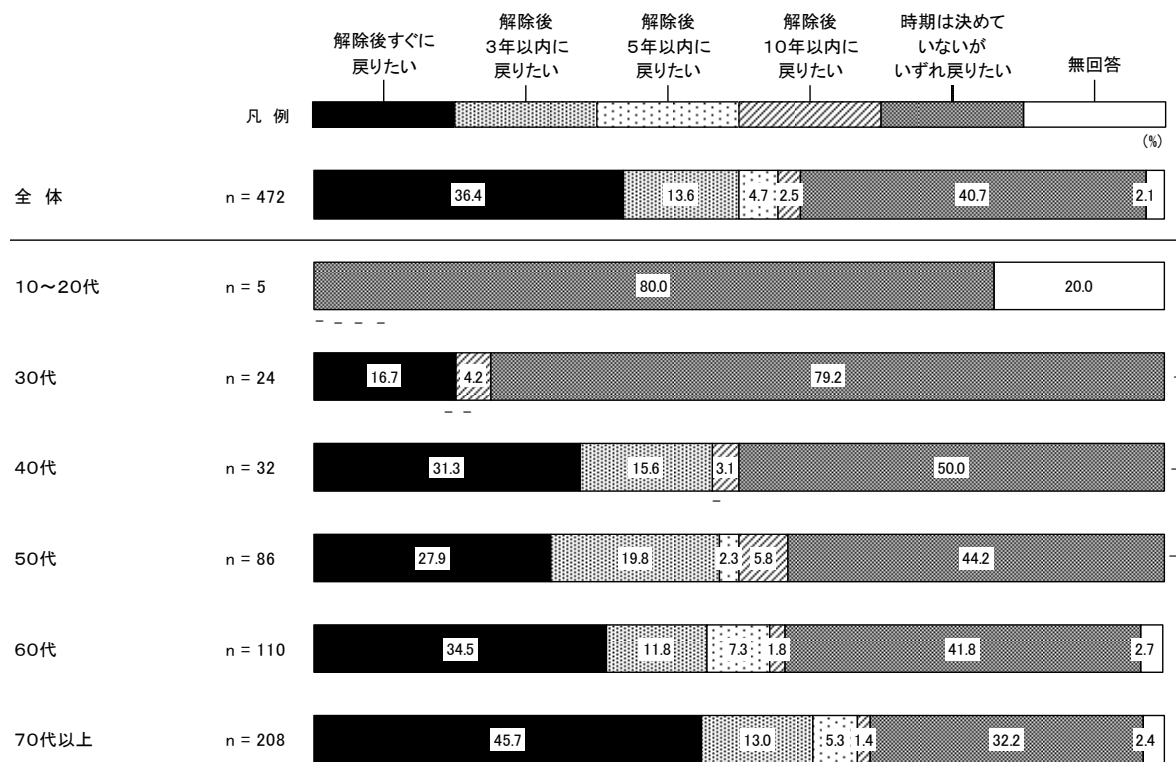
3-3-4 富岡町への帰還時期

【富岡町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問9で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問9-1-1 富岡町へ戻る時期を教えてください。（〇はひとつ）

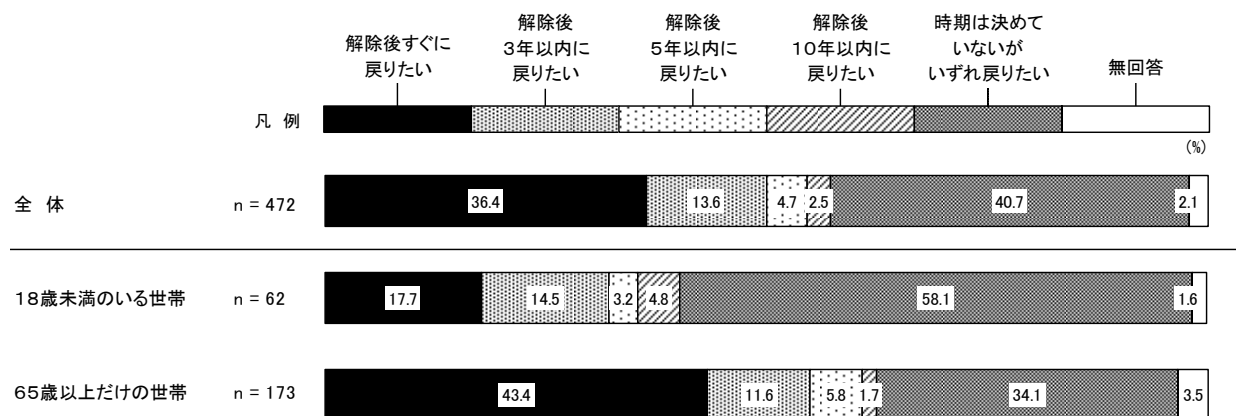
富岡町への帰還時期については、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が40.7%と最も高く、次いで「解除後すぐに戻りたい」が36.4%、「解除後3年以内に戻りたい」が13.6%となっている。
回答者の年齢別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は70代以上で45.7%と高くなっている。

<図表3-3-4-1 富岡町への帰還時期（年齢別）>



世帯構成別にみると、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」は18歳未満のいる世帯（58.1%）で過半数を占める。一方、65歳以上だけの世帯では「解除後すぐに戻りたい」が高く43.4%となっている。

<図表3-3-4-2 富岡町への帰還時期（世帯構成別）>



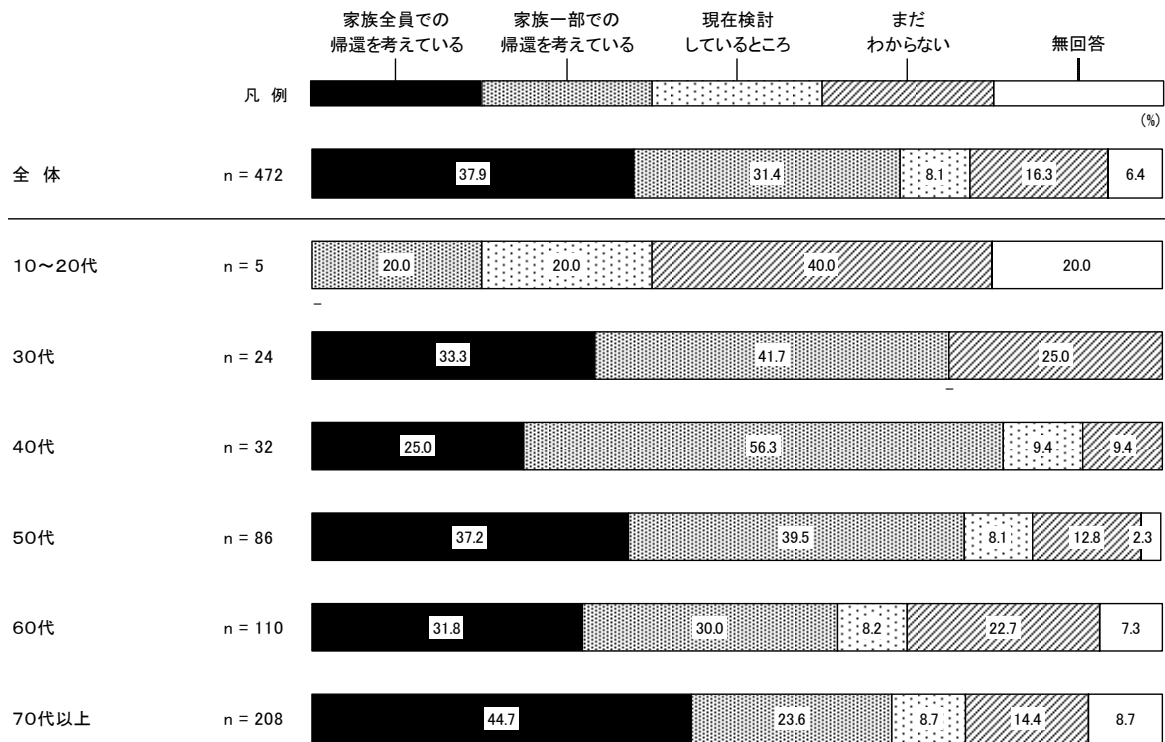
3-3-5 富岡町へ戻る場合の家族

【富岡町への帰還について、現時点で戻りたいと考えている方（問9で「1」と回答した方）にうかがいます。】
 問9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇はひとつ）

富岡町へ戻る場合の家族については、「家族全員での帰還を考えている」が37.9%、次いで「家族一部での帰還を考えている」が31.4%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて24.4%となっている。

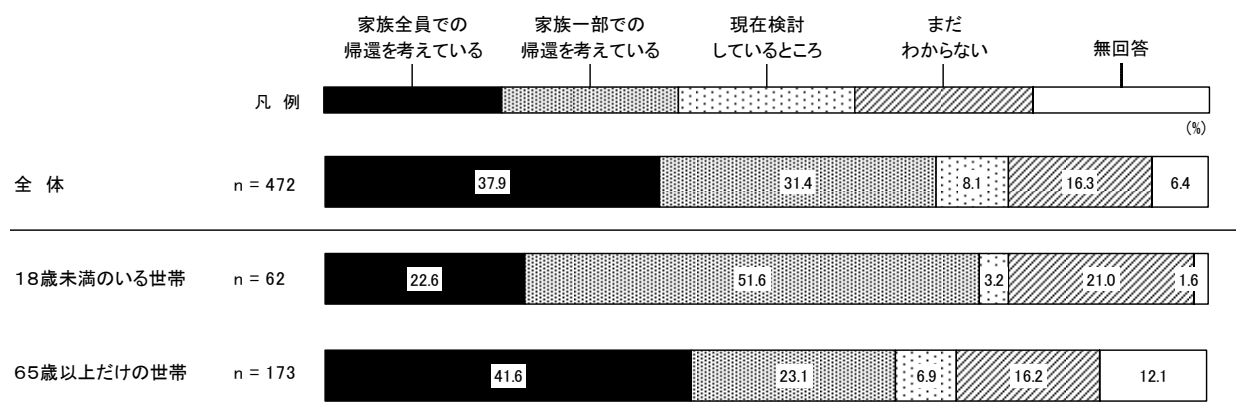
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は70代以上（44.7%）で4割以上となっている。「家族一部での帰還を考えている」は40代（56.3%）、50代（39.5%）で高い。

<図表3-3-5-1 富岡町へ戻る場合の家族（年齢別）>



世帯構成別にみると、「家族一部での帰還を考えている」は18歳未満のいる世帯（51.6%）で過半数を占めている。

<図表3-3-5-2 富岡町へ戻る場合の家族（世帯構成別）>



3-3-6 富岡町へ帰還する場合の住居形態

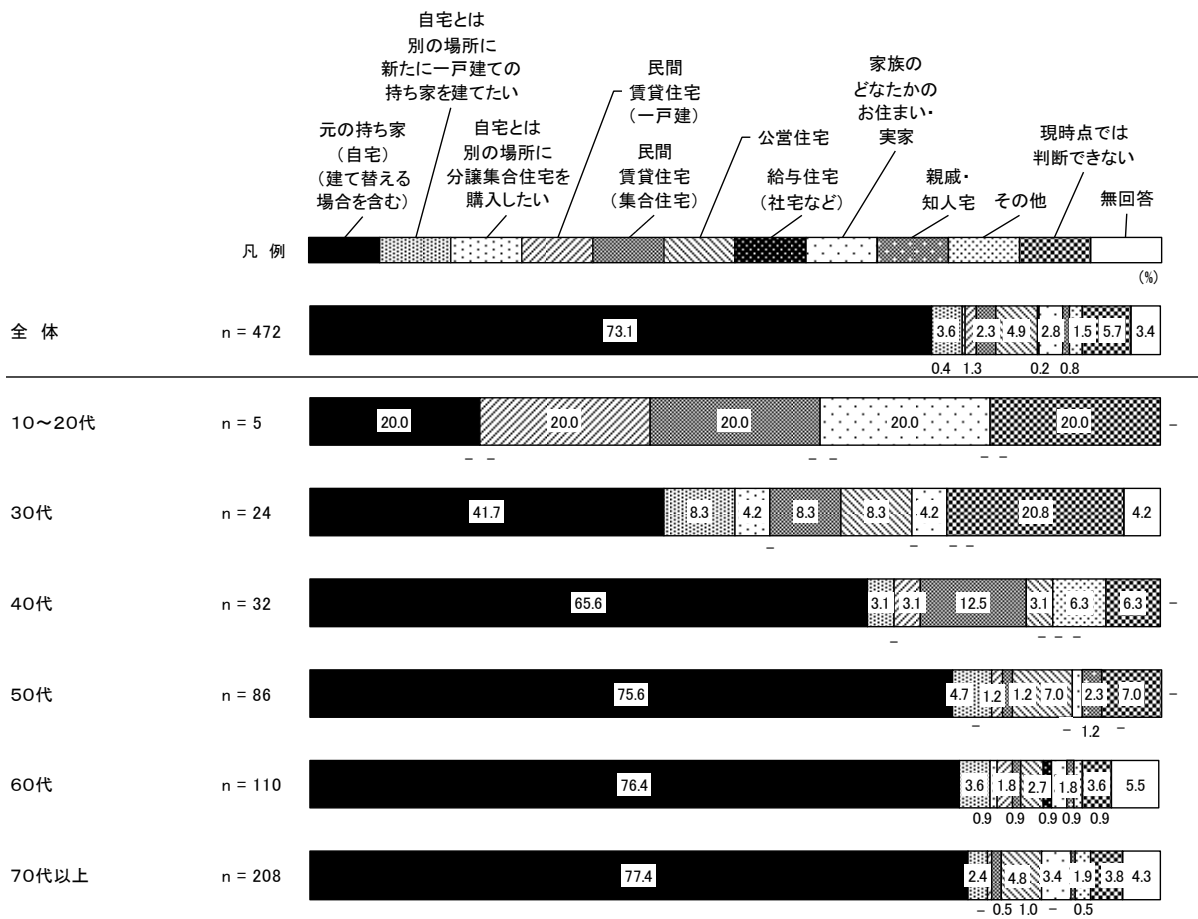
【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

富岡町への帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が73.1%と最も高く、7割以上を占めている。

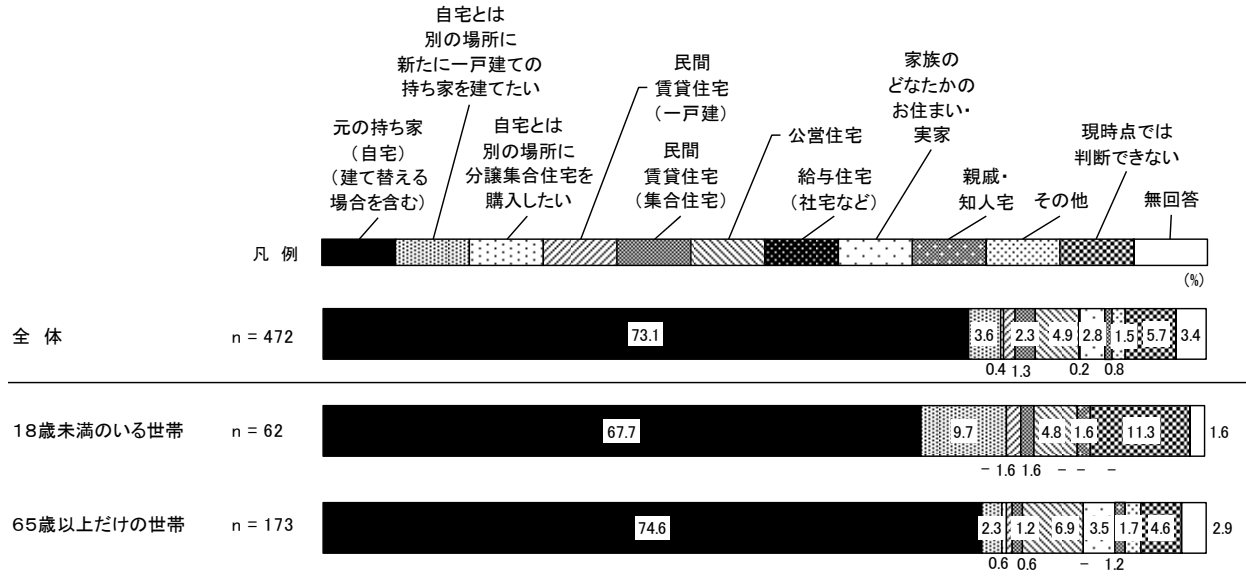
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が最も高い。

<図表3-3-6-1 富岡町へ帰還する場合の住居形態(年齢別)>



世帯構成別にみても、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

<図表3-3-6-2 富岡町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



<図表3-3-6-3 富岡町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の行政区別）>

		(%)												
	n	元の持ち家（自宅を含む）	新たに別の場所に持ち家を建てたい	自宅とは別の場所に購入した	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答	
全体	472	73.1	3.6	0.4	1.3	2.3	4.9	0.2	2.8	0.8	1.5	5.7	3.4	
衫内	11	90.9	-	-	-	-	9.1	-	-	-	-	-	-	
仲町	19	89.5	-	-	-	-	-	-	5.3	-	-	-	5.3	
高津戸	16	68.8	-	-	-	-	-	-	-	-	6.3	25.0	-	
下千里	15	80.0	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	6.7	
大菅	11	81.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	
夜の森駅前北	26	65.4	3.8	-	-	3.8	3.8	-	3.8	3.8	-	11.5	3.8	
夜の森駅前南	31	54.8	6.5	-	3.2	3.2	16.1	-	3.2	-	6.5	3.2	3.2	
新町	15	93.3	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
赤木	2	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	
上本町	9	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
王塚	32	75.0	3.1	-	-	3.1	9.4	-	3.1	-	-	6.3	-	
本町	27	74.1	7.4	-	-	3.7	-	-	-	3.7	-	7.4	3.7	
岩井戸	5	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
清水	35	85.7	2.9	-	-	2.9	2.9	-	2.9	-	2.9	-	-	
上郡	7	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
太田	9	77.8	-	-	-	-	-	-	-	22.2	-	-	-	
下郡山	14	78.6	-	-	-	-	7.1	-	-	-	7.1	-	7.1	
毛萱	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	
仏浜	8	37.5	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	
駅前	12	58.3	8.3	-	-	-	-	-	8.3	-	8.3	16.7	-	
西原	32	62.5	6.3	-	6.3	6.3	6.3	-	6.3	-	-	6.3	-	
中央	21	76.2	-	-	-	-	9.5	4.8	-	-	-	9.5	-	
小浜	25	60.0	4.0	-	4.0	4.0	12.0	-	4.0	-	-	4.0	8.0	
深谷	12	83.3	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	8.3	
小良ヶ浜	14	64.3	-	-	7.1	7.1	-	-	-	-	-	7.1	14.3	
栄町	4	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新夜ノ森	51	72.5	2.0	2.0	-	3.9	2.0	-	3.9	-	-	9.8	3.9	
不明	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

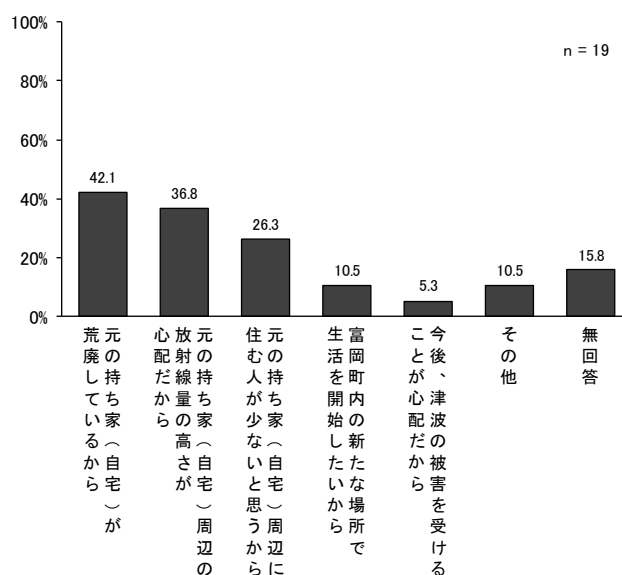
3-3-7 富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問9-4で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問9-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が42.1%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が36.8%、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」が26.3%となっている。

<図表3-3-7-1 富岡町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-3-8 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

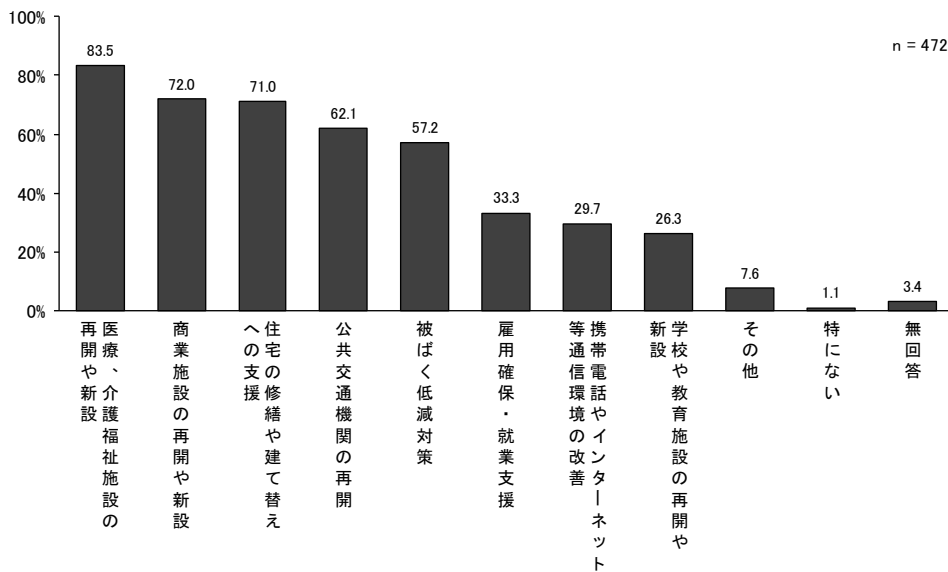
【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 富岡町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

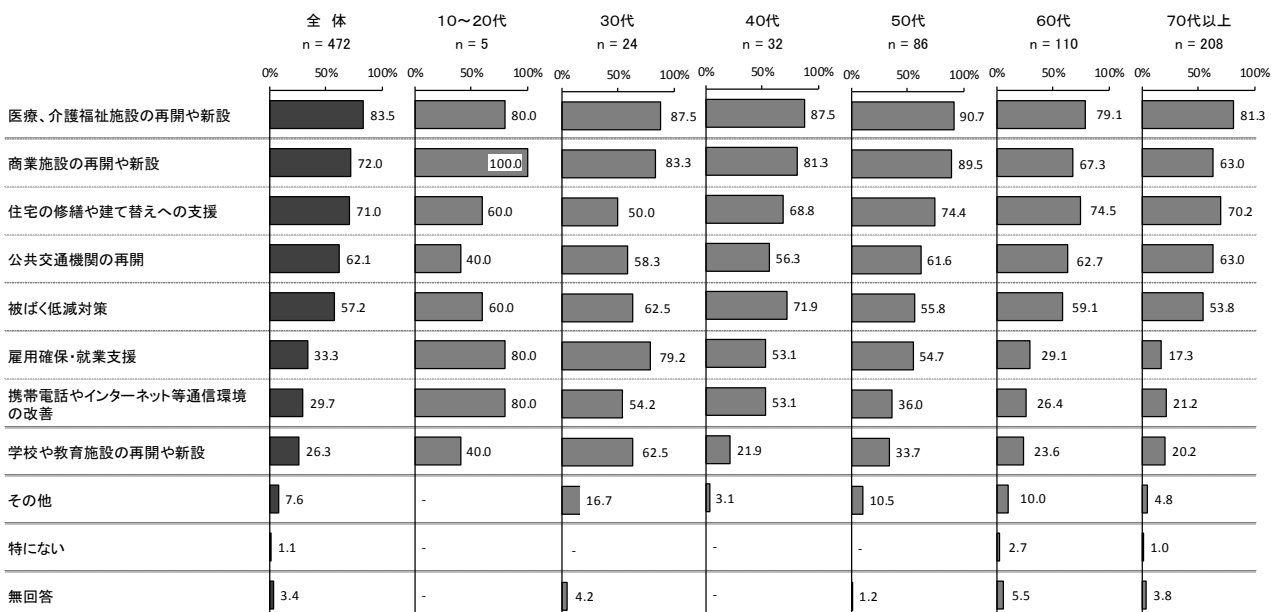
富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が83.5%と最も高く、次いで「商業施設の再開や新設」が72.0%、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が71.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「医療、介護福祉施設の再開や新設」は50代で90.7%と大半を占める。40代、50代では「商業施設の再開や新設」(40代で81.3%、50代で89.5%)、「雇用確保・就業支援」(40代で53.1%、50代で54.7%)、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(40代で53.1%、50代で36.0%)が他の年齢と比べて高くなっている。また、40代では「被ばく低減対策」が7割以上である。

<図表3-3-8-1 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>

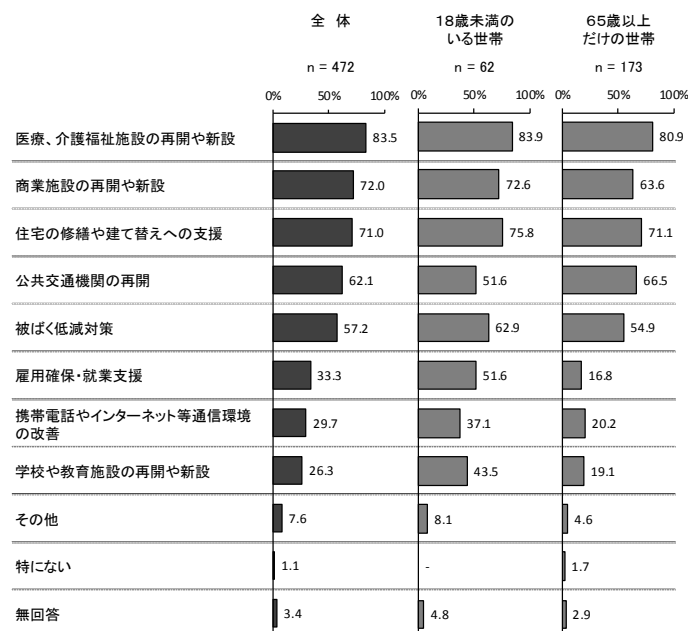


<図表3-3-8-2 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「雇用確保・就業支援」(51.6%)、「学校や教育施設の再開や新設」(43.5%)、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(37.1%)が高くなっている。

<図表3-3-8-3 富岡町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



3-3-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

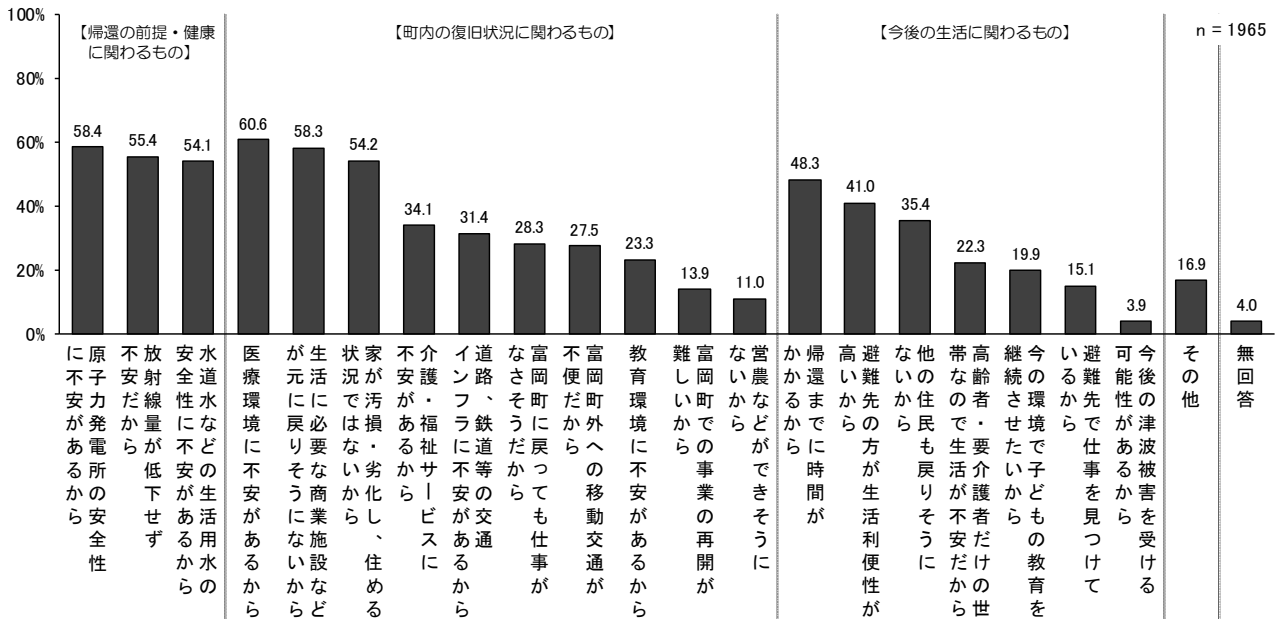
問9-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が58.4%で最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が55.4%、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が54.1%となっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が60.6%で最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が58.3%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が54.2%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「帰還までに時間がかかるから」が48.3%で最も高く、次いで「避難先のほうが生活利便性が高いから」が41.0%、「他の住民も戻りそうにないから」が35.4%となっている。

＜図表3-3-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞

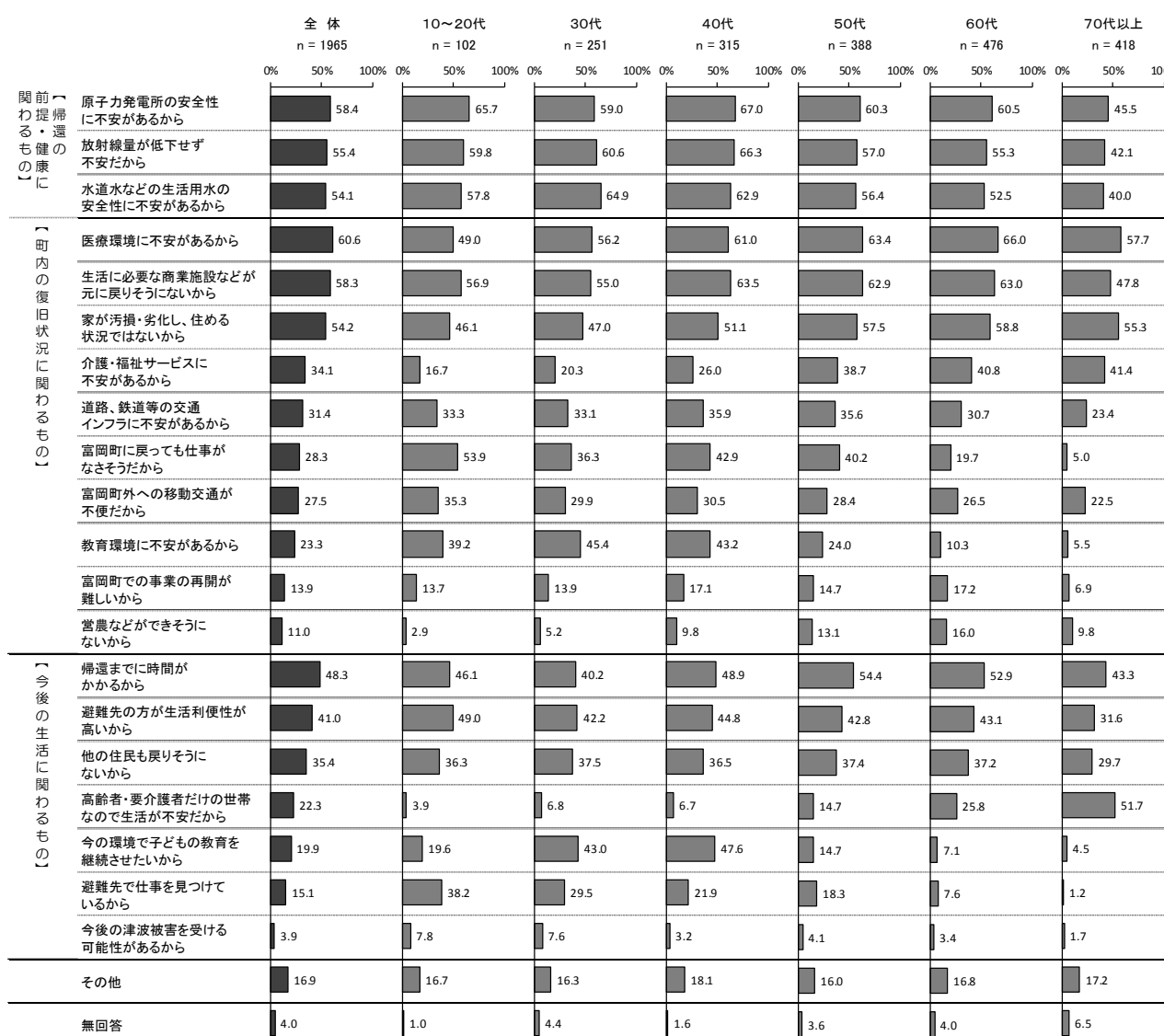


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が10～20代（65.7%）、40代（67.0%）で6割台半ばを占める。「放射線量が低下せず不安だから」と「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代、40代で6割台以上と高い。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が60代で66.0%と最も高い。「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は40代（63.5%）で高い。「富岡町に戻っても仕事になさそうだから」は10～20代（53.9%）、30代（36.3%）、40代（42.9%）、50代（40.2%）の各年齢で高くなっている。また、「教育環境に不安があるから」は10～20代（39.2%）、30代（45.4%）、40代（43.2%）で4割前後と高い。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が70代以上（51.7%）で過半数を占める。「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代（43.0%）、40代（47.6%）で4割以上、「避難先で仕事を見つけているから」は10～20代（38.2%）、30代（29.5%）、40代（21.9%）で2～3割台で高くなっている。

<図表3-3-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>



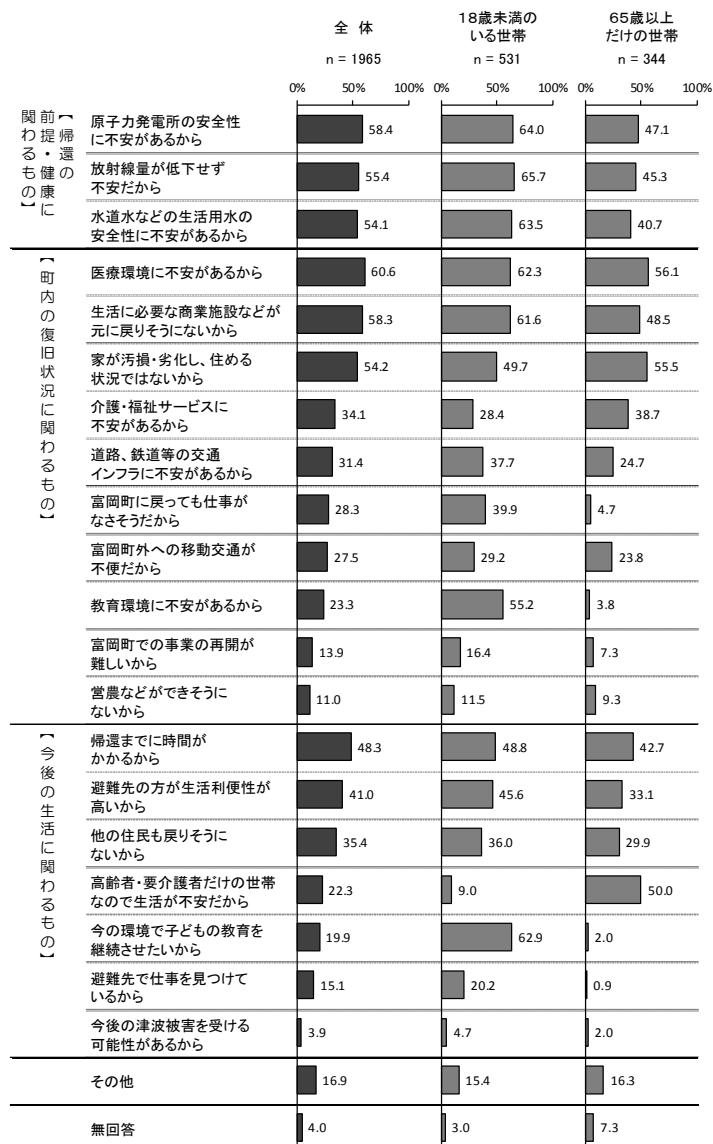
III 調査結果

世帯構成別にみると【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は18歳未満のいる世帯でいずれも6割台以上と高い。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「教育環境に不安があるから」が18歳未満のいる世帯で55.2%と過半数を占める。また、「富岡町に戻っても仕事がなさそうだから」、「道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから」は18歳未満のいる世帯でいずれも4割近くと高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が65歳以上の世帯（50.0%）で半数を占める。「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は18歳未満のいる世帯で（62.9%）で6割以上となっている。

<図表3-3-9-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



3-3-10 帰還しない場合に居住したい自治体

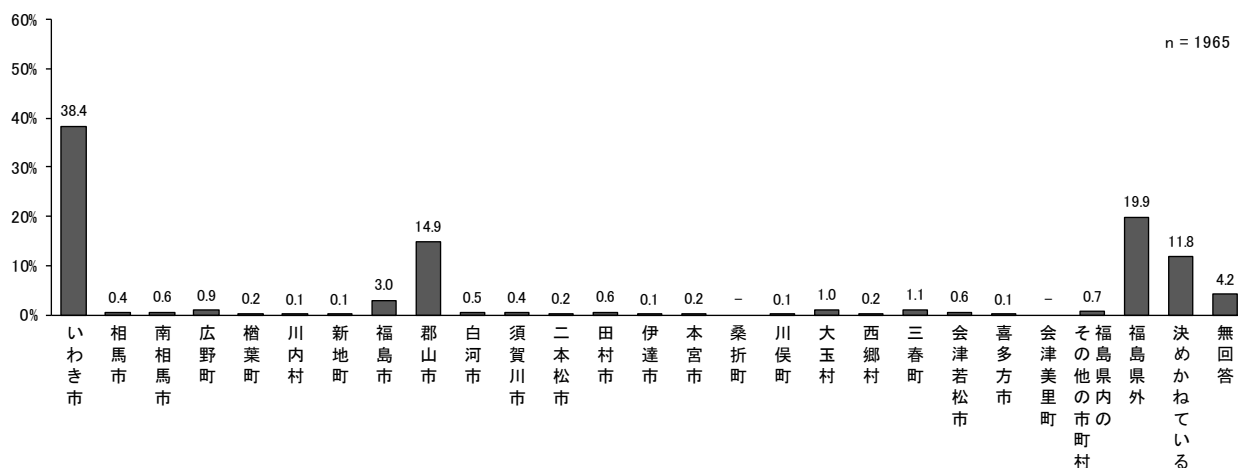
【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問9-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

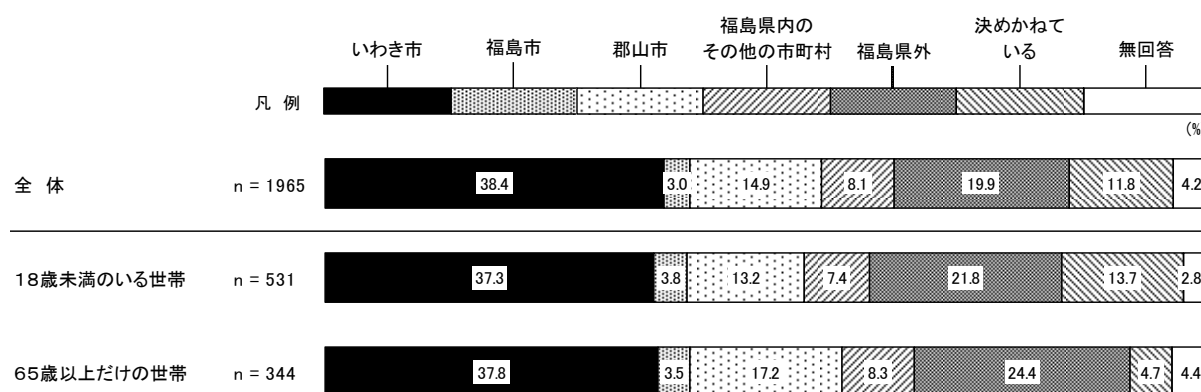
帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が38.4%と最も高く、次いで「福島県外」が19.9%、「郡山市」が14.9%となっている。

世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-3-10-1 帰還しない場合に居住したい自治体>

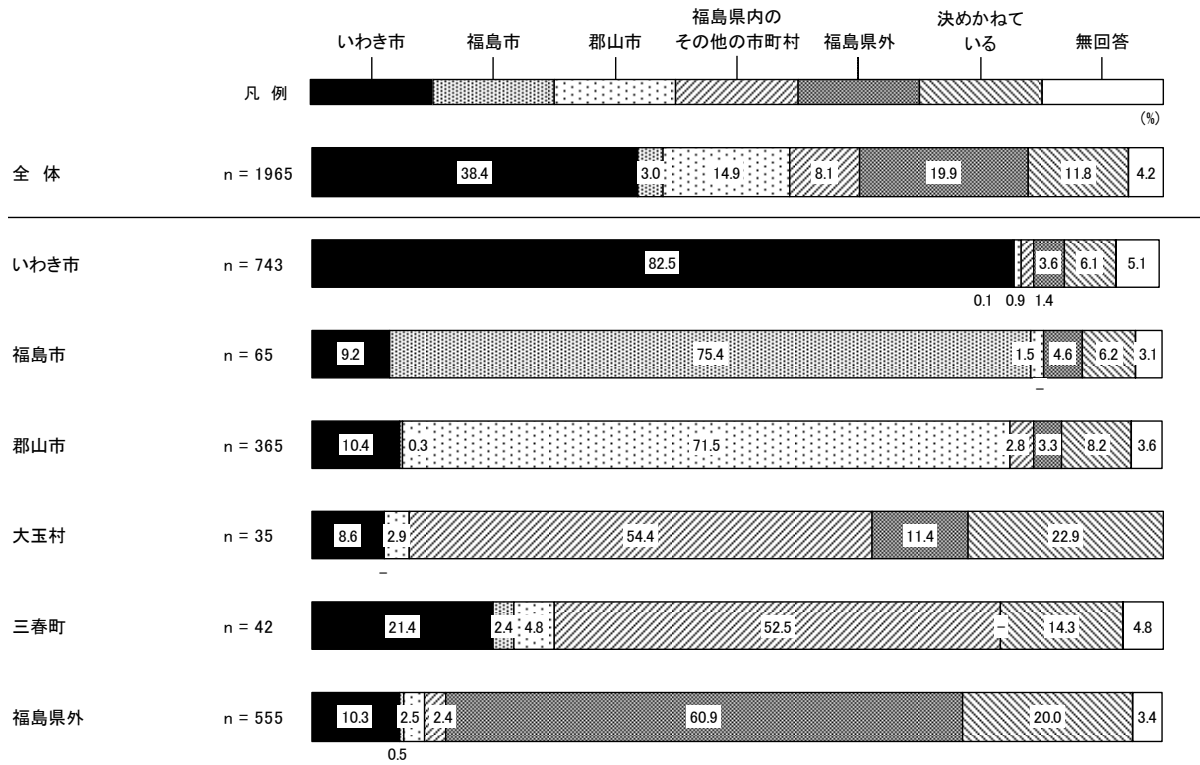


<図表3-3-10-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）>



主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体に居住を希望する割合が高い。

<図表3-3-10-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3-11 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

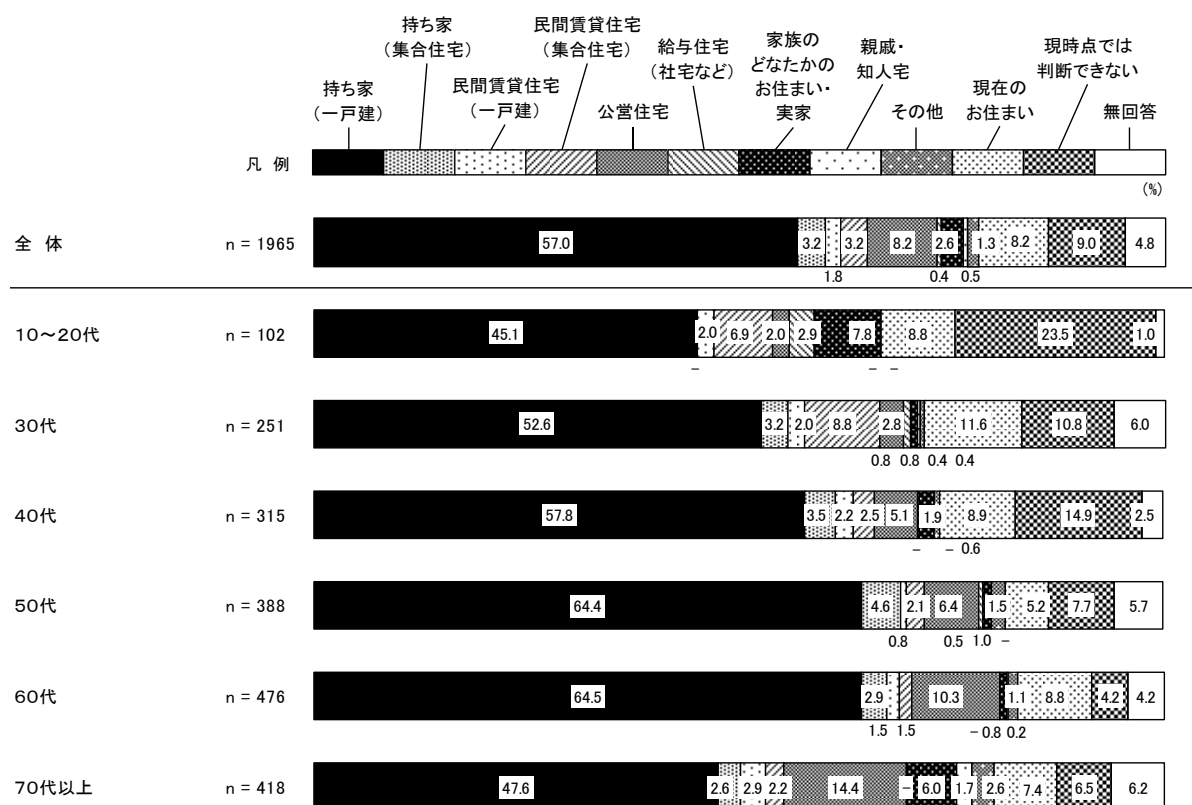
【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問9-9 帰還しない場合に、今後の住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

帰還せず別の自治体に転居する場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が57.0%と最も高く、過半数を占めている。なお「現在のお住まい」（8.2%）の内訳（問7における回答）の主なものは、持ち家（ご本人またはご家族所有）が108件、民間賃貸住宅（有償）が17件、応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）が15件となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は50代で64.4%、60代で64.5%と、ともに6割台半ばを占める。「公営住宅」は70代以上で14.4%と高い。

<図表3-3-11-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）>



3-4 意見・要望

問 10 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,931 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにのあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュール明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興スケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

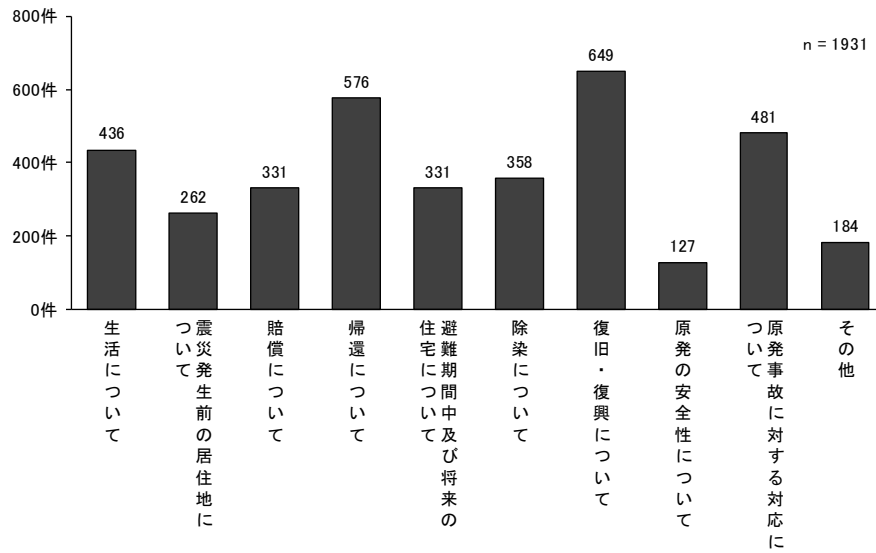
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「復旧・復興について」が649件と最も多く、次いで「帰還について」が576件、「除染について」が358件などとなっている。

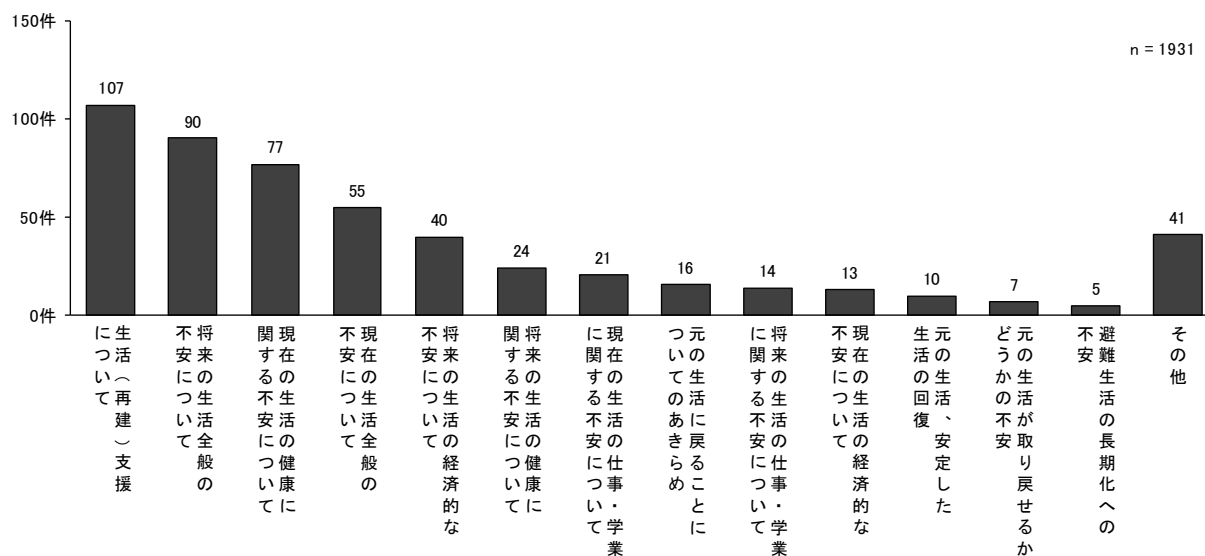
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が107件と最も多く、次いで「将来の生活全般の不安について」が90件、「現在の生活の健康に関する不安について」が77件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 復興住宅への入居者への支援と同じ様に、既に持ち家を得た者への支援もお願いしたい。(40代)
- 生活再建にも、ある程度のまとまった賠償額を出すべき。避難指示区域で賠償額を分けるのは、納得いかない。避難をしている人は、皆同じ境遇である。(50代)
- 介護施設での補助制度を続けて欲しい。高速道路無料化、医療費無料化を続けて欲しい。(70代以上)

【将来の生活全般の不安について】

- 時間が過ぎることで、避難している“ひずみ”が多く出て来ている。特に老人は精神的に厳しくなっているのが目に見えて解る。環境が変わった事で家族が壊れて行く。何がどうなれば富岡住民の復興になるのか見当がつかない。(40代)
- 戻っても、富岡町の人口がどの位になり、生活、医療、買物等を考えると、商売をする方も、医療をする方も、生活出来るだけの収入が見込めるかどうか？年寄りだけが戻って、若い人達が戻らなければ、一時的には良いが、すぐに衰えていってしまうと思います。(60代)
- 人生73年、思ってもいなかった原発事故という最悪の事態になり、夢も希望も失ってしまいました。子供達の里帰りも出来ず、強い絆も崩れそうです。これからどの様にしたら良いのでしょうか、悩みます。希望の持てる日が一日も早く来る事を願っています。(70代以上)

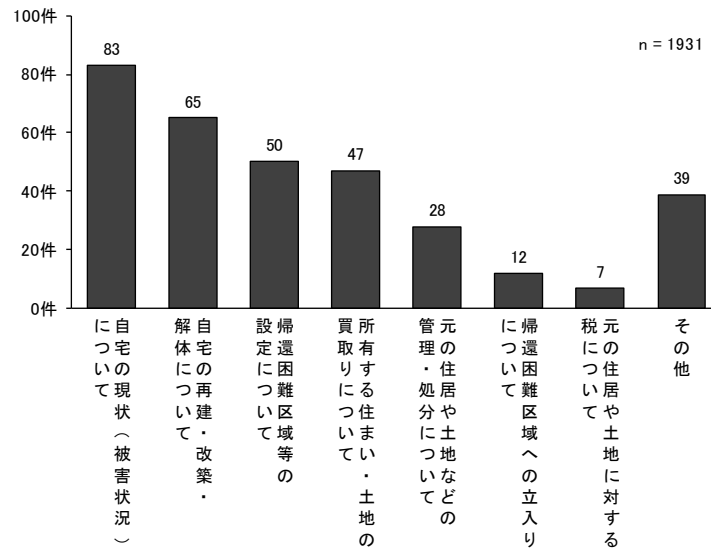
[現在の生活の健康に関する不安について]

- 福島県で小さな子供と一緒に生活する時に、また次の妊娠を希望する時に、どうしても放射線量の影響は大丈夫と言われても気になります。(30代)
- 避難開始の2日前に心筋梗塞の手術完了し、退院し、すぐに避難生活に入った。その後、心筋梗塞の再手術を受け診察をしながら体調管理をしている。避難生活が長引き、健康管理が大変である。私の自宅の家屋修繕をしながら、帰還時期を待っているところです。富岡町への帰還を望んでいる方々もいると思いますので、安心して帰還できるようお願いします。(60代)
- 3ヶ所に避難しているので家族の絆がほとんどない。孫の顔などが見たことがない。子供は部活で毎日土・日曜日が練習なので、仙台といわき2ヶ所で本当に困っている。いろいろ自治会で催しがあっても足がないので、そういう場所に行きたくても行くことができない。何とか早く富岡に帰りたいけれどストレスがたまり、精神的な病気が次から次と増えていくばかり。頭、目、歯、胃腸炎、毎日下痢が続くので医者に見てもらおうと、「それはストレスからきています。」と言われ、大腸を調べてもらっても異常なしと診断され、本当に困っている。富岡町に帰るまでは80才になる。早く戻してもらいたい。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の現状（被害状況）について」が83件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が65件、「帰還困難区域等の設定について」が50件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の現状（被害状況）について】

- 一日も早い復興を願っています。月に一度の割合で一時帰宅をしていますが自宅は目に見えて傷んでいます…。何かをしたいのですが何をしたいのかわからず、情けなくなるばかりです。（50代）
- 現時点で帰町できる状況になく、地震による損傷が半壊未済の場合には、国による解体もされないとされている。一時帰宅時に確認するたび、盗人や動物の侵入の痕跡があることや、換気されない状況から室内の傷みも進んでいる。（60代）
- 元の持ち家（自宅）がネズミ等、カビに汚損され避難生活の長期化にともない劣化し、現在住める状況ではないから、将来は解体して、解除後は自宅を建て替えたいと思っている。（70代以上）

【自宅の再建・改築・解体について】

- 帰還できる日が来れば、今の持ち家（富岡町）のリフォーム（家の中はネズミで荒らされている）を早急にしたい。（30代）
- 家の汚損、劣化により住める状況でない家屋を避難先で維持、管理するには無理があるため、今後の住まい確保と平行して、震災発生時に居住していた持ち家の早期解体を願いたい。（50代）
- 家の建て替え解体費用を含め、賠償はしてもらってはいません。解体をすると廃棄物が出るし、解体業者のコストアップ等もあり、莫大な解体費用が要求されると思われます。私の家は外観的には健全性を保っていますが、部屋の内部汚染があり、ネズミの発生、ダニ、カビ等の二次的な被害で住める状況では有りません。帰還して家を建て替える場合には、是非、国が解体してくれることを強く希望します。解体をしてくれないと、荒廃した家だらけの富岡になってしまうと思います。（70代以上）

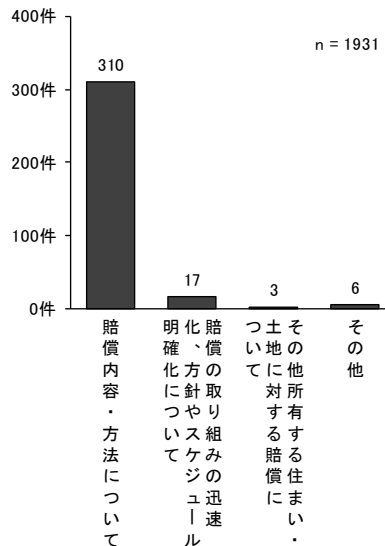
[帰還困難区域等の設定について]

- 一つの町の中で区域を分けているのがおかしいと思う。今まではどこかだけ入れないということはなかったのだから、区域を分けなくて一律にすべき。(10～20代)
- 区域縮小が早すぎる。早期復興より安心安全を優先してほしい。政府、町発表はまだ信用出来ない。(40代)
- 行政(役場)側が住民の意見を無視した(担当者が強引)考えで区分けを決めた。その上で住民同志の仲が悪化し、結果的に補償内容が変わってしまったことを現実を受けとめて、行政が行った事は行政で責任を取ってほしい。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が310件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が17件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 一律賠償及び就労不能損害について、3年もあれば昇給もしていたはずの差額分が、反映されていないのはなぜなのか。(30代)
- 1人暮らしをしていた人は、現在の賠償では家を作る事は難しい。1人だから小さな家で良いと思って欲しくない。1人暮らしでも子供や孫が来て泊れる状態、年老いた親を看るための間取りなど、せめて富岡の家ぐらいの広さは欲しいものです。(50代)
- 土地購入、家の新築等に必要な補償がほしいです。現在では長男家族との同居の為に、二世帯住宅を望んでいるが、資金がなく苦慮するも、解決策が見えないために思案中です。贅沢するつもりはありません。年齢的に銀行等の融資はされない年齢です。せめて、東京電力からの補償しか現在は考えられません。(60代)

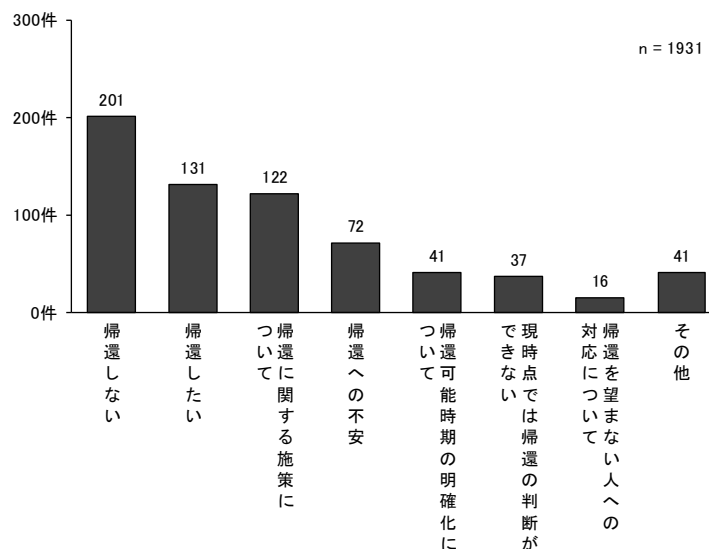
[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について]

- 新たな生活が始まっているので、戻れない家の今後の賠償も含めて早く結論を出して欲しい。(30代)
- 本当は1日も早く賠償金をもとに、便利な所に小さな住宅を求めて、残り少ない限りある人生を静かに穏やかに暮らしたい思う日々です。(70代以上)
- 高齢のため、一秒でも早く気持ちがはっきり決められる様に、賠償も毎月もらえる様に、政府ももっとスピード感を持って対処してほしい。こちらは時間がないのだ。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還しない」が201件と最も多く、次いで「帰還したい」が131件、「帰還に関する施策について」が122件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還しない】

- 震災から3年がたって新しい環境・生活に慣れてきたのに、帰還したいと思わない。国や自治体は、元の場所へ戻そうとしているが、もう3年もたっているのに無理ではないのか？震災前の生活には、もう戻れない。(30代)
- 避難生活中に父が亡くなり、母と2人の生活になった。私自身障害者で、病院が無ければ生活できない状況であり、いつ医療環境が整備されるかわからないので、富岡には帰らないと決めた。(50代)
- 安心して生活ができるようになるまで、あと何年必要なのか。持ち家は住んでいないことから劣化する一方です。若い人が帰らないので、年寄りだけが帰ってもどうしようもない。果して町としてなりうるのでしょうか。復旧スケジュール等も、具体的に示す必要があるのではないのでしょうか。「現時点で戻らないと決めている」のではなく「戻れない」のです。(60代)

【帰還したい】

- 自宅が帰還困難区域であるが、自宅はそのまま残っている。帰りたい。子供との大切な時間を返してほしい。(40代)
- 早く元の生活に戻りたいと思っております。しかし自営業だった為、富岡町に帰っても仕事ができるかわかりません。またにぎやかな町になる事を祈っております。復興に関係している皆様、頑張ってください。帰還できる日を楽しみにしています。よろしくお願いします。(60代)
- 私は1日も早く富岡(自宅)に帰宅する事以外は、他に志向が無い。除染し1日も早く帰る日を望む。(70代以上)

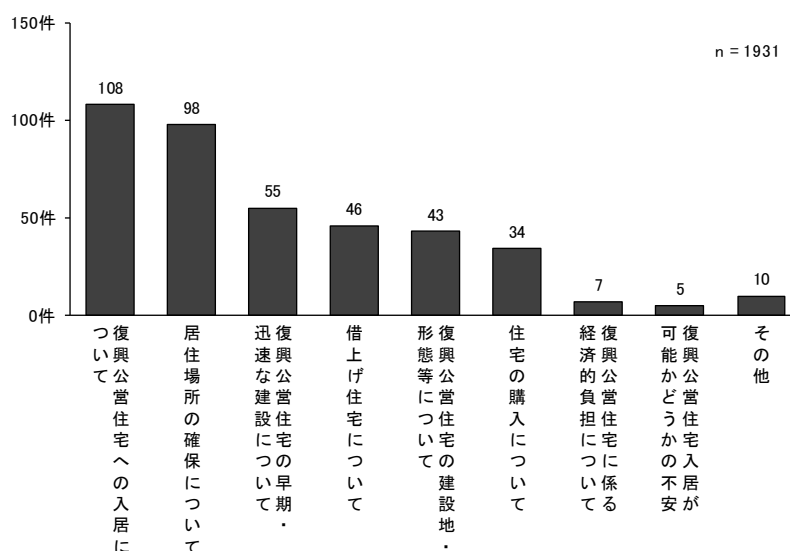
[帰還に関する施策について]

- 帰そう帰そうとなっていますが、放射能、汚染水のもっと問題のある所に、かわいいわが子を連れて帰れますか？福島にいていいのかも分かりません。もっとちゃんと考えてほしい。(10～20代)
- 単に線量が下がったから、インフラが整備されたから等の理由で、勝手に帰還しなさいなどと言わないで欲しい。現在もなお第一原発は収束できていないし、廃炉完了まで何が起こるかわからない。世界中でこの状況の経験がない未知の世界である。(50代)
- 国は帰還ばかり強制している様ですが、町民が帰還するにはどのような支援が必要か、又帰還しても元の生業の生活できるのか、全く予想がつかないているのが現実です。国は今すぐにではなくゆっくりと時間をかけて、帰還させる様な施策して欲しいです。廃炉作業が終了してからも遅くはないと思います。(60代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅への入居について」が108件と最も多く、次いで「居住場所の確保について」が98件、「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が55件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅への入居について】

- 現在の復興公営住宅は、地域によって入居者を分けているので、福島市に仕事で避難している富岡町の私は、入りたいけど入れない状態です。(40代)
- いわき市内での復興公営住宅へ入居を希望していますが、室内犬がいるためにうまくいきません。同居可能な公営住宅の発表が遅すぎます。地区名の中にペット可の住宅地名を明記して下さい。住宅確保が最優先で一日も早く調整ではなく、発表して下さい。優先世帯でもなく、単身世帯でペットがいるので、被災弱者となっており大変困っています。条件の最悪な町民がいる事も忘れないで欲しい。(60代)
- 自宅は現在帰還困難区域で、第1回目の住宅抽選にもれ新たに申し込むつもりですが、身体障害者1級でありながら抽選にもれたことは納得がいかず不満に思っている。(70代以上)

【居住場所の確保について】

- 富岡町にあった持ち家については、賠償金をもらったが家のローン分だけである。現在、民間賃貸住宅に家族5人で住んでいるが、そろそろ家主が戻ってくるか、家を売りに出そうと考えているらしく、今後の家を考えなければならない。家を購入したくても、子供達が転校しない土地を探すとすると賠償だけでは足りずに困っている。(30代)
- 賃貸住宅に居住していたが、平成26年頃に富岡町内に一戸建を購入して老後を過ごす予定でいたが、帰還できなくなり、現住のさいたま市で住宅購入を望んだが、富岡町内の価格に比較すると2倍近いため、購入できない。不動産を持っていなかった者に対する、移住のためのバックアップが不十分であるので、この点を改善して欲しいと思います。(50代)
- いわき市に住んでおりますが、土地が高くなってきて家を建てる事が難しいです。倍ぐらいになり消費税も8%となり、自宅を新築するのは難しくなりました。早く復興住宅(ペット可)が出来て入居して落ち着いた生活をしたいです。(60代)

Ⅲ 調査結果

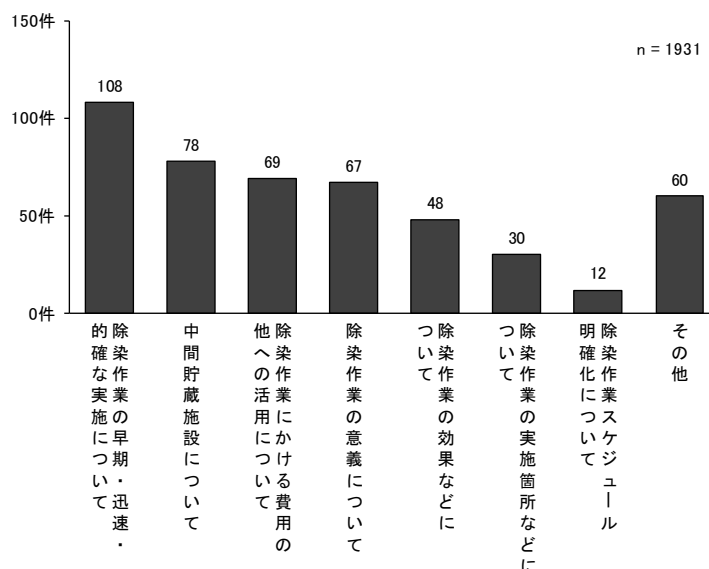
[復興公営住宅の早期・迅速な建設について]

- 復興公営住宅（三春）に入居希望でしたが、行政側の準備期間が長すぎて、土地を買い新築を建てる契約をしてしまいました。進み具合が遅すぎます。（30代）
- 復興住宅整備の遅れがあまりにもひどい。いわき市に集中される事が予想されるにもかかわらず、まったく進んでいない。（60代）
- 一部屋で寝て、起きて、食事をしての生活は、考える以上に惨めなものです。高齢者は民間の賃貸住宅にも入れません（断られます）。その意味でも、復興住宅が早く出来る事を願っています。（70代以上）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が108件と最も多く、次いで「中間貯蔵施設について」が78件、「除染作業にかかる費用の他への活用について」が69件などとなっている。

＜図表3-4-7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 軽々しく「除染」という言葉を使っていますが、結果が伴わないものは除染ではなく単なる「清掃」です。年間1msvを考慮した上で除染目標を設定し、目標をクリアするまで「再除染」を行ってほしい。除染のマネごとならお金のムダづかいなのでやめてほしい。(40代)
- 現在の除染技術では、元に戻る様なことは無いのではないかと。一時的には下がるが又数値が上がるのは、技術なのではなく無理ではないか。元に戻るなら除染も良いと思うが無理。(50代)
- 歴代の総理大臣が「福島の復興なくして日本の復興なし」と言っているが、現状をみるに、風化の色が濃くなっているように見える。復旧、復興の前提となるのは、何といたっても除染であり、まずは完全な除染の実施をお願いしたい。(70代以上)

【中間貯蔵施設について】

- 現在、中間貯蔵で進めているが、最終処分場とすべきである。なぜなら、一度汚染した土地を線量低下させるのがまず不可能。汚染物質を全国に拡げて汚すのはおかしいと考える。他の原発から発生するであろう汚染物質も、双葉郡内で貯蔵すれば国土を汚さないですむ。(40代)
- 双葉地区の一日も早い復興を願う。そのためには中間貯蔵施設を建設して、作業を進める努力を加速する必要がある。大熊・双葉、富岡町は、国が全て買い上げて他の地域へ移り住むための手続きを進めるのがいいのではないかと。地域除染に無駄に多額の金をかけるのではなく、そういう方向に進んでほしい(60代)
- 30年以降の搬出を前提に中間貯蔵としているが、そのようなゴマカシの話は止めるべきと考える。30年以降の持ち出しの法制化の話をするが、30年以降の人達をしばる法律があろうはずがなく、全く、我々を愚弄した話である。永久貯蔵施設とならざるを得ない事を認めた上で、土地収用法を制定し、それに見合った金額を支払っていく事が、政事責任と考える。いつまで、現実から逃げ続けるつもりか。(60代)

Ⅲ 調査結果

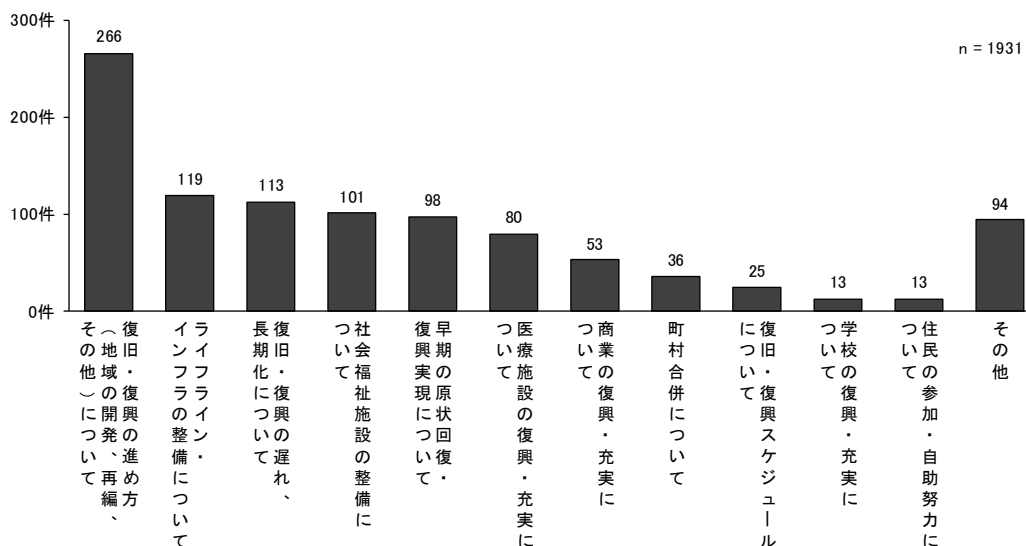
[除染作業にかかる費用の他への活用について]

- 戻らないと決めた家の除染費用がもったいないので、除染はしなくてもよい。(40代)
- 除染しても、安心して暮らせる生活の除染は不可能(特に森林地域)と思っている。無駄な除染出費をせず、その費用を避難者に賠償して、移転費、住宅確保費用に当てた方がよいと考えております。(60代)
- 今の情勢から判断すると、とても復興は遠く感じます。除染等で湯水のごとくお金を使うなら、汚染物質置場とし年寄りに期待を持たせる様な事がない様に、町全体で移住するなどの考えもあってよいのでは…。不透明な感が拭えない。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再建、その他）」についてが 266 件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が 119 件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が 113 件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 非常に難しい問題が山積みだと思いますが、町に戻りたいと考えている方々や、まだ今後の居住地を決めかねている方々は、一刻も早く将来の富岡町の存り方を示してほしいのだからと思います。方向性が見えないのでは、決断のしようがないと思います。現在は町村単位でしか復興計画を作成していませんが、いっそのこと町や村の垣根を越えて、新しく「双葉市」を作るぐらいのつもりで計画を進められないのでしょうか。「震災前に戻る」ことは、厳しいことを言うようですが無理でしょう。新しく若い世帯が住みやすい街づくりをしなければ、自治体に未来はありません。「元通りにすること」に囚われず、双葉郡が一丸となって、新しい「双葉郡」の存り方を模索して頂きたいと思います。(30代)
- 学びの森の復活を願っています。文化の再生も町復興の重要な要素と考えます。(50代)
- 日本全体が人口減少にある中で、被災地はどこも同じ悩みをもっている訳で、今度の原発の被災地は大変であることは言うまでもないと思う。働き盛りの人達をいかに地元に戻せるか、特区を作り、既成概念にとらわれず、広い見地から専門家の英知を拝借するしかないと思う。(70代以上)

【ライフライン・インフラの整備について】

- 私は原子力発電所に勤務しており、富岡町へはおそらく単身で戻ることになると思います。先日、久しぶりに自宅へ戻りましたが、広い庭や自宅を見て、やはり住み慣れた家は良いなと思いました。早期に上下水道が整備されれば、家の修復も進むかと思っています。(40代)
- 富岡町にアクセスする道路（県道・国道・高速道路）の拡張整備を早急に実施して欲しい。そうすることによって、一時帰宅がスムーズに出来るし、また、富岡に戻ったとき、緊急時の避難が前の事故時のように渋滞し、ガス欠の心配をせずすむ。富岡町の復興はまずは道路の完備だと思います。(60代)
- 社会基盤（インフラ）復旧、働く場所確保、働く場所が無ければ若者は戻らない。若者が戻らなければ老人だけ戻っても生活が成り立たない。我々の年齢になると心配は病気、その為には総合病院などがあれば安心して生活が出来る。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

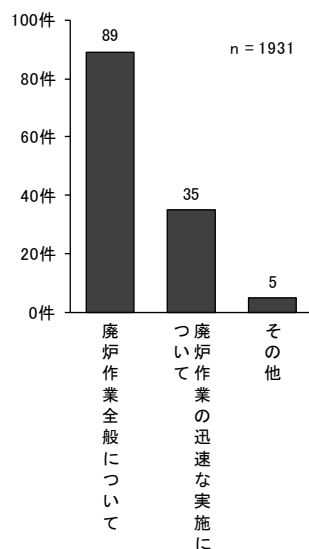
[復旧・復興の遅れ、長期化について]

- 復興のスピードが非常に遅い。このペースだといつになったら富岡町が、双葉郡が息を吹きかえすのだろうか…と、スピードが遅いことで戻る気持ちも失せてしまう人々が多いと思う。(40代)
- 復興住宅にしてもそうですが、復興に関するすべてのことが遅れています。このまま、何年、何十年と過ぎていき、地元へ帰還できるころには、誰もいなくなるのではないのでしょうか。双葉郡、富岡町がなくならないように、早目の復興を祈っています。(50代)
- 町がだんだん荒廃している様は帰る度に気が沈む。復興作業何事も早くスピード良く進めてほしい。帰りたいけど帰れない。くやしい。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が 89 件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」35 件などとなっている。

＜図表 3-4-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

- 富岡町のみならず、国の将来のためにも日本の英知を集結して、廃炉作業を推し進めて頂きたいと思えます。(50代)
- 廃炉作業は国が前面に出てやるべきだと思います。土は凍らない。地下水は止まらない。原発の燃料は圧力容器から溶け落ちている。国はもっと真剣に考えてもらいたいです。道路事情もひどいと思えます。(60代)
- 除染するのが良いといっても、廃炉にする際、炉心を取り出す時、溶け落ちてしまった炉心を取り出した、いろいろな作業でミスが起きることは絶対ないとは言えないと思う。そうなった時、帰還したばかりで又避難することになるのではないのでしょうか。(60代)

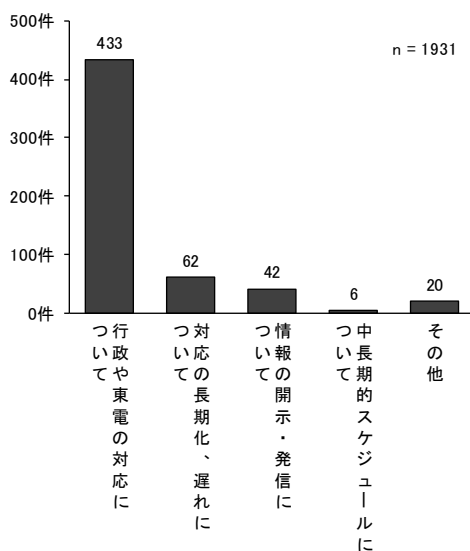
【廃炉作業の迅速な実施について】

- 震災後、他県で職に就き生活をしています。正直、「戻りたい」という意志の前に、仕事や将来の事を考えると、今の生活で手いっぱいな状況なだけです。生活を再建した今、リスクの大きい場所に戻り、将来子どもを育てたいかという育てたくはないし、生活も放射線量を考えると住みたいとは思えません。それよりも、東電の原発の状況を一早く、安全にしてほしいという願いのみです。地域の再建や復興より汚染した原発を何とかしてほしいです。(10～20代)
- 廃炉作業も手付かずの状況の中では、安心して富岡町で生活することはできません。国も住民のために様々な政策をしていると思えます。そのことに感謝はしていますが、「復興」の声が高らかに叫ばれていますが、「廃炉」が進まない中では子を持つ親は動くことができません。是非、廃炉作業を確実に進めていき(国が中心となって)、安心できる町作りをしていただけたらと思います。(40代)
- 一日も早く第一原発・第二原発を全て廃炉にして頂きたい。未だ放射能が漏洩しているのに、除染しても無駄ではないのでしょうか？被災して3年5ヶ月苦痛な生活をいつまで続くのですか？。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が433件と最も多く、次いで「対応の長期化・遅れについて」が62件、「情報の開示・発信について」が42件などとなっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 国や東電にこそ、私達の立場をどう考えているのか聞いてみたい。目と鼻の先に内部の状態もわからない原発があるのに、平気で帰る時期を決めている。手さぐりのほとんど綱渡りの様な廃炉作業。まったくもって信用できない。時間だけが過ぎていく。仕事もなくし、住む所もなくし、何年たってもお先真っ暗だ。絵空事のような帰町宣言にしか思えない。町に帰りたい気持ちはあるが、果たして本当にそんな日はくるのだろうか。帰町に向けての色々な事にかかるお金は、無駄にならないのだろうか。放射能の数値だけで何でも決めないでほしい。(40代)
- 私達に、原発の事故に対する責任はあるのでしょうか。責任は東京電力と国にあるはずですが。2度と避難民を出さない政策を国へ、そして東京電力へ要望したいと思っています。そして仮設住宅に住んでいる人々が、1日も早く仮設を出て生活できる状況を作してほしいと思っています。(60代)
- 国は復興よりも、オリンピック開催や、グローバル経済を考え多くの国を訪問し、経済支援と助成を約束しています。海外のニュースを見てみると、ヨーロッパや米国の人が、福島原発事故に関心を深めているように思います。国の指導者(自民党)の多くが、国民一人ひとりの小さな幸せよりも、何事もお金で解決しようとする気持が残念です。憲法を読み込み、専門の学者の話に耳をかたむけると、本当に日本は民主主義の国なのか疑問に思います。国家財政は厳しいにもかかわらず、必要以上の予算が組まれ、国民にわかりづらい税金の仕組みは亡国に繋がるのではないかと心配です。(70代以上)

【対応の長期化、遅れについて】

- 3年5ヶ月が経った中で、除染や復旧だけが進んでも、地元について帰れて、どんな地元になって行くのかも、全く見えてこない。そもそも、国や行政も住民帰還に向けてのアンケートをこれまで行って来て、月日が過ぎていく程に、住民は戻って来ないとの結果が出ているのにも関わらず、本当に富岡町単体として行政運営を行っていけると考えているのか。(30代)
- 福島第一の現段階での汚染水、建屋の汚染状況が、いつになったら完了するのか。トラブルばかり起こしている現状で本当に戻れるのか。(60代)
- とにかく復興の先がみえない。いろいろと説明会として出席するも、意図する事は伝わって来ません。これから先何年待つのかと思う。御意見を聞きたいと何回やっても、なかなか進まない様に感じます。3年が過ぎています。1日も早くゆっくりと暮らしたいと思います。(70代以上)

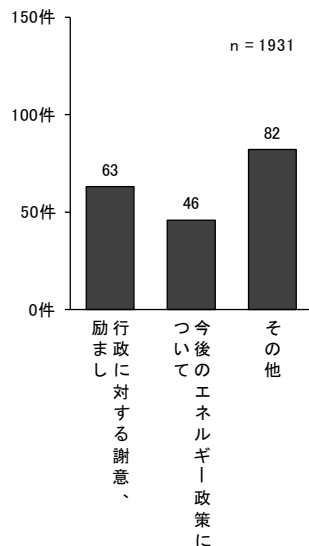
【情報の開示・発信について】

- 極端に敏感になる必要はないと思うが、事実を伝えてほしいものだと痛切に思う。考え方、受けとめ方は人それぞれで、事実を知りそれぞれに判断できるようになれば良いと思うが、簡単にはすまない事なのだろうとも感じる。今後、同じ郷の人(友人)たちと、戻る戻らない等ではいがみ合うことがない事を願う。(30代)
- データをきちんと出してくれば判断できるが、今の状況は全く不明。正確な安全な基準もなく、一方的に進めている。お金がないから住む所も予測も立てられない。国も東電も目先のことばかりで、将来像が見えない。多分原発をコントロールするのは不可能と思っています。(60代)
- 事故発生当初、東電(メルトダウンは無い)も政府(直ちに放射線が健康を害しない・放射性物質の拡散方向)も、事実をひた隠した。戻ったにせよ、“同様の事故が起こらない”とは何人も断言できないだろう。そんな時に隠して、ウソの情報を流されたら、何のために帰還したのか分からなくなる。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が63件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が46件などとなっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 私達のために多くの方が色々な事を考えて下さり、ありがとうございます。4人の子供達が、そして主人が各々の場所で笑ったり泣いたり過せていることに感謝しています。(30代)
- 未曾有の震災の中での対応お疲れ様です。今回の事例は1行政で対応できるレベルの災難ではないはず。広域的に節度を持った対応ができないのでしょうか。補償の話だけで、全く将来がみえないのは、行政、議会側にも責任があるはず。町が消滅するかの瀬戸際にあることをしっかり検証し、危機意識を持って対応願いたい。後世に笑われない様、よろしくお願いします。(50代)
- 私の本心は富岡町へ帰りたいたいです。病院、道路、水道等生活する上で、すべてが復興した時私が元気でしたら、その時は又お墓参りに行きたいです。原発の中で私達を守るために働いている方達や、そして復興を目指して日夜働いて下さる皆さんに感謝致します。ありがとうございます。私も齢に負けず元気で頑張ります。(70代以上)

【今後のエネルギー政策について】

- 私は電気料金が上がるのが嫌なので原発稼働は賛成です。しっかりと対策を取ってれば、地震や津波に耐えられる事は分かっているので、どんどん開発を進めて欲しいです。私の人生はまだ60年以上あり、今後もっともっといろいろな事が起きるでしょう。変わっていく日本を見たいです。(10~20代)
- 原発が無くとも生活できる(現に夏をのりきっている)。原発に頼れば再生エネルギーが進歩しない。1Fが運転して40年間、津波・地震対策を国や東電は何もしなかった。元原発作業員としての意見です。(30代)
- 危険な状況の中、復興のために力を尽くして下さる方々の事が心配です。将来の健康の保証は本当に有るのですか。これ以上犠牲者を増やしたくない。原発はいらぬ、安全なエネルギーに替えてほしい。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

富岡町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、富岡町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。

ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

- ・調査票は記名式でお願いしております。最終ページに「住所」「連絡先」の欄がありますが、強制ではありません。差し支えがなければご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、富岡町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**8月22日（金）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-955-028

[設置期間：8月11日（月）～8月22日（金）10時～17時]

土・日・祝を除く

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問3へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問3へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 公務員 |) |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった地区について教えてください。

(1) 現在どの避難指示区域に当たるかを教えてください。(○は1つ)

1. 避難指示解除準備区域
2. 居住制限区域
3. 帰還困難区域

(2) 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|---------|---------|-------------|
| 1. 杉内 | 9. 赤木 | 17. 下郡山 | 25. 小良ヶ浜 |
| 2. 仲町 | 10. 上本町 | 18. 毛萱 | 26. 栄町 |
| 3. 高津戸 | 11. 王塚 | 19. 仏浜 | 27. 新夜ノ森 |
| 4. 下千里 | 12. 本町 | 20. 駅前 | 28. 不明 |
| 5. 大菅 | 13. 岩井戸 | 21. 西原 | (わからない場合は住所 |
| 6. 夜の森駅前北 | 14. 清水 | 22. 中央 | を記載してください) |
| 7. 夜の森駅前南 | 15. 上郡 | 23. 小浜 | 〔 〕 |
| 8. 新町 | 16. 太田 | 24. 深谷 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 10. その他 |
| 5. 公営住宅(一戸建) | (具体的に |
| 6. 公営住宅(集合住宅) | 〔 〕 |

避難状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町</p>	<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町</p> <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村)
		<p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (都・道・府・県) <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村)

【すべての方にかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【すべての方にかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

福島県における原発避難者向け復興公営住宅について

◆富岡町民を入居対象とした復興公営住宅の整備を予定している地区と戸数

(地区・戸数は、現時点のものであり、今後変更になる場合があります。)

受入自治体名	地区名	予定戸数	富岡町	大熊町	双葉町	浪江町	飯館村	南相馬市	備考
福島市	飯坂	8	8						平成26年秋募集予定
	(調整中)	68	68						
郡山市	富田町2	40	40					平成26年秋募集予定	
	富田町3	34	34						
	富久山町2	20	20						
	富田町4	40	40					平成27年春以降募集予定	
	安積町笹川	35	35						
	鶴見坦一丁目	30	15		○				
	田村町岩作	80	80						
安積町笹川2	20	20							
いわき市	平八幡	12	12						平成26年秋募集予定
	小川町家ノ前	53	53						
	小川町小路尻	30	30						
	小川町上代	50	50						
	勿来酒井	10	10						
	北好間中川原	290	120	○		○		平成27年春以降募集予定	
		10	10						
	小名浜大原	50	10	○					
	泉町本谷	250	100	○		○			
	常磐下湯長谷	150	100			○			
	四倉町上仁井田	150	50			○			
平赤井	50	50							
(調整中)	110	30	○						
	15	15							
白河市	鬼越	10	10						平成27年春以降募集予定
二本松市	(調整中)	20	20						
南相馬市	鹿島	50	50						平成27年春以降募集予定
大玉村	横堀平 (大玉村営)	67	67					現在募集中	
三春町	平沢	92	87	○	○			平成27年春以降募集予定	
広野町	(調整中)	30	10	○					
		10	10						

※ 「○」→共通入居の町

◆入居の申込み先と問い合わせ先

福島県復興公営住宅入居支援センター ☎ 024-522-3320

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在、福島県は 6 頁に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません

1. 既に当選または入居が決定している	} ⇒問 8-1 へ
2. 入居の申し込み中である	
3. 今後、入居申し込みしたい	
4. 現時点では判断できない ⇒問 9 へ	
5. 入居を希望しない ⇒問 8-4 へ	

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方(問 8 で「1」、「2」、「3」と回答した方)にうかがいます。】

問 8-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

(1)自治体名を教えてください。

		<1世帯目> (○は1つ)	<2世帯目> ※1 (○は1つまで)
生活拠点を整備中 又は検討中の市町村	1. 福島市	1	1
	2. 会津若松市	2	2
	3. 郡山市	3	3
	4. いわき市	4	4
	5. 白河市	5	5
	6. 二本松市	6	6
	7. 南相馬市	7	7
	8. 大玉村	8	8
	9. 三春町	9	9
	10. 広野町	10	10
現在受入の計画がない市町村	11. 川内村	11	11
	12. 檜葉町	12	12
13. その他の市町村 ※2	13()	13()	

※1 家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方(希望も含む。)は、<2世帯目>の列にもお答えください。

※2 13. を選択した場合は、()内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

(2)入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※現在、分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

	<1世帯目>	<2世帯目>
ア)未就学児(小学校入学前)	人	人
イ)小学生	人	人
ウ)中学生	人	人
エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人	人
オ)18歳以上65歳未満	人	人
カ)65歳以上	人	人

IV 参考資料

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 8-2 復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

1. 避難住民同士の交流会等の開催	4. 子どもの学習支援
2. 地元住民との交流会等の開催	5. 健康相談員の設置
3. 高齢者向けの見守り(巡回等)	6. その他（具体的に
	）

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問8で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 8-3 現在、ペットを飼っていますか。（○はいくつでも）

1. 室内で犬を飼っている	
2. 室外で犬を飼っている	
3. 猫を飼っている	
4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に)
5. ペットは飼っていない	

└─→ 問9へお進みください

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-4 入居を希望しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（○は1つ）

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市</p> <p>4. 広野町</p> <p>5. 檜葉町</p> <p>6. 川内村</p> <p>7. 新地町</p>	<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市</p> <p>9. 郡山市</p> <p>10. 白河市</p> <p>11. 須賀川市</p> <p>12. 二本松市</p> <p>13. 田村市</p> <p>14. 伊達市</p> <p>15. 本宮市</p> <p>16. 桑折町</p> <p>17. 川俣町</p> <p>18. 大玉村</p> <p>19. 西郷村</p> <p>20. 三春町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市</p> <p>22. 喜多方市</p> <p>23. 会津美里町</p> <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村</p> <p>→具体的に記入ください</p> <p><input type="text"/> (市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外</p> <p>→具体的に記入ください</p> <p><input type="text"/> (都・道・府・県)</p> <p><input type="text"/> (市・町・村)</p> <p>【 その他 】</p> <p>26. 決めかねている</p>
--	---	--

【問8で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問 8-5 今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に)
10. 現在のお住まい
11. 現時点では判断できない

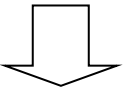
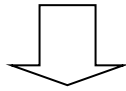
将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 9 将来、富岡町の避難指示が解除された後の富岡町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

1. 現時点で戻りたいと考えている

2. 現時点でまだ判断がつかない

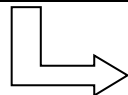


問 9-1-1 富岡町へ戻る時期を教えてください。(〇はひとつ)

1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい
5. 時期は決めていないがいずれ戻りたい

問 9-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(〇はひとつ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない



問 9-4 へお進みください

問 9-2-1 富岡町へ戻ることを判

1. 避難指示解除となる時期
2. 道路、鉄道、学校、病院などの程度の住民が戻るか
3. 放射線量の低下の目途、
4. 中間貯蔵施設の情報
5. 原子力発電所の安全性に
6. 放射線の人体への影響に
7. 働く場の確保の目途
8. 受領する賠償額の確定
9. 住宅確保への支援に関す
10. その他(具体的に
11. 現時点で家族間の意見が
12. 現時点ではどのような情報

問 9-2-2 上記「1」から「11」で重

選択肢番号	



問 9-3 富岡町

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

3. 現時点で戻らないと決めている

断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

の目安に関する情報
 どの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
 の状況
 除染成果の状況

に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
 に関する情報

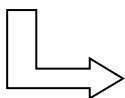
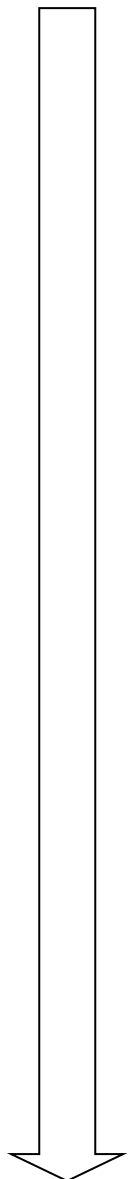
る情報

分かれており、帰還意向について回答できない
 があれば判断できるかわからない

視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

具体的な内容

との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)



問9で「2.現時点でまだ判断がつかない」を選んだ方は問10へ
 問9で「3.現時点で戻らないと決めている」を選んだ方問9-7へ

【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------------------|---|--------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | } | ⇒問9-6へ |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | | ⇒問9-5へ |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | } | ⇒問9-6へ |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | | |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | | |
| 6. 公営住宅 | | |
| 7. 給与住宅(社宅など) | | |
| 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 | | |
| 9. 親戚・知人宅 | | |
| 10. その他(具体的に | | |
| 11. 現時点では判断できない | | |

【問9-4で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

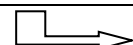
問9-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから |) |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | |
| 3. 富岡町内の新たな場所で生活を開始したいから | |
| 4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから | |
| 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから | |
| 6. その他(具体的に | |

【問9で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 富岡町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 被ばく低減対策 |) |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | |
| 3. 商業施設の再開や新設 | |
| 4. 医療、介護福祉施設の再開や新設 | |
| 5. 学校や教育施設の再開や新設 | |
| 6. 公共交通機関の再開 | |
| 7. 雇用確保・就業支援 | |
| 8. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 | |
| 9. その他(具体的に | |
| 10. 特にない | |

 問10へお進みください

【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

<p>【帰還の前提・健康に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 放射線量が低下せず不安だから 原子力発電所の安全性に不安があるから 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから <p>【町内の復旧状況に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 富岡町に戻っても仕事がなさそうだから 富岡町での事業の再開が難しいから 営農などができそうにないから 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから 富岡町外への移動交通が不便だから 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから 医療環境に不安があるから 介護・福祉サービスに不安があるから 教育環境に不安があるから 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 	<p>【今後の生活に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから 他の住民も戻りそうにないから 今後の津波被害を受ける可能性があるから 帰還までに時間がかかるから 避難先で仕事を見つけているから 今の環境で子どもの教育を継続させたいから 避難先の方が生活利便性が高いから その他 } 具体的に
--	--

【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> いわき市 相馬市 南相馬市 広野町 檜葉町 川内村 新地町 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 福島市 郡山市 白河市 須賀川市 二本松市 田村市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村 西郷村 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 会津若松市 喜多方市 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(都・道・府・県)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 その他 】</p> <p>26. 決めかねている</p>
---	---	--

IV 参考資料

【問9で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に)
10. 現在のお住まい
11. 現時点では判断できない

【すべての方にうかがいます。】

問 10 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。入居を迷っている方などに今後の居住についてご意向をお聞きしたり、復興公営住宅の進捗に応じて、復興公営住宅への入居希望をお持ちの方に希望の状況について改めてお聞きする場合がありますので、あなたの氏名のご記入をお願いします。また、さしつかえなければ、現在のご住所とご連絡先もご記入いただけますと幸いです。

なお、本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをおうかがいすることを目的として実施しております。当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 あなたの氏名を教えてください

↓さしつかえなければ、あなたの現在の住所と連絡先(電話番号)も教えてください。強制ではありません。

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
8月22日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**富岡町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 富岡町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター